

明治学院大学 履修要項

2023年度生用
～履修の方法を知るために～

経済学部

MEIJI GAKUIN UNIV.
COURSE GUIDE
2023

履修要項は再配布しません。

卒業するまで大切に保管してください。

2023年度 明治学院大学 学暦(年間スケジュール)

※最新の情報は本学ウェブサイトを確認してください。

4月入学式	【白金校舎】 4月1日(土) 10時00分 法学部, 12時30分 心理学部, 15時00分 文学部 【横浜校舎】 4月3日(月) 9時30分 国際学部 【白金校舎】 4月3日(月) 12時30分 経済学部, 15時00分 社会学部
新入生・編入生オリエンテーション 編入生単位認定	4月1日(土) ~ 5日(水)
健康診断	3月下旬 ~ 4月上旬
春学期授業開始	4月6日(木)
始業式	4月6日(木)
春学期履修登録最終期限	4月13日(木)
3年修了者卒業式	【白金校舎】 4月19日(水) 10時30分 【白金校舎】 4月20日(木) 通常チャペルアワー
新入生歓迎イ-ヌ-礼拝	【横浜校舎】 4月20日(木) 12時40分~13時30分 【※3時限 13時40分~15時00分 (10分短縮)】
戸塚まつり	5月27日(土), 28日(日)
春学期補講	週末補講[土曜日3・4・5時限] 5月13日, 6月17日, 24日, 7月1日 平日補講[下記注1参照] 5月22日(月)~6月2日(金), 6月19日(月)~6月30日(金)
春学期授業終了	7月22日(土)
春学期期末補講および定期試験	7月24日(月)~7月31日(月)
夏季休暇	8月1日(火)~9月19日(火)
夏季講座(第一期)	8月1日(火)~4日(金), 7日(月), 8日(火)
春学期追試験	8月17日(木), 18日(金), 21日(月)
夏季講座(第二期)	8月22日(火)~24日(木), 28日(月)~30日(水)
9月卒業者発表	9月5日(火)
春学期成績発表	9月7日(木)
9月卒業式	【白金校舎】 9月15日(金) 10時30分
9月入学式	【横浜校舎】 9月16日(土) 10時30分
秋学期授業開始	9月20日(水)
秋学期履修登録最終期限	9月27日(水)
独自活動に伴う休講	10月31日(火)
創立記念日(大学が定める休日)	11月1日(水)
白金祭	11月1日(水)~3日(金) 【※休講日 11月2日(木)~4日(土)】
秋学期補講	週末補講[土曜日3・4・5時限] 10月21日, 11月11日, 25日, 12月9日 平日補講[下記注1参照] 11月6日(月)~17日(金), 12月4日(月)~15日(金)
クリスマス礼拝 [注2] (チャペルライトサービス)	【横浜校舎】 12月14日(木) 16時20分~17時20分／授業短縮 【白金校舎】 12月15日(金) 18時05分~19時05分／授業短縮
降誕日(大学が定める休日)	12月25日(月)
冬季休暇	12月27日(水)~2024年1月4日(木)
授業開始	2024年1月5日(金)
大学入学共通テストによる休講	1月12日(金), 13日(土)
秋学期授業終了	1月22日(月)
秋学期期末補講および定期試験	1月23日(火)~30日(火)
秋学期追試験	2月8日(木), 9日(金), 13日(火)
春季講座	2月14日(水)~17日(土), 19日(月)~22日(木)
3月卒業者発表	3月6日(水)
秋学期成績発表	3月8日(金)
3月卒業式	【白金校舎】 3月16日(土) 9時30分 法学部, 12時30分 心理学部, 15時00分 文学部 【白金校舎】 3月18日(月) 9時30分 経済学部, 12時30分 社会学部 【横浜校舎】 3月19日(火) 9時30分 国際学部

祝日授業日

各学期の曜日毎の授業回数を確保するため、憲法記念日(5月3日), 海の日(7月17日), 秋分の日(9月23日), スポーツの日(10月9日), 勤労感謝の日(11月23日)を授業日とする。

※注1 平日補講(月曜日~金曜日)

白金校舎の7時限(20時20分~21時50分), 横浜校舎の6時限(18時40分~20時10分)を原則とするが、条件が許す場合は白金校舎6時限, 横浜校舎5時限での実施も可。

※注2 クリスマス礼拝による授業短縮措置

横浜校舎 12月14日の4時限を15時15分~16時15分(30分繰上げ終了), 5時限を17時30分~18時30分(30分繰下げ開始)とする。昼のチャペルアワーは行わない。

白金校舎 12月15日の5時限を17時00分~18時00分(30分繰上げ終了), 6時限を19時10分~20時10分(30分繰下げ開始)とする。昼のチャペルアワーは行わない。

明治学院大学履修要項 経済学部 2023 年度生用

目 次

全学共通事項

明治学院大学の目標と方針	1
人材養成上の目的・教育目標	1
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	1
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	1
はじめに	2
情報の伝達	5
学修の手引き	7
カリキュラム	9
単位制	11
履修	12
科目ナンバリングについて	16
授業	18
試験	21
成績	26
卒業と学位	29
単位認定	30
明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケイト・プログラム	32
AI・データサイエンス教育プログラム	33

学部事項

明治学院共通科目	35
明治学院共通科目の目標と方針	37
人材養成上の目的・教育目標	37
期待される学修成果	37
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	37
能力要件表（明治学院共通科目 経済学部）	39
履修上の注意	49
必修科目	50
1. [コア科目]	50
2. [言語系科目群]	50

選択科目	51
1. [言語系科目群]	51
2. [人文科学系科目群]	54
3. [社会科学系科目群]	54
4. [自然科学系科目群]	55
5. [情報処理系科目群]	55
6. [健康・スポーツ科学系科目群]	56
7. [総合教育系科目群]	56
8. [AI・データサイエンス系科目群]	57
9. [特別学科科目]	57
単位認定用科目	58
1. [短期留学認定科目]	58
2. [中期留学認定科目]	58
3. [海外インターンシップ関連科目]	59
経済学科	61
経済学部の目標と方針	63
人材養成上の目的・教育目標	63
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	63
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	63
経済学科の目標と方針	64
人材養成上の目的・教育目標	64
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	64
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	64
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連表（能力要件表）	66
1. 経済学科の方針	74
2. 専攻コース制度について	74
3. 科目の履修	75
4. 経済学科における科目の構成	78
5. 卒業に必要な単位数と科目の内訳	79
6. その他の履修上の注意	83
7. 科目一覧表	85
経営学科	93
経済学部の目標と方針	95
人材養成上の目的・教育目標	95
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	95
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	95
経営学科の目標と方針	96
人材養成上の目的・教育目標	96
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	96
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	96
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連表（能力要件表）	97

1. 経営学科の教育目標	104
2. 経営学科カリキュラムの概要 ～全体像をつかむ～	104
3. 科目の履修	105
4. 卒業に必要な単位数と科目の内訳	108
5. 学科科目 ～学べる科目は何か～	109
6. 履修の方法 ～配当年次、開講校舎に注意～	114
 国際経営学科	 117
経済学部の目標と方針	119
人材養成上の目的・教育目標	119
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	119
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	119
国際経営学科の目標と方針	120
人材養成上の目的・教育目標	120
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	120
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	120
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連表（能力要件表）	122
1. 国際経営学科カリキュラムの概要 ～全体像をつかむ～	130
2. 科目の履修	131
3. 卒業に必要な単位数と科目の内訳	134
4. 学科科目 ～学べる科目は何か～	136
5. 履修の方法 ～配当年次、開講校舎に注意～	141
 演習と卒業論文	 143
1. 演習の履修	145
2. 卒業論文の規格	146
3. 卒業論文執筆・提出にかかる注意	146
4. 演習と卒業論文別表：応募にあたっての注意事項	147
 諸資格	 149
 学部学科等の科目群・学問分野コード表	 153

明治学院大学の目標と方針

人材養成上の目的・教育目標

明治学院大学は、建学の精神すなわち「キリスト教による人格教育」と学問の自由を基礎とし、教育理念“Do for Others（他者への貢献）”を実現するため、広く教養を培うとともに、各学部学科において専門分野に関する知識・技能および知的応用能力を身につけた人間を育成することを目的とする。

このような目的のもと、5つの教育目標を定める。

- 1 他者を理解する力を身につける。
- 2 分析力と構想力を身につける。
- 3 コミュニケーション力を身につける。
- 4 キャリアをデザインする力を身につける。
- 5 共生社会の担い手となる力を身につける。

卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

明治学院大学は、建学の精神すなわち「キリスト教による人格教育」と学問の自由を基礎とし、教育理念“Do for Others（他者への貢献）”の実現を目指し、「人材養成上の目的・教育目標」に定める人間を育成するため、次のとおり「卒業の認定・学位授与に関する方針」を定める。

以下の能力を身につけ、各学部学科に所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し学位を授与する。

- 1 〔知識・理解〕 他者への洞察力を養い人間の多様性を理解するため、歴史、文化、社会、自然、健康などに関する幅広い教養および専門分野に関する基本的知識を有し、これらを体系的に理解する力を身につけている。
- 2 〔汎用的技能〕 知識を獲得し、これを活用することにより人間を取り巻く諸現象を分析し、よりよい社会を構想する力とともに、自らの考えを他者に伝えることのできるコミュニケーション力などの技能・応用能力を身につけている。
- 3 〔態度・志向性〕 大学での学びを通じて、主体的に自らの将来を切り拓き、社会に生起する問題に積極的に取り組む責任感、倫理観、協働性など他者と共に生きる力を身につけている。
- 4 〔統合的な学習経験と創造的思考力〕 在学期間を通じて獲得した知識・技能・態度などを総合的に活用し、自ら課題を発見しこれを解決する能力を身につけている。

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

明治学院大学は、「卒業の認定・学位授与に関する方針」に掲げる知識および能力を修得させるために、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

- 1 他者と共に生きることのできる人材を育成するために、専攻する学問分野にかかわらず卒業までに共通して身につける「明治学院共通科目」と専攻する学問分野に応じた「学科科目」とを開設する。
- 2 「明治学院共通科目」および「学科科目」双方を4年間にわたって関連付けて学ぶことができるよう、履修の機会を提供する。
- 3 初年次導入教育から学年進行にしたがって体系性・順次性をもって編成し、履修科目に応じて講義、演習、実習等の授業形態を採用する。
- 4 授業は、その内容に応じて最適な効果を得ることができるよう効果的な教育方法をもって展開する。
- 5 学修成果の評価にあたっては、あらかじめ定められた評価方法および評価基準により、適切にこれを行う。

はじめに

履修要項は、大学における学修のルールや履修についての規則、卒業に必要な単位など重要な事項を記載しています。配布は入学時のみで、卒業するまで使用しますので、学生ひとりひとりが掲載内容について熟読のうえ、大切に保管し、活用してください。

卒業までの間、新規科目的開設、科目的廃止、卒業要件の変更など、変更が生じる場合があります。変更時は、在学生用ポータルサイトPort Hepburn（ポートヘボン）にてお知らせします。

教務部案内

教務部では、授業・履修・成績の相談、学生証の再発行、住所・保証人・氏名の変更、転学科試験、学籍関係の相談（休学・復学・退学・再入学）等を取り扱っています。

どうしたらよいか迷った時は次頁の「こんな時どうする？」を参考に教務部にご相談ください。

教務部の場所

白金校舎：本館南ウイング2階

横浜校舎：1号館1階

教務部窓口事務取扱時間（2023年度）

実際の取扱時間とは異なる場合がありますので、最新の情報は本学ホームページより
「窓口事務取扱時間」をご確認ください。



<https://www.meijigakuin.ac.jp/office/educational/schedules.html>

	白金校舎		横浜校舎	
	月～金	土	月～金	土
授業期間	9:30～11:45 12:30～17:00	9:30～11:45	9:30～11:45 12:30～16:30	9:30～12:00
授業期間外	9:30～11:45 12:30～16:00	9:30～11:45		

問い合わせや相談は、原則下記のとおり受け付けます。

【文学部・経済学部・社会学部・法学部・心理学部の各学部生】

1～2年次：横浜教務課

3～4年次：白金教務課

【国際学部生】

すべて横浜教務課

こんな時どうする？

※明治学院大学 時間割公式アプリ内のチャットボットでも教務関連の問い合わせに回答します。

※表中、「教務部窓口」に「届け出」あるいは「提出」と記載のあるものについて、内容によってはメール等で受付を行うことがあります。手続きの際には、事前に最新の方法を確認してください。

こんな時	どうする？
学生証を紛失した★	初めに、落とし物として学生部に届出がないか確認してください。届出がない場合、教務部窓口で「学生証再交付願」に記入し、届け出してください。翌日交付します（ただし、事務休止日を除く）。手数料は1,500円です。
住所・電話番号を変更した★	「教務Web」上で変更の申請を行ってください。古い届出のままでは、大学からの連絡・配布物が届かなくなるので、必ず手続きしてください。（保証人の住所・電話番号変更の場合も同じ）
保証人を変更した	「保証人変更届」に記入し、教務部窓口へ届け出してください。保証人の変更は、新保証人の方の署名・捺印が必要です。
氏名を変更した★	「諸事項変更届」に記入し、変更の内容と変更日を証明する書類（戸籍抄本等）を添えて教務部窓口へ届け出してください。また、学生証も再発行しますので、上記「学生証を紛失した」に準じて手続きしてください。
転学科試験を受験したい	所定の願書（保証人連署）に記入し、教務部窓口に提出してください。提出期日はPort Hepburnにて通知します。審査料は35,000円です。
休学したい★	病気その他の事情により授業期間中に引き続き2ヵ月以上登校困難な場合は、休学を願い出ることができます。保証人連署・捺印済の「休学願」および事由証明書を期日までに提出し、教授会の許可を受けなければなりません。休学の期間は1学期または2学期です。なお休学期間は在学年数に通算されません。提出期日は、 <u>春学期が5月末日、秋学期が11月末日</u> です。
復学したい	休学している者が復学を願い出る場合は、期日までに保証人連署・捺印済の「復学願」を提出し、教授会の許可を受けなければなりません。提出期日は、 <u>春学期が2月末日、秋学期が8月末日</u> です。[留学生は提出期日が異なります]
退学したい★	退学を希望する者は、期日までに保証人連署・捺印済の「退学願」を提出し、教授会の許可を受けます。ただし、その学期分の学納金を納入しなければなりません。提出期日は、 <u>春学期が9月20日、秋学期は3月末日</u> です。
再入学したい★	願い出により退学した者は、退学した日が属する学期の次の学期から数えて6学期以内、学納金未納による除籍者は、除籍となった日が属する学期から数えて6学期以内に再入学を願い出た場合、選考の上許可されることがあります。再入学の手続きは期日までに保証人連署・捺印済の「再入学願」を提出し、教授会の許可を受けなければなりません。再入学を許可された者は、再入学期および再入学する学期の学納金を再入学前の指定された期日までに納入してください。提出期日は、 <u>春学期が2月末日、秋学期が8月末日</u> です。[留学生は提出期日が異なります]

こんな時	どうする？
授業を欠席した	<p>本人の病気、怪我または忌引（3親等以内）、裁判員等の候補者に選出され呼出しを受けたことにより授業を欠席した場合に限り、欠席連絡票の発行ができます。まず、担当教員に必要な有無を確認してください。必要な場合は、所定用紙に記入の上、欠席事由を証明する書類（病気・怪我→医療機関の発行した証明書（診断書・治癒証明書など）、忌引→死亡診断書・会葬礼状・葬儀案内など、裁判員等の候補者→呼出状・招集状など日時のわかる書類（いずれもコピー不可））を添付し、教務部窓口に届け出てください。教務部への電話連絡は不要です。</p> <p>なお、学校感染症に罹患した場合（新型コロナウイルス感染症の濃厚接触を含む）は、「学修の手引き」の授業『7. 学校感染症に罹患した場合（新型コロナウイルス感染症の濃厚接触を含む）』を確認してください。</p>
定期試験を欠席した	大学が追試験申込事由として掲示した理由で定期試験を欠席した場合は、追試験を申し込むことができます。所定の申込用紙に記入の上、欠席事由を証明する書類を添付して、教務部窓口に提出してください。追試験の実施要項はPort Hepburnに掲示します。詳細は、「学修の手引き」の追試験の項を確認してください。
学納金を期限までに 払えない	学納金を期日内に納入できなかった場合、延納の手続きについて郵送にてお知らせします。同封されている学納金延納願を期日までに提出してください。
在学証明書、成績証 明書がほしい	<p>各校舎に設置された「証明書自動発行機」を利用してください。「証明書自動発行機」の利用には学生証が必要です。「証明書自動発行機」の場所は、白金校舎が本館1階中央守衛所近く、横浜校舎が1号館1階横浜教務課前です。</p> <p>本学の様式以外や特殊な証明書が必要な場合は教務部窓口でご相談ください。</p>

★印については、ポートヘボン（5頁参照）の ダウンロード > 教務部 > 学籍関係 に手続きのための各種「手引き」や一部様式を公開しています。手続きの前にそちらも確認してください。

情報の伝達

教務部では、学生へのお知らせや必要な事項の伝達は、原則として在学生用ポータルサイトPort Hepburn（ポートヘボン）にて行います。学生は、1日1回以上、必ずアクセスしてください。Port Hepburnの見落としにより不都合が生じる場合もありますので、十分な自覚を持って情報収集に努めてください。

1. Port Hepburnについて

① Port Hepburnへのログイン方法

大学のコンピュータ実習室では、パソコンの初期画面に個人ID・パスワードを入力すれば、Port Hepburnにログインできます。自宅やスマートフォンからアクセスする場合は、大学Webサイトの在学生のページのメニューを選択するか、以下のURLまたは二次元コードからログイン画面を表示してください。

<https://portheburn.meijigakuin.ac.jp>



② Port Hepburnで確認できる内容

項目
学科別伝達事項
学生個人宛の連絡事項
教務Web（履修登録、履修確認、成績照会、住所・連絡先変更・シラバス検索）
履修要項・履修の手引き・学修の手引き（映像）
時間割表
夏季講座・春季講座
教室割・教室変更情報
休講・補講情報
定期試験時間割・試験教室情報
レポート情報
追試験情報
オフィスアワー情報
学校感染症に罹患した場合
気象警報等発令および交通機関不通時の休講措置基準
「地震注意情報」・「警戒宣言」発表時の措置

※Port Hepburnの操作方法、パスワードの再発行等詳細については、情報センターで確認してください。

2. 明治学院大学 時間割公式アプリ

明治学院大学生専用の時間割公式アプリがあります。入学後、スマートフォンにインストールすることを推奨します。インストール方法、操作方法等は以下サイトから確認してください。

<https://mgu.portal.ac/support/>



※アプリを利用する際は、Port HepburnのIDとパスワードが必要です。

機能	内容
時間割の確認	教務Webで履修登録した時間割が日ごと確認できます。自分の予定を追加することもできます。
休講・補講情報の確認	履修中の授業が休講になる場合、アプリ内の時間割に「休講」が表示されます。
試験・レポート情報	定期試験の日程・試験教室、レポート課題の内容が確認できます。
Port Hepburnのお知らせ	Port Hepburnで掲示されたお知らせを確認できます。
チャットボット	AIチャットボットで教務関連の問い合わせに回答します。
緊急通知	災害や交通機関の運休による突発的な全学休講など、特に重要な通知はプッシュ通知でお知らせします（あらかじめスマートフォンで通知設定をしてください）。
地図	キャンパス周辺の地図が確認できます。
バス時刻表	各校舎までのバス（江ノ電バス、都営バス）の時刻表が確認できます。

※新機能の追加や不具合の修正が定期的に行われますので、常に最新版にアップデートすることを推奨します。

3. その他

① チャットボットについて

明治学院大学 時間割公式アプリ内のチャットボットでも教務関連の問い合わせに回答します。問い合わせがあるときは、まずチャットボットをご利用ください。

② 授業、試験、成績等の問い合わせ方法について

MGメール（大学が付与した学籍番号のアドレス）からのメール、電話、教務課窓口への来課にてお問い合わせください。なお、来課を希望する場合は、事前にメールまたは電話での予約を推奨しています。

MGメールによる問い合わせ先

白金教務課 kyomu@mguad.meijigakuin.ac.jp

白金学務教職課 mgkyomu2@mguad.meijigakuin.ac.jp

横浜教務課 kyomuy@mguad.meijigakuin.ac.jp

③ オフィスアワーについて

学生の主体的な学習を支援する一環として、講義での疑問点や関心のある問題への取り組み方などを担当教員に相談できる「オフィスアワー」を全学的に行っています。教員ごとに設定曜時限や相談方法が指定されています。詳細はPort Hepburnで確認し、必要に応じて手続きをしてください。非常勤の教員に質問等がある場合は、授業終了後に相談することができます。

（オフィスアワーは、成績評価について問い合わせることはできません）。

学修の手引き

カリキュラム

各学部・学科の教育上の目的に従って、授業科目を体系的に編成したものを「カリキュラム（教育課程）」といいます。みなさんは、自分が所属する学部・学科のカリキュラムをよく理解した上で、授業内容を修得することを目指してください。カリキュラムは入学年度別・コース別に定められており、原則として卒業まで変更はありません（ただし、科目的新設・廃止をする場合があります）。また、カリキュラムで定められた範囲で、自ら履修を希望する学問分野や授業科目を選択できますが、卒業に至るまでの過程は自己責任であるということを常に念頭に置いてください。

なお、各学部・学科では、

- ①人材養成上の目的・教育目標
- ②卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

卒業認定・学位授与に関する基本方針であり、卒業時に学生が修得しているべき知識・能力・行動等を示している

- ③教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

教育の実施に関する基本方針であり、卒業時に学生が修得しているべき知識・能力・行動等を育成するための学修段階に応じた教育計画、指導の方針等を示している

を定めています（他に「入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）」も定めています）。詳細は、各学科のページを参照してください。

1. 授業科目の種類

本学の授業科目は、「明治学院共通科目」「学科科目」「教職に関する科目」の3分野があり、学修上の必要に応じて以下のように分類されます。

科目的種類	科目的内容
必修科目	履修して必ず単位を修得しなければならない科目。 未修得科目がある場合卒業できない。
選択必修科目	特定の科目的グループから一定の単位数を修得する必要がある科目。 修得単位不足等、条件を満たさない場合卒業できない。
選択科目	特定の科目的グループから自由に選択して履修する科目。
要求科目	履修する必要があるが単位修得は問わない科目。
その他	学科により特に指定された科目。詳細は学科のページを参照。

2. 履修年次

履修年次とは、各授業科目を履修できる最低の年次を表し、4年間の学修を系統的に行えるように、カリキュラムに基づいて定められています。

現在の年次より上級の年次に配置されている授業科目を履修することは原則できません。現在の年次より下級の年次に配置されている授業科目であれば履修することができます（例：科目的履修年次が「2」の学科科目は、2～4年次生が履修できます）。

学部学科によっては「自分の年次より上級の学年の科目を履修できる制度」「指定の年次のみ履修できる科目」など特例がありますので、学科のページで確認してください（「履修年次」という言葉は学科により、「配当年次」や「開講年次」と表すこともあります）。

3. セメスター制

本学では下表のとおり、1つの年次を春学期と秋学期にわけ、学期（セメスター）ごとに単位を修得し、8セメスター（4年間）を積み重ねて卒業要件を満たす、セメスター制をとっています。年次は入学年度からの年数をカウントし、休学期間や修得単位数を考慮しません。

年次 学期 (セメスター)	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第5学期	第6学期	第7学期	第8学期
春学期入学	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
秋学期入学	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期

各学期は、学則で次のように定められています（年度によっては実際の期間が異なる場合があります。毎年度の学暦で確認してください）。

春学期：4月 1日～9月20日

秋学期：9月21日～3月31日

授業は、以下の①～③のいずれかの形態で開講します。このうち、①の開講形態にあっては、週に1回授業を行う場合と週に2回以上授業を行う場合とがあります。

- ①春学期のみ、または秋学期のみに授業を行い、その期間内で完結
- ②春学期と秋学期の2学期間連続で、1年間を通して授業を行い完結
- ③夏季休暇または春季休暇中に期間を定めて授業を行い、その期間内で完結

①の開講形態をとる授業科目をそれぞれ「春学期開講科目」「秋学期開講科目」、②の開講形態をとる授業科目を「通年開講科目」、③の開講形態をとる授業科目を「夏季講座」「春季講座」といいます。

単位制

大学における学修は、単位制で行われています。単位制とは、各授業科目に定められた単位を修得する制度です。

1. 単位とは

単位とは、授業科目を履修し、平常試験・定期試験またはレポート、そのほか担当教員が必要と認める学修の結果等によって、その授業科目に合格したと担当教員が評価したとき、所定の単位が与えられるものです。

本学では学則において、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とすると規定しています。学修の時間には、授業時間だけではなく、予習・復習等教室外での自主学修も含まれます。

2. 授業時間と単位数

本学では、1時限90分の授業（試験を含む）が、春学期15週、秋学期15週で行われますが、単位数を設定する上では、90分（1時限）の授業を2時間相当の学修時間とみなします。単位数は、それぞれの授業科目ごとに定められており、授業形態によって算定方法が異なります。

講義・演習科目：15時間から30時間までの授業と、予習・復習等の自主学修をあわせて45時間で1単位

実験・実習・実技科目：30時間から45時間までの授業をもって1単位

授業科目に定められた単位数（目安）

学期科目 (春学期開講科目、 または、秋学期開講科目)	15週で完結	<ul style="list-style-type: none"> 講義科目は2単位 ただし週2回授業が行われる場合は4単位 演習科目は2単位または1単位 実験・実習・実技科目は1単位
通年開講科目 (一年を通して行われる科目)	30週で完結	<ul style="list-style-type: none"> 講義科目は4単位 演習科目は4単位または2単位 実験・実習・実技科目は2単位

考え方（例）

2単位の講義・演習科目		
予習 2時間	週1回授業 2時間	復習 2時間
授業1に対して自主学修2の割合		

履修

授業を受けるためには、事前に履修登録を行う必要があります。履修登録には注意事項がありますので、大学からのお知らせには十分注意してください。

1. 履修計画

学生は、各学部・学科のカリキュラムに沿って、履修登録期間に1年間に受講したい授業科目を選択します。1年間に履修できる総単位数は学科ごとに定められています（年間履修上限単位数）ので、各学科のページで確認してください。原則として、年間履修上限単位数を超えて登録できません。

授業科目には、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」等があります。学びたい分野や開講曜時限に合わせて、これらの科目を自ら組み合わせて履修計画を立てる必要があります。

履修計画を立てる際には、履修要項、履修の手引き、シラバス、時間割表（開講科目情報）、履修ハンドブック等を参考してください（これらの情報はPort Hepburnで提供します）。

シラバスは、その授業科目の「授業内容」「担当教員」「開講校舎・曜時限」「成績評価の基準」「教科書」等の情報が授業科目ごとに確認できます。「教務Web」の学生メニューの「シラバス検索」からも参照可能です。ただし「シラバス検索」は、全学部全学科および大学院の授業科目が参照可能であるため、表示された授業科目であっても所属学部・学科・学年・コースによっては履修できない場合があります。各自が履修できる授業科目かどうかは履修要項や時間割表で確認してください。

シラバスの内容は、授業の進行状況等により変更が生じる場合がありますので、学暦に定められた授業開始日から各自の履修計画に基づいて授業に出席してください。履修を考えている授業は、履修登録を行い初回授業から出席してください。

2. 履修登録

履修登録とは、自ら立てた履修計画に基づき、受講する授業科目を大学に申請することをいいます。履修登録をしていない授業科目は、授業に出席し、試験を受けても、当該科目の単位を修得することはできません。

履修登録は、毎年度春学期初めの定められた期日までに、基本的にその年度の春・秋両学期に履修するすべての授業科目について行わなければなりません。秋学期の初めにも履修登録の機会は設けられていますが、履修計画の変更に伴う秋学期科目（春季講座を含む）の追加・削除のみとなるよう年間を通じた計画を立て、春学期のうちに登録を行うようにしてください。

※春学期科目・通年開講科目・夏季講座は春学期の履修登録期間にのみ登録可能です。履修登録期間を過ぎた後は、理由の如何を問わず履修登録できません。

履修登録期間は学暦で定めていますが、スケジュールの詳細は、学期ごとにPort Hepburnでお知らせします。

本学では、履修登録は「教務Web」を利用します。ただし、以下のような科目は登録方法が異なるので、履修の手引きやPort Hepburnの掲示等をよく確認して手続きを行ってください。

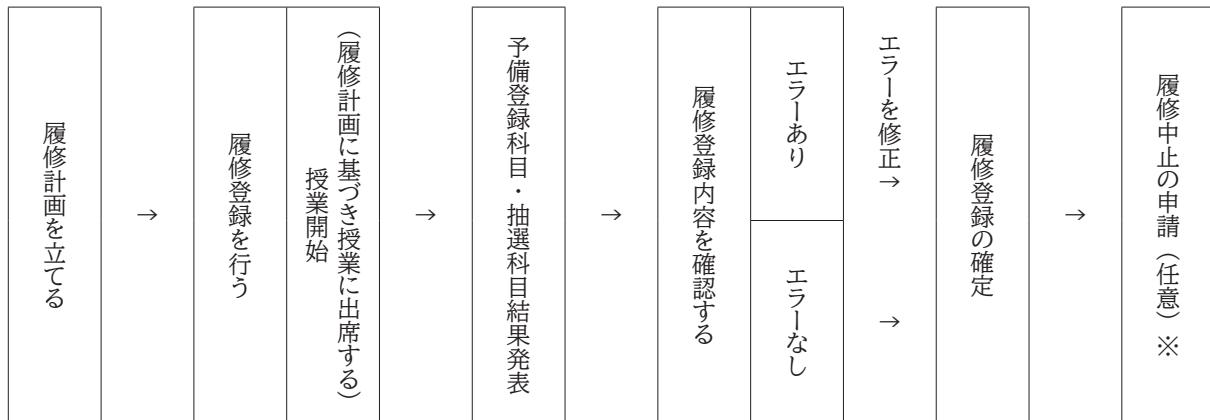
クラス指定科目	複数開講するクラスのうち、事前に指定されたクラスで履修する。
予備登録科目	少人数教育科目、教室の規模や施設・設備等の都合で定員を設定した科目。事前に募集を行い、書類選考や面接等により履修者を決定する。
抽選科目	人数制限等の関係から、抽選や先着順により履修者を決定する。

抽選等の結果については、各自で各科目の指示に従って確認してください。

なお、これらの履修が許可された後に、履修を取りやめることは原則としてできませんので、よく検討した上で申し込んでください。

また、抽選等を行う授業科目を申し込む場合には、履修できなかった場合のことも考慮して履修計画を立ててください。

3. 履修登録の流れ



※『7. 履修中止制度』参照

4. 教務Webによる履修登録方法

履修登録の具体的な方法は、履修ハンドブックで確認してください。Port Hepburnにログインした後、「教務Web」メニューをクリックすると、学生メニューが表示されます。トップページのメッセージを確認した後、「履修申請」をクリックして、履修登録を行う「履修申請 申請状況画面」に進んでください（科目を追加しただけでは履修登録は完了していません。必ず「履修申請」のボタンをクリックしてください）。

履修登録が完了したら、同じ学生メニューの「履修登録確認表・成績通知書印刷」より「履修登録確認表」を出力し確認してください。

5. 履修相談窓口

履修に関する相談は、白金・横浜の教務課で受け付けます。

【文学部・経済学部・社会学部・法学部・心理学部の各学部生】

原則、授業科目が開講されている校舎の教務課

【国際学部生】

すべて横浜教務課

※ 教職課程に関する相談は、年次によらず白金・横浜どちらでも対応します。

※ 2年次生で履修する科目がすべて白金校舎の場合は、白金教務課で対応します。

※ 3年次以上で履修する科目がすべて横浜校舎の場合は、横浜教務課で対応します。

6. 履修登録の注意事項

- ① 履修登録をしなかった学生は、その学期における授業の受講および単位修得の権利を放棄したものとみなします。授業に出席し、試験を受験しても、単位を修得することはできません。
- ② 履修申請画面でエラーがなく終了した場合でも、その後に予備登録科目、抽選科目等を教務課が登録することによりエラーが発生することがあります。履修申請の都度、必ず履修登録内容を確認してください。エラーが表示されたままになっている場合、すみやかに修正の手続を行なってください。これを放置すると、当該科目の登録は無効となり履修は削除されます。
- ③ 予備登録科目、および抽選科目（先着順によるものを除く）の履修登録は教務課が行いますので、その曜時限に別の授業科目を履修登録することはできません。また、これらの授業科目は、学生自身で履修変更することはできません。
- ④ 同一学期の同一曜時限には、複数の授業科目を登録することはできません。
- ⑤ 履修方法に誤りがないか、卒業見込、資格取得見込等の確認は、最終的には学生自身の責任において確認するものとします。履修登録確認表や教務課でエラーがないと判定された場合でも、履修要項等を参照して必ず自分で確認してください。
- ⑥ 1日の内に横浜校舎と白金校舎の両方で授業を履修する場合は、両校舎の授業時限の間に、移動時間として、必ず1時限以上空けなければなりません。これは昼休みをはさんでいても同様で、横浜校舎の第2時限の授業と白金校舎の第3時限の授業（またはその逆）を続けて履修することはできません。なお、どちらか一方が遠隔授業であってもこのルールは適用されます。

7. 履修中止制度

履修中止制度とは、履修登録期間終了後に、授業内容が勉強したいことと異なっている等の理由により履修をとりやめたい場合に、授業期間の途中に履修を中止できる制度です。なお履修中止をした科目については、GPA（成績『3.GPA（Grade Point Average）』の項を参照）の算出には含まれなくなります。

この制度は履修登録期間に行う履修科目の削除・修正とは異なります。また、履修を中止した授業科目は、いかなる理由があっても、その学期中に履修中止を取り消したり、教科書・テキスト代等の返金はできません。履修を中止した授業科目を、次学期以降に改めて履修することは可能です。

① 各学期に履修中止の申請が可能な科目

春学期：春学期開講科目・通年科目・夏季講座

秋学期：秋学期開講科目・春季講座

ただし、下記の授業科目については、履修中止の申請ができません。

履修中止できない科目
必修科目
明治学院共通科目「言語系科目群」の選択必修である初習語
予備登録科目
抽選科目（先着順によるものを除く）
単位互換科目
許可履修科目
教育実習
要求科目
各学科で定める履修中止できない科目

② 履修中止の申請

履修中止は、所定の期間に「教務Web」の学生メニューで「履修中止」をクリックし、「履修中止 申請状況画面」より申請してください。申請期間後の申請および履修中止の取り消しは一切できません。また、履修中止を行った場合、履修中止申請画面に授業科目名の前に履修中止を示す「止」マークが反映されていることを確認してください。ただし、履修上のエラーを履修中止申請期間前に解消していない学生は履修中止の申請はできません。また、卒業の見込みが立っている卒業年次生が履修中止の申請をする場合、卒業不可となってしまう履修中止の申請はできません。

履修中止申請期間

春学期：5月中の定められた期間

秋学期：10月中の定められた期間

※各学期の履修中止期間はPort Hepburnのお知らせで確認してください。

③ 履修中止の申請をした授業科目の単位の扱い

履修中止を申請した授業科目の単位数は、当該年度の年間履修上限単位数に含みます。履修中止した授業科目の単位分で他の科目を追加履修することはできません。

④ 履修中止を申請した授業科目の表示

画面・帳票	教務Webでの表示
履修登録画面	止
履修登録確認表	履修中止
成績通知書	W
成績証明書	(表示なし)

科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングとは

科目名称の先頭に8桁の英数字を付けて表現します。これは教育課程（カリキュラム）の構造・体系を容易に理解できるように、科目間の関係、科目の難易度・性格、履修順序を表すことで、その科目がカリキュラム全体でどう位置付けられているかを明示するものです。

本学では、教務Web、シラバス、履修要項、履修登録確認表、成績通知書、授業/試験時間割・教室割等で使用します。

2. 対象年度

学科科目：2020年度以降の入学生が対象

明治学院共通科目：2018年度以降の入学生が対象

（対象外の年度の学生は従来の科目名称を参照してください）

3. ナンバリングルール

本学で開講する科目には、科目ナンバリングが付番されます。そのルールは下記のとおりです。

	① 責任 開講学科	② 科目群 学問分野	③ 科目のレベル または配当年次	④ 連続番号	⑤ 科目名称
表記 ルール	アルファベット 大文字2文字	アルファベット 大文字3文字	数字1文字	数字2文字	

例	MG	CHR	1	01	キリスト教の基礎A
	MGCHR101キリスト教の基礎A				

①責任開講学科

授業を開設する学部学科等を2文字の大文字アルファベットで表します。

学科記号	学科名称	学科記号	学科名称
LE	文学部 英文学科	SG	社会学部 社会学科
LF	文学部 フランス文学科	SW	社会学部 社会福祉学科
LA	文学部 芸術学科	J-	法学部共通
LX	文学部共通	KS	国際学部 国際学科
TC	文学部 教職課程	KC	国際学部 国際キャリア学科
EE	経済学部 経済学科	PS	心理学部 心理学科
EB	経済学部 経営学科	PE	心理学部 教育発達学科
EG	経済学部 国際経営学科	MG	明治学院共通科目

②学部学科等の科目群または学問分野

3文字のアルファベットで表します。一覧表はこの履修要項の巻末に記載しています。

③科目のレベル・配当年次

下記に基づき数字1文字で科目の難易度・順番・種類等（学科によっては配当年次）を表します。

科目のレベル		配当年次	
記号	内容	記号	内容
1	基礎	1	1年次
2	応用	2	2年次
3	発展	3	3年次
4	展開	4	4年次
9	資格要件	9	資格要件
0	その他	0	その他

④連続番号

各学部・学科等のカリキュラム体系に基づき、順次性を考慮して、数字2文字（00～99）で表します。

授業

1. 授業

授業で学習管理システム「manaba」を使用する場合があります（manabaにはPort Hepburnからログインできます）。

①授業の教室

自分の履修する授業の教室はPort Hepburnの教室割や明治学院大学 時間割公式アプリで確認してください。

授業開始後に教室が変更される場合がありますので、Port Hepburnの授業教室割、明治学院大学 時間割公式アプリ、教室扉の変更掲示に注意してください。

②授業の出席

授業では教員が出席を確認することがあります。出席確認では、紙の出席票やリアクションペーパーを配布したり、学生証を読み取る端末機器が用いられる場合があります。授業に臨む際は、常に学生証を携帯してください。履修している授業はすべて出席し、学修に励んでください。授業を欠席する場合は、『6. 授業の欠席』を参照してください。

③授業の出席・授業内課題における不正

下記に該当する行為は、当該科目を失格とするなどの処分の対象となります。絶対にしないでください。

- ・本人が授業に出席していないにもかかわらず、出席票やリアクションペーパーを他人によって記入し提出すること。
- ・他人の学生証を所持・使用すること。
- ・授業内課題の不正（剽窃、盗用等）。

④授業中

授業中は私語をせず、集中し、積極的に参加してください。グループワークやプレゼンテーションなど、発言が求められる授業も多数あります。授業中は教員の指示に従い、他の学生の迷惑になる行動や授業の運営に支障が出る行為は慎んでください。授業の動画撮影や板書の写真撮影の可否は、必ず教員に確認してください。

2. 授業時間（2023年度）

本学の授業は、1回あたり90分（連続2時間とみなす）で行います。授業時間帯は下表のとおりです。※変更となる場合がありますので、最新の情報は本学ホームページを確認してください。

時限	白金・横浜校舎共通	備考
第1時限	9：15～10：45	土曜日の開講
第2時限	11：00～12：30	白金：第1～5時限のみの開講 横浜：第1～2時限のみの開講 (ただし、週末補講は第3～5時限)
昼休み	12：30～13：30	チャペルアワー
第3時限	13：30～15：00	月～金曜日 13：00～13：20
第4時限	15：15～16：45	補講
第5時限	17：00～18：30	
第6時限	18：40～20：10	詳細は次ページ「5. 補講」を参照

※白金校舎には第7時限（20：20～21：50）もありますが、学部の正課授業は原則設定されず補講等が行われる場合があります。

3. 祝日授業日

授業日数を確保するため、特定の「国民の祝日」に授業を行うことがあります。毎年度の学暦で確認してください。

4. 休講

休講情報は、Port Hepburn、明治学院大学 時間割公式アプリ、manaba等でお知らせします。授業開始時刻後に連絡があった場合は、教務課員が直接教室に赴くか、Port Hepburnやmanaba等で連絡します。授業開始時刻から30分を過ぎても授業が開始されない場合は「自然休講」となることがあります。教務課が確認・判断しますので、電話またはメールで教務課に連絡してください。

5. 補講

本学では、主に休講になった授業の内容を補うために、学暦で補講日を定めています。補講の実施は、各授業科目の担当教員が決定します。

平日（月～金）補講 ※	週末（土）補講	期末補講
白金校舎は第7時限 横浜校舎は第6時限	両校地ともに第3～5時限	両校地ともに第1～6時限

※平日補講は、白金校舎は第6時限、横浜校舎は第5時限を補講とすることもあります。

補講の実施科目、実施日時、教室は、補講を実施する1週間前を目処に、Port Hepburn、manaba等でお知らせします。補講の曜時限・教室は、通常の授業時と異なる場合がありますので、掲示内容に注意してください。

なお、「補講内における成績評価を伴う試験等の実施」「試験での補講受講を前提とした出題」はありません。補講と他科目的通常授業が重なった場合は、原則として通常の授業が優先されます。複数科目的補講が重複した場合は、各自の判断で出席する補講を選んでください。

6. 授業の欠席

授業を欠席する際、『7. 学校感染症に罹患した場合（新型コロナウイルス感染症の濃厚接触を含む）』を除いて大学への電話連絡は不要です。次に出席したときに、担当教員に事情を説明して、欠席連絡票が必要かどうかを確認してください。教務課では、本人の病気や怪我、または、忌引（3親等以内）、福島県出身者の甲状腺検査により授業を欠席した場合、裁判員候補者等に指名された場合に限り、欠席連絡票の発行ができます。必要な場合は、所定用紙に記入の上、欠席事由を証明する書類（いずれもコピー不可）を添付し、教務課窓口に届け出てください。最終申請期限は、各学期の定期試験最終日です。

欠席事由	必要書類
病気・怪我	医療機関の発行した証明書（診断書・治癒証明書など）の原本で、以下の事項が明記されているもの ①傷病名 ②通院・安静等の日時・期間（欠席した日を含むこと） ③証明書作成日 ④医療機関名と医師名・印（医療機関または医師） ⑤問い合わせ先の電話番号
忌引（3親等以内）	葬儀案内状、会葬礼状などの原本 ※忌引は通夜、葬儀、告別式に限る（〇回忌等の法事は対象外）
福島県出身者の甲状腺検査	検査の通知文書
裁判員候補者等（裁判員・検察審査員）への指名	裁判員：選任手続期日のお知らせ（呼出状） 検察審査員：選定通知及び招集状

7. 学校感染症に罹患した場合（新型コロナウイルス感染症の濃厚接触を含む）

「学校において予防すべき感染症※」に学生が罹患した場合、または、医療機関や保健所等で感染者の濃厚接触者に特定された場合は、学内感染を予防するため「学校保健安全法」「学校保健安全法施行規則」により出校停止になります。

この場合は、直ちに通学する校舎の健康支援センターに連絡して、指示を受けてください。

所定の手続きを行った学生については、授業・定期試験の欠席が不利益とならないように配慮します。

※手続き方法については、Port Hepburnの「学校感染症に罹患した場合」を参照すること

2023年3月時点の「学校において予防すべき感染症」は、以下のとおりです。

種別	感染症
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、特定鳥インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症
第二種	インフルエンザ、百日咳、麻しん（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しん、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症（ノロウイルス等を含む感染性胃腸炎、マイコプラズマ感染症）

試験

試験には、平常試験（担当教員が通常の授業内において必要に応じて実施する試験）、定期試験、レポート、追試験があります。

試験の形式は筆記試験を原則としていますが、レポートまたは口頭試問等を課すこともあります。また、これらの形式を組み合わせて実施することもあります。

不正行為について（MG DIARY『「不正行為」懲戒基準のガイドライン』参照）

試験およびレポートにおいて不正行為があった場合、学則に沿った厳しい処分（退学・停学等）が科されます。不利益を被らないためにも、普段の授業から各自注意して臨んでください。

1. 定期試験

学期ごとに、試験期間を設けて実施します。試験期間は学暦で定めます。

定期試験を行う授業科目、試験の時間割や試験教室等は、試験期間の2～3週間前までにPort Hepburnで発表します。

- ① 定期試験の時間割は授業の時間割に基づいて発表します。原則として通常授業時と同じ曜時限です。ただし、やむを得ず通常授業時とは異なる曜時限で試験を実施することがあるため、必ず発表を確認してください。
- ② 定期試験の試験教室は、通常授業時の教室とは異なります。また、同一授業の試験を二つ以上の試験場に分けて実施する場合があります。必ず指定の試験場で受験してください。
- ③ 定期試験によっては座席が指定されている場合があります。試験教室で座席表を掲示しますので、必ず自分の学籍番号の座席で受験してください。
- ④ 履修登録していない授業科目の試験を受験することはできません。
- ⑤ 定期試験時間（2023年度）

※変更となる場合があるので、最新の情報は本学ホームページを確認してください。

時限	白金校舎	横浜校舎
第1時限	9：15～10：15	
第2時限	11：00～12：00	
第3時限	13：30～14：30	
第4時限	15：15～16：15	
第5時限	17：00～18：00	
第6時限	18：40～19：40	

定期試験が重複した場合、以下のとおり取り扱います。

- ① 本学が協定を結ぶ大学との単位互換履修生であって、その大学の定期試験と本学定期試験が重複した場合は、相手先大学の試験を受験して、本学の試験は追試験とします。
- ② 本学の定期試験において、試験時間割が授業時間割とは異なるため試験が同一時間帯に重複した場合、定められた期日までに教務部窓口で手続きをすることにより重複対応試験として、試験当日に重複した二つの試験を受験できます。ただし、本人の履修状況によっては重複対応試験ではなく追試験となる場合もあるため、必ず手続きをしたうえで指示を受けてください。

«教室試験の受験心得»

定期試験・平常試験・追試験に際して下記の事項に注意してください。

- ① 学生証のない者および学生証を忘れた者の受験は認めません。試験当日は学生証を忘れないように十分注意してください。万が一、学生証を提示できない学生は、教務部が交付する仮学生証（交付当日のみ有効）を提示すれば受験することができます（手数料200円必要）。
- ※学生証を紛失した者（または印字面が摩耗し本人確認できない場合）は必ず定期試験の開始以前に教務部で再発行手続きを済ませてください（手数料1,500円必要）。再発行学生証は手続き日の翌日渡し（ただし、事務休止日を除く）になるので注意してください。
- ② 試験教室への入室は、前の時限の受験者および監督者の退室が完了するまでできません。
- ③ 注意事項等もあるので、教室には試験開始10分前に入室してください。
- ④ 遅刻をしないでください。ただし、試験開始後20分以内に限り監督者の許可を得て入場することができます。
- ⑤ 試験科目、試験教室および試験クラスを確認してください（履修登録したクラスの試験を受験してください）。試験教室は、通常授業の教室と異なることがあるので注意してください。
- ⑥ 監督者の指示がない限り、一人置きに教室の前から着席してください。座席指定がある場合は、その指示に従ってください。
- ⑦ 着席と同時に学生証の表を上にして置き、認められたもの以外はすべてカバン等に入れ、横の椅子の上に置いてください。
- ⑧ 学生証にシールや写真などが貼ってある場合、不正行為とみなします。
- ⑨ 机の下の棚には何も置いてはいけません。もし、ゴミ等自らの責任に属さないものがあれば、試験開始前にゴミ箱に捨ててください。
- ⑩ 机に書き込まれている文字等はすべて消去し、誤解を受けないようにしてください。消去できない場合は監督者に申し出てください。
- ⑪ 試験開始の合図があるまでは、問題・解答用紙は裏返しにしておいてください。
- ⑫ 試験開始の合図後、ただちに、解答用紙・受験票に学籍番号・氏名を記入してください。解答用紙（答案）・受験票を提出する前にも、学籍番号・氏名の記入を確認してください。
- ⑬ 監督者の指示があるまでは試験場から退室できません。指示後に退出する場合、他の受験者の迷惑にならないよう静粛かつ迅速に退出してください。
- ⑭ 答案の持ち帰りはできません。
- ⑮ 携帯電話やスマートウォッチ等の電子情報機器類の電源を切ってカバン等に入れてください。時計機能の使用は認めません。
- ⑯ 不正行為を厳禁とします。不正を行った学生に対しては、学則に定めた厳しい処分を科します。

以下のような行為を行った者は、『MG DIARY』に示してあるとおり不正行為者とみなされます。

(a) 使用を許可されていない資料等を所持または使用した者、またはこれと同等とみなされる不正を行った者

- 事例
1. カンニングペーパーの用意または使用
 2. 答案の交換
 3. 使用が許可されていない文献等の使用や貸借
 4. 使用が許可されている文献等の、授業科目担当者による了解の無い貸借
 5. 机、学生証、所持品、壁等への解答およびそれに類するものの書き込み
 6. 答案の盗み見
 7. 声、動作等による解答の伝達、その受信
 8. 携帯電話等の使用

(b) 試験監督者の指示に従わなかった者またはこれと同等とみなされる不当な行為を行った者

2. レポート

レポートは、担当教員へ直接提出することを原則とします。ただし、担当教員が提出先を別途指定する場合があります。manabaやPort Hepburnのレポートメニューもあわせて提出前に十分確認してください。

«レポート作成・提出心得»

レポートの作成および提出に際しては下記に注意してください。

↓左上を綴じる

① レポートの作成にあたって、著作物やWeb上の情報を参照・引用した場合は、引用箇所と出典を明記する。

② 著作物やWeb上の情報を参照・引用した場合の引用箇所と出典は以下を参考に明記する。

【図書の場合】

著者名『書名』(出版社、発行年)、ページ

【雑誌等の論文の場合】

執筆者名「論文名」(『所収雑誌名』巻、号、発行年月)、ページ

【ホームページの場合】

URL、取得年月日

【新聞記事の場合】

新聞名、発行年月日、朝夕刊の別、面

/	【表紙見本】
○曜○限「科目名」 ○○○ 先生	
『レポートのタイトル』	
年 月 日提出 学籍番号 氏 名	

③ 引用をしたにもかかわらず、どこからどこまでが引用なのかを示さず、また出所の記載もなく、あたかも自分で作成したこと(剽窃)は「不正行為」とみなす。特にWeb上の文章をそのまま引用する行為は、「不正行為」に当たるので、注意する。また、知人等の他者が執筆したレポートを、承諾の有無によらず一部分でも複製し自らのレポートとすること(盗用)も、「不正行為」とみなす。不正を行った者および不正行為を帮助した者に 対しては、学則に定めた厳しい処分を科す。

④ レポートは、各人が個別に作成し、指示がない限りグループで作成してはならない。また、他者の文章やWeb上のデータを参考にした場合でも、最終的には自らの評価や主張をきちんと述べる。

⑤ 紙で提出する場合のレポートの体裁は、上の図のとおり表紙をつけ、授業曜時限・科目名・担当教員名・レポート題名・学籍番号・氏名を必ず明記する。レポートは特に指示がなければ左上をステープラーで綴じて提出する。manaba、メール等によりファイルデータで提出する場合も、表紙の体裁は同様とする。

⑥ 提出先、提出日、受付時間に厳守する。

・授業時提出

授業教室で提出の場合、授業開始時に回収があるため、必ず授業開始時から着席する。

・manaba、メール等のファイルデータで提出

manabaでの提出の場合は、当該授業のコースの「レポート」画面から提出する。提出後は、ポートフォリオで提出済になっているか必ず確認する(「提出」ボタンを押下していない場合は、提出とはみなさない)。

メールの場合は必ず送受信の確認を行い、メールの発信記録を保管しておく。なお、再提出や成績評価確認の申請で必要な場合があるため、成績発表までファイルデータを削除せずに保存しておく。

・その他(共同研究室等への提出)

提出先によって受付時間が異なるため、十分に確認する。

3. 追試験

追試験とは下記①に該当し、所定の期間内に申請し、受験許可が出た学生に対して実施する試験をいいます。追試験は申請した学生のためだけに特別に準備をして行うため、申請をした場合、必ず受験することが義務づけられます。

① 追試験申請資格

次ページの表に記載されている理由で定期試験を受験できなかった者

※定期試験期間外に行われる試験（集中講座における試験を含む）は、追試験の対象外です。

- ② 追試験は担当教員の判断に基づき、筆記試験またはレポートで行います。
- ③ 追試験の申請時は、学生証と申請理由に応じた必要書類を提示してください。
- ④ 必要書類が所定期間に整わない場合、申請理由が不明確な場合は、受け付けません。
- ⑤ 追試験を申請しても担当教員が追試験受験を認めない場合があります。また、追試験受験が認められ、受験したとしてもN評価とする場合があります。
- ⑥ 追試験申請期間の案内は、春学期は6月下旬、秋学期は12月上旬にPort Hepburnで掲示します。
- ⑦ 追試験は学暦で定める期間に実施し、その時間割は別に定めます。個別の事情があった場合でも試験日時の指定はできません。
- ⑧ 追試験を何らかの理由で受験できなかった場合、再度の追試験は実施しません。

申請理由	申請時 必要書類
本人の病気・けが	医療機関の発行した証明書（診断書・治癒証明書など）の原本で、以下の事項が明記されているもの ①傷病名 ②通院・安静等の日時・期間（欠席した日を含むこと） ③証明書作成日 ④医療機関名と医師名・印（医療機関または医師） ⑤問い合わせ先の電話番号
忌引 (3親等以内)	通夜、葬儀、告別式に限る（○回忌等の法事は対象外） 葬儀案内状、会葬礼状等の原本（葬儀の日付が確認できる書類） ※忌引期間は教務課に相談すること
交通機関遅延	当該交通機関が発行した遅延証明書 (遅延日付・路線が明記されたもの、対象は <u>通学路線</u> に限る) ※遅延があった場合でも、他路線での振替乗車による移動が可能な場合、試験開始時刻までに明らかに到着できた場合は対象外 ※交通機関遅延を理由とした申請の場合は、できる限り当日に申請すること
就職試験 (筆記・実技・面接試験) 内定者イベント (内定式、採用前健康診断、研修) ※選考を伴わないもの、参加日時を変更できる場合は対象外	企業担当者が証明し作成した受験証明書 ただし、以下の事項が明記されているもの（大学所定の様式は教務課にて配布。企業所定の様式でも可） ①学籍番号・氏名 ②就職試験実施日時 ③当該学生が就職試験を受験していた旨の文面 ④会社名・住所・電話番号・担当者名・会社印（担当者印は不可）
職場のやむを得ない事情	教務課所定の証明書、雇用関係が確認できる書類（社員証、雇用契約書等）の提示（専任勤務員（派遣勤務員を含む）としての就業証明を含む。アルバイト、フリーランス、家事手伝い等雇用関係が確認できない場合は対象外）
教員免許状取得のための 介護等体験	申請のみ必要（教務課確認のため書類は不要）
学芸員資格取得のための 博物館実習（芸術学科のみ）	芸術学科共同研究室または実習先の博物館が発行した「博物館実習受入れ回答書」で、以下の事項が明記されているもの（コピー可）。 ①実習期間 ②実習先（住所・施設名・押印等） ③実習受入れ学生氏名
社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験受験資格取得に 必要な2年次・4年次の実習 (社会福祉学科のみ)	社会福祉実習センターが発行した実習期間証明書 対象科目：【社会福祉士】ソーシャルワーク実習1・ソーシャルワーク実習2 【精神保健福祉士】精神保健福祉援助実習
単位互換大学の 定期試験との重複	相手先大学が発行する定期試験受験証明書
定期試験の重複	申請のみ必要（教務課確認のため書類は不要） ※定期試験の重複対応試験の手続きをして追試験を指示されたものに限る。
福島県出身者の甲状腺検査	検査の通知文書（コピー不可）
裁判員候補者等 (裁判員・検察審査員)への指名	裁判員：選任手続期日のお知らせ（呼出状） 検察審査員：選定通知及び招集状
その他（学部長が特別に 認めたとき）	教務課所定の許可願用紙（窓口で交付）と理由が明記されている書類、証明書等 ※受験許可・不許可が出るまで時間を要するため、できる限り申請期間よりも前に相談または申請すること

4. 再試験

文学部、法学部、心理学部には再試験制度があります。詳細は履修要項の学部・学科のページまたは教務課で確認してください。

成 績

1. 成績評価

成績は、各授業科目の担当教員が下記のとおり本学の定めた成績評価基準にしたがって、試験（レポート等を含む）の得点、平常点、授業への取り組み方等に基づいて評価して決定します。合格の評価を得た学生には、所定の単位が与えられます。

成績確認画面（成績通知書）には、全履修科目について、下記の評価（SからDおよびN、I、R、P、F）を表示します。

また、成績証明書には、合格科目（単位修得科目）についてのみ、科目名と評価を記載します。

種別	評価	評点 (100点満点)	合否	成績評価基準
成績評価の段階を定める科目	S	100~90	合格	到達目標を充分に達成し、極めて優秀である。
	A	89~80		到達目標を充分に達成している。
	B	79~70		到達目標を概ね達成している。
	C	69~60		到達目標を最低限達成している。
	D	59以下	不合格	到達目標を達成していない。
	N	評価不能		試験未受験・出席不良等、当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。
成績評価の段階を定めない科目	I	—	単位認定	「明治学院大学学生国際交流規程」に基づく認定留学により他大学等で得た単位を、本学の授業科目に相当するものとして認定したもの。
	R	—		「本学入学前に修得した単位の認定に関する規程」および「編入生単位認定規程」に基づき他大学等で得た単位を、本学の授業科目に相当するものとして認定したもの。
	P	—	合格	到達目標を達成している。
	F	—	不合格	到達目標を達成していない。

【注意1】「評価不能」とは、試験未受験、出席不良、小テスト未受験、レポート未提出等、当該科目の成績評価の前提条件を満たしていないと担当教員が判定したことを示します。

【注意2】法律学科法曹コース指定科目（法曹コース必修科目、推奨科目、自由選択科目）については、相対評価です。評価割合は、S評価…10%以内、A評価…20%程度、B評価…30%程度、C評価およびそれ以外の評価…40%程度を目安とします。

2. 成績発表

履修した授業科目の成績は、学暦で定める成績発表日に発表します。履修登録していない授業科目を受講しても、成績評価の対象となりません。

① 発表方法について

Port Hepburnにログイン後、「教務Web」を選択して学生メニューを表示し、「履修登録確認表・成績通知書印刷」から「成績通知書」を出し確認してください。発表のタイミングは授業科目の開講期ごとに異なります。

9月上旬：当該年度春学期までの履修科目の成績（夏季講座（第一期）を含む）を通知
 3月上旬：当該年度秋学期、通年開講科目の履修科目の成績（春季講座を含む）を通知
 ※夏季講座（第二期）の成績および本学の短期留学プログラム（夏季・春季）による認定科目は、別途通知します。

② 卒業年次生の卒業学期の成績発表について

卒業者発表（3月卒業は3月上旬、9月卒業は9月中旬）と同時に行います。

③ 保証人への成績通知について

保証人への成績通知は、Port Hepburnにてお知らせします。

保証人に成績通知を希望しない学生は、所定の期間内に教務課で手続きをしてください。

保証人の住所等に変更があった場合には、教務Web上で住所変更の申請を必ず行ってください（変更されないと大学からの重要な連絡ができず、不利益となることがあります）。

3. GPA (Grade Point Average)

本学では、成績をはかる基準としてGPAを採用することがあります。GPAとは、科目の単位数に成績評価ごとのポイントで重みをつけ、その総合計を総単位数で割った数値です。

ただし、卒業要件外の科目は除外されます。計算式からわかるとおり、S評価が多いとポイントが高くなり、D・N評価が多いとポイントが下がります。在籍期間中の通算GPAについて、成績確認画面（成績通知書）に記載しますが、教務部ではGPAを使用した成績順位の問い合わせには応じていません。

評価のポイント：S=4 A=3 B=2 C=1 D・N=0

GPA算入科目：卒業要件に含まれる科目

計算式<P・F・R・I・W評価は計算の対象外>

$$\frac{(S\text{の修得単位数} \times 4) + (A\text{の修得単位数} \times 3) + (B\text{の修得単位数} \times 2) + (C\text{の修得単位数} \times 1)}{GPA\text{算入科目のうち履修登録した科目の総単位数}}$$

GPAはSが多いほど高くなり、最高は4.00、最低は0.00となります。小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位までを有効とします。

GPAが使用される例は以下のとおりです。

- (a) 法学部の成績優秀者の選考
- (b) 法学部法律学科・法曹コース生の他大学法科大学院入試推薦者の選考
- (c) 法学部生が他大学法科大学院へ進学する際に、3年次早期卒業を希望する場合の卒業要件
- (d) 明治学院大学学内奨学金（学業優秀賞・外国人留学生学業優秀賞）給付対象者の選考
- (e) 明治学院大学大学院社会学研究科の推薦入試における選考
- (f) 明治学院大学大学院心理学研究科の特別入試（本学出身者）における出願基準
- (g) 明治学院大学大学院経済学研究科・法と経営学研究科への飛び入学出願基準
- (h) 明治学院大学協定留学生の学内選考基準
- (i) 国際学部ダブル・ディグリー・プログラム出願基準
- (j) 進路指導

なお、GPAは上記以外にも、転学科試験への出願や学外の各種奨学金、大学院入試の出願時に必要とされることもあります。

4. 成績評価確認制度

履修科目の成績評価に異議がある場合には、成績評価確認制度により確認できます。履修科目の成績に関する問い合わせは、当該科目の開講校舎の教務課に成績評価確認の申請をすることにより行います。なお、異議の理由が明確でないもの、不適切なもの（陳情・懇願、具体的な理由がない、根拠に基づかない等）は受け付けません。結果は、後日教務課から指定された方法で確認することができます。成績に関する問い合わせは当制度のみに限り、担当教員に直接問い合わせることは認められていません。なお、具体的な申請方法と結果確認方法は別途Port Hepburnのお知らせにて案内するため、必ず確認してください。

成績評価確認の申請は、在学生は成績発表後の指定日、卒業年次生は卒業者発表日当日に限ります。ただし、追試験の受験資格と同等の理由（病気・けが、3親等以内の忌引等）が承認された場合に限り、別途提出を認めます。希望者は必ず申請期間中に教務課へ連絡してください。なお、卒業不可となった卒業年次生については、成績発表後の指定日での提出も受け付けます。

5. 学生への個別支援

本学では、勉強の仕方がわからない、著しく単位が修得できていない、授業についていけないなど学習面での問題を抱えている学生や、課外活動でのトラブルや経済的事情から学業に支障をきたしている、健康面での不安がある等により、このままでは通常の在学期間での卒業が困難になる可能性のある学生に対して、個別に事情を聴取し、学科および担当部門が当該学生へ必要な学業支援を行います。

学年末の成績発表後、各学科の定めた条件に基づいて学生を抽出し、教務課から個別に通知しますので、連絡を受けた学生は、指示に従って面談等に臨んでください。

卒業と学位

1. 卒業の要件と手続

各学部学科に所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に、学部教授会の議（卒業判定）を経て、卒業を認定し、学位を授与します。卒業時期は3月と9月があります。

※休学中は、卒業判定の対象となりません。

※年度末（9月卒業を申請した者にあっては春学期末）において卒業要件を満たす者が、希望により卒業を保留することは認められません。

① 3月（年度末）卒業

4年間または4年（3年次編入生にあっては2年以上、いずれも休学した期間は除く）を超えて在学し、かつ、所属する学科が定める卒業に必要な単位を修得した者は、その年度末をもって卒業となります。卒業者は、学暦で定める卒業者発表日にPort Hepburnで学籍番号を発表します。

ただし、以下の者はこの限りではありません。

- (a) 法学部生（法曹コース生含む）について、他大学法科大学院へ進学するため、3年次早期卒業が認められた者
- (b) 国際学部の9月入学生

② 9月（春学期）卒業

4年（3年次編入生にあっては2年以上、いずれも休学した期間は除く）を超えて在学し、春学期末に①の要件を満たす者については、所定の期間に学生本人が教務課（国際学部生は横浜教務課）に申請することにより春学期末での卒業を認めます。これを「9月卒業」といいます。9月卒業を希望する者は、5月末日までに「9月卒業申請書」を教務課に提出しなければなりません。詳細は、Port Hepburnでお知らせします。

なお、所定の申請をしなかった者は、春学期末で①の要件を満たした場合でも9月卒業は認められず、秋学期も在籍する必要がありますので注意してください。

※国際学部の9月入学生は、②と前提条件が異なるため「9月卒業申請書」の提出は不要です。

2. 卒業時に授与される学位

本学・学部卒業者には以下に定める学士の学位が授与されます。

学部	学科	学位
文学部	英文学科	学士（英文学）
	フランス文学科	学士（フランス文学）
	芸術学科	学士（芸術学）
経済学部	経済学科	学士（経済学）
	経営学科	学士（経営学）
	国際経営学科	学士（国際経営学）
社会学部	社会学科	学士（社会学）
	社会福祉学科	学士（社会福祉学）
法学部	法律学科	学士（法学）
	政治学科	学士（政治学）
	消費情報環境法学科	学士（法学）
	グローバル法学科	学士（法学）
国際学部	国際学科	学士（国際学）
	国際キャリア学科	学士（国際学）
心理学部	心理学科	学士（心理学）
	教育発達学科	学士（教育発達学）

単位認定

本学で授業科目を履修して修得した単位以外に、他大学等で修得した単位を認定することができます。認定するのは次の1~3で、合計で60単位を限度とします。

1. 入学前に修得した単位

入学する前に修得した単位（大学、短期大学、短期大学の専攻科または高等専門学校の専攻科において修得した単位）について認定を希望する学生は、入学時の案内に従い手続きしてください。学科の審査・認定を受けることで単位認定されます（入学時以外は認定できません）。

成績評価は、評価記号「R」により卒業に必要な単位として認定したことを表示します。

2. 国外認定留学により得た単位

国外認定留学による単位認定の手続きは教務課が行います。留学については国際センターに問い合わせてください。

① 長期留学

本学の認定留学により留学先で修得した単位等について、本学の単位として認定するものです。どのような科目が認定されるかは所属している学科により異なります。成績評価についての扱いは「1. 入学前に修得した単位」と同じであり、留学による認定を意味する記号「I」が表示されます。

② 短期留学（夏季・春季）

本学の短期留学プログラム（夏季・春季）による単位の認定です。留学先大学の評点を本学の成績に置き換えて評価し、認定します。

③ 中期留学

本学の認定留学のうち中期留学プログラムにより留学先で修得した単位等について、本学の単位として認定するものです。留学先大学の評点を本学の成績に置き換えて評価し、認定します。

3. 単位互換

単位互換とは、本学が協定を結ぶ他大学において修得した授業科目の単位を、各学部の定めるところにより本学の単位として認定する制度です。詳細は学科によって異なるため履修要項およびPort Hepburn等で確認してください。単位互換で修得した科目の評価は、本学の成績評価に換算して表示します。

※履修上の注意

履修にあたっては、学生の責任において移動時間を考慮し、履修登録をしてください。

卒業年次生がこの制度による履修科目によって卒業を満たそうとする場合、卒業見込証明書の発行時期が大幅に遅れる場合があります。

① 横浜市内大学間の単位互換

横浜市内所在の大学間で組織する「横浜市内大学間学術・教育交流協議会」に参加する大学による単位互換制度です。募集については「横浜市内大学間単位互換履修生 募集要項」とあわせてPort Hepburnでお知らせします。

提供科目：募集要項にて確認してください。（履修可能科目は学科によって異なります。各学科のページ参照。）

実施学科：社会福祉学科、法律学科、消費情報環境法学科、政治学科、国際学科

② 芝浦工業大学との単位互換

芝浦工業大学デザイン工学部と単位互換協定を締結しています。芝浦工業大学で修得した単位を本学の単位として認定します。

募集時期：【春学期開講】2～3月、【秋学期開講】8月

提供科目：募集要項にて確認してください。

実施学部：法学部（詳細は各学科のページ参照）

③ 共愛学園前橋国際大学との単位互換

共愛学園前橋国際大学と単位互換協定を締結しています。共愛学園前橋国際大学で修得した単位を本学の単位として認定します。

募集時期：【春学期開講】2～3月、【秋学期開講】8月

提供科目：募集要項にて確認してください。

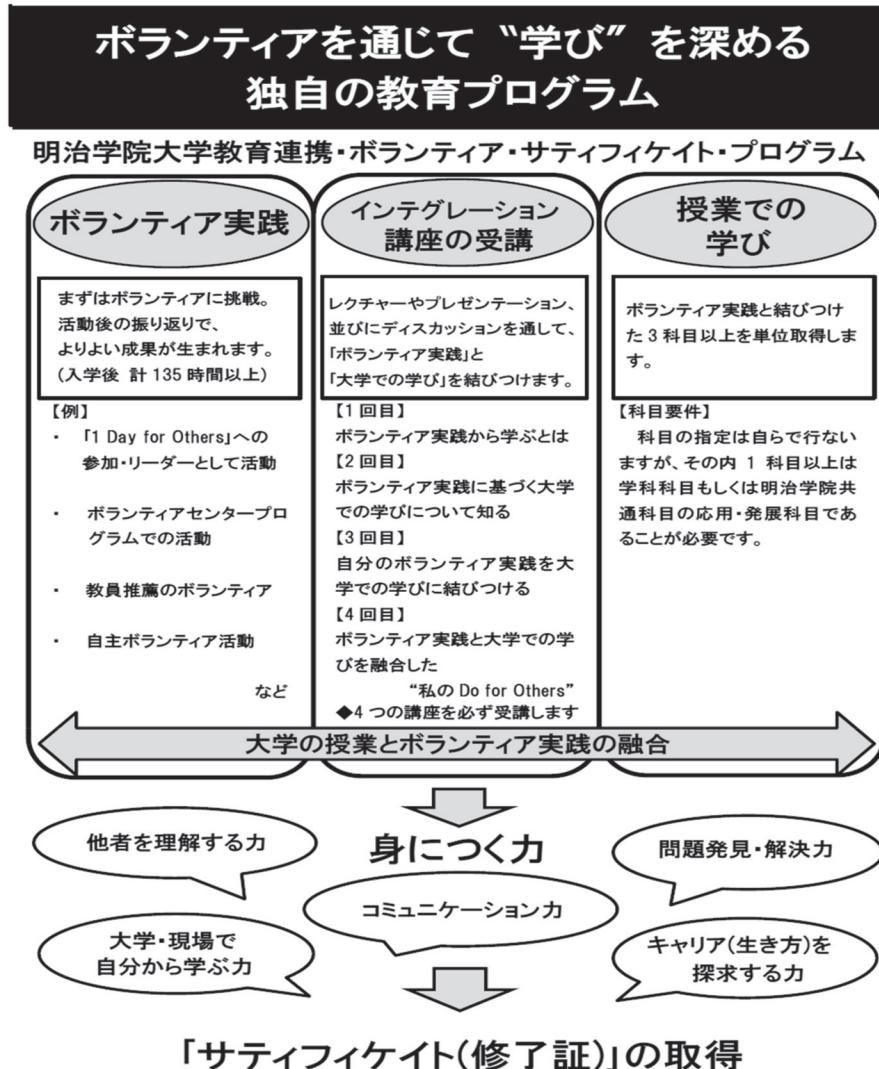
実施学部：法学部・国際学部（詳細は各学科のページ参照）

明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケイト・プログラム

このプログラムにおいて、①ボランティア実践、②ボランティア実践と結びつけた科目的単位修得、③ボランティア実践と科目的関連づけを行う「インテグレーション講座」の修了後、所定の手続きを経て認証されることにより、「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケイト・プログラム」の修了証を取得することができます。

※①のボランティア実践、③のインテグレーション講座についてはボランティアセンターへ、②の科目的履修に関しては教務部にお問い合わせください。詳細は別途案内されますので、本プログラム登録希望者はボランティアセンターからの掲示等を見逃さないようにしてください。

プログラムのイメージ図



AI・データサイエンス教育プログラム

本学では、AI時代の新たな基礎知識を教授するAIおよびデータサイエンスに関する明治学院共通科目を2023年度より順次開講します。

このプログラムは、初歩から応用まで3段階のステップで構成されており、社会におけるデータ・AI利活用の状況やデータリテラシーの基礎、データ・AI利活用における留意事項などを学ぶ<レベル1>、プログラミング言語（Python）やAIによる機械学習などを学ぶ<レベル2>、そしてAI・データサイエンスに関する知識をさらに深めると同時に、課題解決型の実践的な授業PBL(Project Based Learning)にも参加できる<レベル3>まで、履修者の習熟度に応じて学びを深めることができます。

<レベル2>および<レベル3>の修了要件を満たした者は、それぞれ修了認定証「ベーシック」および「スタンダード」が取得できます。なお、この教育プログラムの趣旨および各科目の内容については、Webページを別途参照してください。

【開講科目】

レベル	科目名称（半期2単位）	開講年度
1	AI・データサイエンス入門	2023年度より開講
2	データ解析・活用入門	2024年度より開講予定
	プログラミング入門	
	AIと人間	
3	統計学1（または2）	(注1)
	データ解析・活用基礎	2025年度より開講予定
	AI基礎	
	PBL演習	

(注1)「統計学1・2」は既に開講されている明治学院共通科目のため、2023年度より履修が可能です。2022年度以前に「統計学1・2」の単位を修得した場合は、新たに履修する必要はなく、認定修了証ベーシックの科目として認定されます。

【配当年次】<レベル1>および<レベル2>ともに1年次配当。<レベル3>は3年次配当。

【履修要件】<レベル2>の科目のうち「データ解析・活用入門」、「プログラミング入門」および「AIと人間」の履修は、<レベル1>の「AI・データサイエンス入門」の単位修得が条件。また<レベル3>の履修は、下記修了認定証（ベーシック）を取得した者に認める。

【修了認定証（下記文中の「必修」「選択必修」は、認定証を取得する条件のこと）】

- ・ベーシック：「AI・データサイエンス入門」及び「データ解析・活用入門」「プログラミング入門」（3科目各2単位計6単位）が必修。「統計学1（または2）」と「AIと人間」は、いずれかを選択必修（または学部指定）とし、4科目計8単位の履修をもってベーシック段階の認定をする。
- ・スタンダード：ベーシック段階終了後、3群の科目を履修（詳細未定）。

なお、各学科で開講される科目の単位修得をもって、上記の教育プログラムの科目を修得したと認定する場合があります。修了認定証の取得を目指す者は、各学科における「みなし科目」に注意して履修計画をたてるようにしてください。みなし科目については今後Webページに情報が掲載される予定です。

こちらからAI・データサイエンス教育プログラムのWebページを確認してください。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/academics/aids/>



明治学院共通科目

明治学院共通科目の目標と方針

人材養成上の目的・教育目標

明治学院共通科目の主たる開講責任を負う教養教育センターは、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、明治学院大学の教養教育の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

明治学院共通科目による教養教育は、世界に生起する諸問題について、他者との共生をめざし柔軟かつ誠実に対処することのできる市民的教養を有する人材の養成を目的とする。そしてその実現のために、言語系科目と諸領域科目の教育が連携し、多様な思考力と表現力を養成するための総合的な教育を推進する。

言語系科目的教育においては、コミュニケーション能力の向上と言語を育んできた自他の文化への理解を深め、自律的な学修態度を身につけることを教育目標とする。また、諸領域科目的教育においては、専門的知見の修得を通して、問題を的確に理解するための読み解き力や分析力、問題解決のための多面的な思考力を身につけることを教育目標とする。

期待される学修成果

教養教育センターは、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成する。学生は、所定の単位を修得することにより、次の態度、知識、能力を身につけることが期待できる。

- 1 建学の精神を理解し、多様な価値観を尊重しつつ、社会参加を通して他者への貢献を志向する態度
- 2 幅広い学問分野の基礎知識を有し、現代社会が抱える諸問題に対して多面的に捉え、的確に価値の判断を行う能力
- 3 自ら発見した課題について、幅広い知見に基づいて、その解決策を適正かつ明確に提示する能力
- 4 他者とのコミュニケーションに必要な能力を身につけ、生涯にわたってそれを伸展させるための自律的学修をつづける態度

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

教養教育センターは、明治学院大学の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、教養教育センターの定める「人材養成上の目的・教育目標」に沿って、「教育課程の編成および実施に関する方針」を次のとおり定める。

明治学院共通科目を、コア科目、言語系科目群、人文科学系科目群、社会科学系科目群、自然科学系科目群、情報処理系科目群、健康・スポーツ科学系科目群、総合教育系科目群、AI・データサイエンス系科目群の各群により構成する。効率的な教育効果を期待して、コア科目に加え、基礎、応用、発展のレベルを設定することにより、順次的、体系的な学修を促進できるように科目を編成する。

(1) コア科目

建学の精神を理解し、他者への貢献を実現するために必要な知見の獲得を目指して、下記の科目を開講する。

必修科目：「キリスト教の基礎」を1年次に配当する。

(2) 言語系科目群

英語によるコミュニケーション能力の向上、初習語における基礎的運用能力の育成を目指して、下記の科目を開講する。

必修科目：「英語コミュニケーション」を1年次に配当する。

留学生には、「日本語」科目を配当する。

選択必修：フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語を選択言語科目として配当する。

留学生は、日本語以外の言語、もしくは、「日本語研究」を選択必修とする。

*「日本語研究」を選択必修とするのは、法律学科・消費情報環境法学科・政治学科のみ。

自由選択：英語のオーラシー（聞く・話す）に加え、リテラシー（読む・書く）強化を目指して、「英語研究」を開講する。初習語学修の進展を目指して、必修科目として選択した初習語のインテンシブクラスとして「研究」を開講する。また、上記の選択必修科目に加えて、イタリア語・アラビア語・タイ語の学修を目的と

した「基礎」を開講する。

初習語によるコミュニケーション能力の養成のため、「演習」を開講する。

(3) 情報処理系科目群

選択必修：「コンピュータリテラシー」を1年次に配当する。

自由選択：「コンピュータリテラシー研究」、「情報科学」を開講する。

(4) 諸領域科目群

明治学院共通科目の期待される学修成果に示した1から4について、幅広い学問分野における知識と正確な判断力を涵養するため、「人文科学系科目」、「社会科学系科目」、「自然科学系科目」、「健康・スポーツ科学系科目」、「総合教育系科目」、「AI・データサイエンス系科目群」の各分野・領域において諸科目を開講する。各授業科目には、個別の授業テーマが提示される。

能力要件表(明治学院共通科目 経済学部)

学士力			知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力						
対応する「期待される学修成果」			期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3					
「期待される学修成果」から抽出した身につく能力			現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献					
授業科目名	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○									
必修科目												
1.교과목												
MGCHR101キリスト教の基礎A	2	1	◎									
MGCHR102キリスト教の基礎B	2	1	◎									
2.言語系科目												
MGENG101英語コミュニケーション1A	1	1		◎	○							
MGENG102英語コミュニケーション1B	1	1		◎	○							
MGENG103英語コミュニケーション2A	1	1		◎	○							
MGENG104英語コミュニケーション2B	1	1		◎	○							
MGFRE101フランス語1A	1	1		◎	○							
MGFRE102フランス語1B	1	1		◎	○							
MGFRE103フランス語2A	1	1		◎	○							
MGFRE104フランス語2B	1	1		◎	○							
MGCHN101中国語1A	1	1		◎	○							
MGCHN102中国語1B	1	1		◎	○							
MGCHN103中国語2A	1	1		◎	○							
MGCHN104中国語2B	1	1		◎	○							
MGGER101イタリア語1A	1	1		◎	○							
MGGER102イタリア語1B	1	1		◎	○							
MGGER103イタリア語2A	1	1		◎	○							
MGGER104イタリア語2B	1	1		◎	○							
MGSPN101スペイン語1A	1	1		◎	○							
MGSPN102スペイン語1B	1	1		◎	○							
MGSPN103スペイン語2A	1	1		◎	○							
MGSPN104スペイン語2B	1	1		◎	○							
MGRUS101ロシア語1A	1	1		◎	○							
MGRUS102ロシア語1B	1	1		◎	○							
MGRUS103ロシア語2A	1	1		◎	○							
MGRUS104ロシア語2B	1	1		◎	○							
MGKOR101韓国語1A	1	1		◎	○							
MGKOR102韓国語1B	1	1		◎	○							
MGKOR103韓国語2A	1	1		◎	○							
MGKOR104韓国語2B	1	1		◎	○							
MGJPN101日本語1A	1	1		◎	○							
MGJPN102日本語1B	1	1		◎	○							
MGJPN103日本語2A	1	1		◎	○							
MGJPN104日本語2B	1	1		◎	○							
選択科目												
1.言語系科目群												
MGFRE111フランス語演習初級A	1	1		◎	○							
MGFRE112フランス語演習初級B	1	1		◎	○							
MGFRE221フランス語演習中級A	1	1		◎	○	○						
MGFRE222フランス語演習中級B	1	1		◎	○	○						
MGCHN111中国語演習初級A	1	1		◎	○							
MGCHN112中国語演習初級B	1	1		◎	○							
MGCHN221中国語演習中級A	1	1		◎	○	○						
MGCHN222中国語演習中級B	1	1		◎	○	○						
MGGER111イタリア語演習初級A	1	1		◎	○							
MGGER112イタリア語演習初級B	1	1		◎	○							
MGGER221イタリア語演習中級A	1	1		◎	○	○						

学士力			知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」			期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」から抽出した身につく能力			現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGGER222 ^ト 1 ^レ 語演習中級B	1	1		◎	○	○	
MGSPN111 ^ト 1 ^レ 語演習初級A	1	1		◎	○		
MGSPN112 ^ト 1 ^レ 語演習初級B	1	1		◎	○		
MGSPN221 ^ト 1 ^レ 語演習中級A	1	1		◎	○	○	
MGSPN222 ^ト 1 ^レ 語演習中級B	1	1		◎	○	○	
MGKOR111韓国語演習初級A	1	1		◎	○		
MGKOR112韓国語演習初級B	1	1		◎	○		
MGKOR221韓国語演習中級A	1	1		◎	○	○	
MGKOR222韓国語演習中級B	1	1		◎	○	○	
MGENG201英語特別研究A	2	1		◎	○		
MGENG202英語特別研究B	2	1		◎	○		
MGENG211英語研究1A	2	2	○	◎	○		
MGENG212英語研究1B	2	2	○	◎	○		
MGENG213英語研究2A	2	2	○	◎	○		
MGENG214英語研究2B	2	2	○	◎	○		
MGENG215英語研究3A	2	2	○	◎	○	○	
MGENG216英語研究3B	2	2	○	◎	○	○	
MGFRE211 ^ト ラ ^レ 語研究1A	2	2		◎	○	○	
MGFRE212 ^ト ラ ^レ 語研究1B	2	2		◎	○	○	
MGFRE213 ^ト ラ ^レ 語研究2A	2	2		◎	○	○	
MGFRE214 ^ト ラ ^レ 語研究2B	2	2		◎	○	○	
MGFRE315 ^ト ラ ^レ 語研究3A	2	2	○	◎	○	○	
MGFRE316 ^ト ラ ^レ 語研究3B	2	2	○	◎	○	○	
MGFRE317 ^ト ラ ^レ 語研究4A	2	3	○	◎	○	○	
MGFRE318 ^ト ラ ^レ 語研究4B	2	3	○	◎	○	○	
MGCHN211中国語研究1A	2	2		◎	○	○	
MGCHN212中国語研究1B	2	2		◎	○	○	
MGCHN213中国語研究2A	2	2		◎	○	○	
MGCHN214中国語研究2B	2	2		◎	○	○	
MGCHN315中国語研究3A	2	2	○	◎	○	○	
MGCHN316中国語研究3B	2	2	○	◎	○	○	
MGCHN317中国語研究4A	2	3	○	◎	○	○	
MGCHN318中国語研究4B	2	3	○	◎	○	○	
MGGER211 ^ト 1 ^レ 語研究1A	2	2		◎	○	○	
MGGER212 ^ト 1 ^レ 語研究1B	2	2		◎	○	○	
MGGER213 ^ト 1 ^レ 語研究2A	2	2		◎	○	○	
MGGER214 ^ト 1 ^レ 語研究2B	2	2		◎	○	○	
MGGER315 ^ト 1 ^レ 語研究3A	2	2	○	◎	○	○	
MGGER316 ^ト 1 ^レ 語研究3B	2	2	○	◎	○	○	
MGGER317 ^ト 1 ^レ 語研究4A	2	3	○	◎	○	○	
MGGER318 ^ト 1 ^レ 語研究4B	2	3	○	◎	○	○	
MGSPN211 ^ト 1 ^レ 語研究1A	2	2		◎	○	○	
MGSPN212 ^ト 1 ^レ 語研究1B	2	2		◎	○	○	
MGSPN213 ^ト 1 ^レ 語研究2A	2	2		◎	○	○	
MGSPN214 ^ト 1 ^レ 語研究2B	2	2		◎	○	○	
MGSPN315 ^ト 1 ^レ 語研究3A	2	2	○	◎	○	○	
MGSPN316 ^ト 1 ^レ 語研究3B	2	2	○	◎	○	○	
MGSPN317 ^ト 1 ^レ 語研究4A	2	3	○	◎	○	○	
MGSPN318 ^ト 1 ^レ 語研究4B	2	3	○	◎	○	○	
MGRUS211 ^ト 1 ^レ 語研究1A	2	2		◎	○	○	
MGRUS212 ^ト 1 ^レ 語研究1B	2	2		◎	○	○	
MGRUS213 ^ト 1 ^レ 語研究2A	2	2		◎	○	○	

学士力			知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」			期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」から抽出した身につく能力			現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGRUS214ロシア語研究2B	2	2		◎	○	○	
MGRUS315ロシア語研究3A	2	2	○	◎	○	○	
MGRUS316ロシア語研究3B	2	2	○	◎	○	○	
MGRUS317ロシア語研究4A	2	3	○	◎	○	○	
MGRUS318ロシア語研究4B	2	3	○	◎	○	○	
MGKOR211韓国語研究1A	2	2		◎	○	○	
MGKOR212韓国語研究1B	2	2		◎	○	○	
MGKOR213韓国語研究2A	2	2		◎	○	○	
MGKOR214韓国語研究2B	2	2		◎	○	○	
MGKOR315韓国語研究3A	2	2	○	◎	○	○	
MGKOR316韓国語研究3B	2	2	○	◎	○	○	
MGKOR317韓国語研究4A	2	3	○	◎	○	○	
MGKOR318韓国語研究4B	2	3	○	◎	○	○	
MGFRE205フランス語3A	1	1		◎	○		
MGFRE206フランス語3B	1	1		◎	○		
MGFRE207フランス語4A	1	1		◎	○		
MGFRE208フランス語4B	1	1		◎	○	○	
MGCHN205中国語3A	1	1		◎	○		
MGCHN206中国語3B	1	1		◎	○		
MGCHN207中国語4A	1	1		◎	○		
MGCHN208中国語4B	1	1		◎	○		
MGGER205ドイツ語3A	1	1		◎	○		
MGGER206ドイツ語3B	1	1		◎	○		
MGGER207ドイツ語4A	1	1		◎	○		
MGGER208ドイツ語4B	1	1		◎	○		
MGSPN205スペイン語3A	1	1		◎	○		
MGSPN206スペイン語3B	1	1		◎	○		
MGSPN207スペイン語4A	1	1		◎	○		
MGSPN208スペイン語4B	1	1		◎	○		
MGRUS205ロシア語3A	1	1		◎	○		
MGRUS206ロシア語3B	1	1		◎	○		
MGRUS207ロシア語4A	1	1		◎	○		
MGRUS208ロシア語4B	1	1		◎	○		
MGKOR205韓国語3A	1	1		◎	○		
MGKOR206韓国語3B	1	1		◎	○		
MGKOR207韓国語4A	1	1		◎	○		
MGKOR208韓国語4B	1	1		◎	○		
MGITA101リトアニア語の基礎A	1	1		◎	○		
MGITA102リトアニア語の基礎B	1	1		◎	○		
MGARB101アラビア語の基礎A	1	1		◎	○		
MGARB102アラビア語の基礎B	1	1		◎	○		
MGTHA101タガログ語の基礎A	1	1		◎	○		
MGTHA102タガログ語の基礎B	1	1		◎	○		
MGGRE101リトアニア語研究A	2	1		◎	○		
MGGRE102リトアニア語研究B	2	1		◎	○		
MGLAT101英語研究A	2	1		◎	○		
MGLAT102英語研究B	2	1		◎	○		
MGSIG101手話1	2	1		◎	○		
MGSIG202手話2	2	1		◎	○		
MGEUC101ヨーロッパ言語圏の文化入門1	2	1	◎	○	○		
MGEUC102ヨーロッパ言語圏の文化入門2	2	1	◎	○	○		
MGEUC103ヨーロッパ言語圏の文化入門3	2	1	◎	○	○		

学士力			知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」			期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」から抽出した身につく能力			現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGEUC1043-ロッパ° 言語圏の文化入門4	2	1	◎	○	○		
MGEUC1053-ロッパ° 言語圏の文化入門5	2	1	◎	○	○		
MGEUC1063-ロッパ° 言語圏の文化入門6	2	1	◎	○	○		
MGEUC1113-ロッパ° 言語圏の文化各論1	2	1	◎	○	○		
MGEUC1123-ロッパ° 言語圏の文化各論2	2	1	◎	○	○		
MGEUC1133-ロッパ° 言語圏の文化各論3	2	1	◎	○	○		
MGEUC1143-ロッパ° 言語圏の文化各論4	2	1	◎	○	○		
MGEUC1153-ロッパ° 言語圏の文化各論5	2	1	◎	○	○		
MGEUC1163-ロッパ° 言語圏の文化各論6	2	1	◎	○	○		
MGASC101アジア言語圏の文化入門1	2	1	◎	○	○		
MGASC102アジア言語圏の文化入門2	2	1	◎	○	○		
MGASC103アジア言語圏の文化入門3	2	1	◎	○	○		
MGASC104アジア言語圏の文化入門4	2	1	◎	○	○		
MGASC111アジア言語圏の文化各論1	2	1	◎	○	○		
MGASC112アジア言語圏の文化各論2	2	1	◎	○	○		
MGASC113アジア言語圏の文化各論3	2	1	◎	○	○		
MGASC114アジア言語圏の文化各論4	2	1	◎	○	○		
MGJPN205日本語3A	1	2		◎	○		
MGJPN206日本語3B	1	2		◎	○		
MGJPN207日本語4A	1	2		◎	○		
MGJPN208日本語4B	1	2		◎	○		
MGJPN211日本語研究1A	2	2		◎	○		
MGJPN212日本語研究1B	2	2		◎	○		
MGJPN213日本語研究2A	2	2		◎	○		
MGJPN214日本語研究2B	2	2		◎	○		
MGJPN215日本語研究3A	2	2		◎	○		
MGJPN216日本語研究3B	2	2		◎	○		
2.人文科学系科目群							
MGCHR201聖書の世界1	2	2	◎				
MGCHR202聖書の世界2	2	2	◎				
MGCHR203聖書の世界3	2	2	◎				
MGCHR204聖書の世界4	2	2	◎				
MGCHR211キリスト教の思想と文化1	2	1			◎		
MGCHR212キリスト教の思想と文化2	2	1			◎		
MGCHR213キリスト教の思想と文化3	2	1			◎		
MGCHR214キリスト教の思想と文化4	2	1			◎		
MGCHR221宗教史1	2	1	◎				
MGCHR222宗教史2	2	1	◎				
MGCHR223宗教史3	2	1	◎				
MGCHR224宗教史4	2	1	◎				
MGCHR231現代社会とキリスト教1	2	1				○	◎
MGCHR232現代社会とキリスト教2	2	1				○	◎
MGCHR233現代社会とキリスト教3	2	1				○	◎
MGCHR234現代社会とキリスト教4	2	1				○	◎
MGPHI101哲学史1	2	1	◎	○	○	○	
MGPHI102哲学史2	2	1	◎	○	○	○	
MGPHI201哲学各論1	2	1	○	◎	○	○	
MGPHI202哲学各論2	2	1	○	◎	○	○	
MGPHI211科学思想1	2	1	○	◎	○	○	
MGPHI212科学思想2	2	1	○	◎	○	○	
MGETH101倫理学入門1	2	1	◎	○	○	○	
MGETH102倫理学入門2	2	1	◎	○	○	○	

学士力			知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」			期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」から抽出した身につく能力			現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGETH201倫理学各論1	2	1	○	◎	○	○	
MGETH202倫理学各論2	2	1	○	◎	○	○	
MGETH203倫理学各論3	2	1	○	◎	○	○	
MGETH204倫理学各論4	2	1	○	◎	○	○	
MGLOG101論理学概論1	2	1	◎	○	○	○	
MGLOG102論理学概論2	2	1	◎	○	○	○	
MGLOG201伝統論理学1	2	1	○	◎	○	○	
MGLOG202伝統論理学2	2	1	○	◎	○	○	
MGLOG211現代論理学1	2	1	○	◎	○	○	
MGLOG212現代論理学2	2	1	○	◎	○	○	
MGLIN101言語科学の基礎1	2	1	◎	○	○	○	
MGLIN102言語科学の基礎2	2	1	◎	○	○	○	
MGLIN103言語科学の基礎3	2	1	◎	○	○	○	
MGLIN104言語科学の基礎4	2	1	◎	○	○	○	
MGPSY101心理学入門1	2	1	◎	○		○	
MGPSY102心理学入門2	2	1	◎	○		○	
MGPSY201心理学各論1	2	2	○	◎		○	
MGPSY202心理学各論2	2	2	○	◎		○	
MGPSY203心理学各論3	2	2	○	◎		○	
MGPSY204心理学各論4	2	2	○	◎		○	
MGEDU101教育学の基礎1	2	1	◎				
MGEDU102教育学の基礎2	2	1	◎				
MGART101芸術学の基礎1	2	1	◎	○			
MGART102芸術学の基礎2	2	1	◎	○			
MGART201芸術学各論1	2	1	◎	○			
MGART202芸術学各論2	2	1	◎	○			
MGART203芸術学各論3	2	1	◎	○			
MGART204芸術学各論4	2	1	◎	○			
MGART205芸術学各論5	2	1	◎	○			
MGART206芸術学各論6	2	1	◎	○			
MGJPL101日本文学概論1	2	1	◎	○	○		
MGJPL102日本文学概論2	2	1	◎	○	○		
MGJPL201日本文学講読1	2	1	○	○	○		
MGJPL202日本文学講読2	2	1	○	○	○		
MGJPL203日本文学講読3	2	1	○	○	○		
MGJPL204日本文学講読4	2	1	○	○	○		
MGJPS101日本文化論入門1	2	1	◎		○		○
MGJPS102日本文化論入門2	2	1	◎		○		○
MGJPS103日本文化論入門3	2	1	◎		○		○
MGJPS104日本文化論入門4	2	1	◎		○		○
MGJPS201日本文化特論1	2	1			◎		○
MGJPS202日本文化特論2	2	1			◎		○
3.社会科学系科目群							
MGLAW101法学(日本国憲法を含む)1	2	1	◎	○		○	○
MGLAW102法学(日本国憲法を含む)2	2	1	◎	○		○	○
MGPOS101政治学1	2	1	◎	○		○	○
MGPOS102政治学2	2	1	◎	○		○	○
MGSOC101社会学理論の基礎1	2	1	○	◎	○		
MGSOC102社会学理論の基礎2	2	1	○	◎	○		
MGSOC111文化とゲンダルの社会学入門1	2	1		◎	○		
MGSOC112文化とゲンダルの社会学入門2	2	1		◎	○		
MGSOC121生命とゲンダルの社会学入門1	2	1		◎	○		

学士力			知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」			期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」から抽出した身につく能力			現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGSOC122生命とアソシエイティの社会学入門2	2	1		◎	○		
MGSOC131環境とコミュニティの社会学入門1	2	1		◎	○		
MGSOC132環境とコミュニティの社会学入門2	2	1		◎	○		
MGSWS101社会福祉学1	2	1	◎		○		○
MGSWS102社会福祉学2	2	1	◎		○		○
MGSTA101統計学1	2	1	◎				○
MGSTA102統計学2	2	1	◎				○
MGSTA103統計学3	2	1	◎				○
MGSTA104統計学4	2	1	◎				○
MGHIS201歴史学1	2	1	○	○	◎		○
MGHIS202歴史学2	2	1	○	○	○		○
MGHIS203歴史学3	2	1	○	○	○		○
MGHIS204歴史学4	2	1	○	○	○		○
MGHIS205歴史学5	2	1	○	○	○		○
MGHIS206歴史学6	2	1	○	○	○		○
MGHIS211歴史学の世界1	2	1	○	○	○		○
MGHIS212歴史学の世界2	2	1	○	○	○		○
MGGEO101人文地理学入門1	2	1	◎	○			
MGGEO102人文地理学入門2	2	1	◎	○			
MGGEO201人文地理学1	2	1	○	◎	○		
MGGEO202人文地理学2	2	1	○	◎	○		
MGGEO203人文地理学3	2	1	○	◎	○		
MGGEO204人文地理学4	2	1	○	◎	○		
MGGEO205人文地理学5	2	1	○	◎	○		
MGGEO206人文地理学6	2	1	○	◎	○		
MGANT101文化人類学入門1	2	1	○	○	○		○
MGANT102文化人類学入門2	2	1	○	○	○		○
MGANT201文化人類学各論1	2	1	○	○	○		○
MGANT202文化人類学各論2	2	1	○	○	○		○
MGSOS101社会科学概論1	2	1	○	○	○		○
MGSOS102社会科学概論2	2	1	○	○	○		○
MGSOS103社会科学概論3	2	1	○	○	○		○
MGSOS104社会科学概論4	2	1	○	○	○		○
4.自然科学系科目群							
MGMAT101数学入門1	2	1	◎	○		○	
MGMAT102数学入門2	2	1	◎	○		○	
MGMAT111数学1	2	1	◎	○		○	
MGMAT112数学2	2	1	◎	○		○	
MGMAT113数学3	2	1	◎	○		○	
MGMAT114数学4	2	1	◎	○		○	
MGMAT211数学特論1	2	1	○	○		◎	
MGMAT212数学特論2	2	1	○	○		◎	
MGPHY101物理学入門1	2	1	◎	○		○	○
MGPHY102物理学入門2	2	1	◎	○		○	○
MGPHY103物理学入門3	2	1	◎	○		○	○
MGPHY201現代の物理学1	2	1	◎	○		○	○
MGPHY202現代の物理学2	2	1	◎	○		○	○
MGPHY203現代の物理学3	2	1	◎	○		○	○
MGPHY211物理学特論	2	1	○	○		○	◎
MGPHY121物理学方法論A	2	1	○	○		○	◎
MGPHY122物理学方法論B	2	1	○	○		○	◎
MGCHE101化学入門1	2	1	◎	○			

学士力			知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」			期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」から抽出した身につく能力			現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGCHE102化学入門2	2	1	◎	○			
MGCHE201現代の化学1	2	1	◎	○			
MGCHE202現代の化学2	2	1	◎	○			
MGCHE203現代の化学3	2	1	◎	○			
MGCHE204現代の化学4	2	1	◎	○			
MGCHE121化学方法論A	2	1	○			○	◎
MGCHE122化学方法論B	2	1	○			○	◎
MGBIO101生物学入門1	2	1	◎	○		○	○
MGBIO102生物学入門2	2	1	◎	○		○	○
MGBIO201現代の生物学1	2	1	◎	○		○	○
MGBIO202現代の生物学2	2	1	◎	○		○	○
MGBIO203現代の生物学3	2	1	◎	○		○	○
MGBIO204現代の生物学4	2	1	◎	○		○	○
MGBIO205現代の生物学5	2	1	◎	○		○	○
MGBIO211生物学特論	2	1	○	○	◎	○	
MGBIO121生物学方法論A	2	1	○	○		○	◎
MGBIO122生物学方法論B	2	1	○	○		○	◎
MGLIS101生命科学入門1	2	1	◎	○			
MGLIS102生命科学入門2	2	1	◎	○			
MGLIS201生命科学各論1	2	1	◎	○			
MGLIS202生命科学各論2	2	1	◎	○			
MGLIS203生命科学各論3	2	1	◎	○			
MGLIS211生命科学特論	2	1	○	○		○	◎
MGLIS121生命科学方法論A	2	1	○	○		○	◎
MGLIS122生命科学方法論B	2	1	○	○		○	◎
5.情報処理系科目群							
MGCOM201コンピュータリテラシー研究1A	2	1	◎	○		○	
MGCOM202コンピュータリテラシー研究1B	2	1	◎	○		○	
MGCOM203コンピュータリテラシー研究2A	2	1	◎	○		○	
MGCOM204コンピュータリテラシー研究2B	2	1	◎	○		○	
MGCOM211情報科学1	2	1	◎	○		○	
MGCOM212情報科学2	2	1	◎	○		○	
MGCOM213情報科学3	2	1	◎	○		○	
MGCOM214情報科学4	2	1	◎	○		○	
6.健康・スポーツ科学系科目群							
MGHSS101健康科学概論1	2	1	◎			○	○
MGHSS102健康科学概論2	2	1	◎			○	○
MGHSS111スポーツ科学概論1	2	1	◎			○	○
MGHSS112スポーツ科学概論2	2	1	◎			○	○
MGHSS121スポーツ社会学概論1	2	1	◎			○	○
MGHSS122スポーツ社会学概論2	2	1	◎			○	○
MGHSS131スポーツ方法学1	2	1		◎	○	○	○
MGHSS132スポーツ方法学2	2	1		◎	○	○	○
MGHSS133スポーツ方法学3	2	1		◎	○	○	○
MGHSS134スポーツ方法学4	2	1		◎	○	○	○
MGHSS201トレーニング・科学理論・実習1	2	1	○		○	○	◎
MGHSS202トレーニング・科学理論・実習2	2	1	○		○	○	◎
MGHSS211バイオメカニクス理論・実習1	2	1	○			○	◎
MGHSS212バイオメカニクス理論・実習2	2	1	○			○	◎
MGHSS141シーザンスポーツ研究1A	2	1		◎	○	○	○
MGHSS143シーザンスポーツ研究2A	2	1		◎	○	○	○
MGHSS145シーザンスポーツ研究3A	2	1		◎	○	○	○

学士力			知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」			期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」から抽出した身につく能力			現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGHSS242シーズンスポーツ研究1B	2	1		○	◎	○	○
MGHSS244シーズンスポーツ研究2B	2	1		○	◎	○	○
MGHSS246シーズンスポーツ研究3B	2	1		○	◎	○	○
7.総合教育系科目群							
MGIND101現代世界と人間1	2	1		○	◎	○	
MGIND102現代世界と人間2	2	1		○	◎	○	
MGIND103現代世界と人間3	2	1		○	◎	○	
MGIND104現代世界と人間4	2	1		○	◎	○	
MGIND105現代世界と人間5	2	1		○	◎	○	
MGIND106現代世界と人間6	2	1		○	◎	○	
MGIND111現代社会と教養1	2	1		○	◎	○	
MGIND112現代社会と教養2	2	1		○	◎	○	
MGIND121多文化共生入門1	2	1		○	◎	○	○
MGIND122多文化共生入門2	2	1		○	◎	○	○
MGIND201多文化共生各論1	2	1		○	◎	○	○
MGIND202多文化共生各論2	2	1		○	◎	○	○
MGIND203多文化共生各論3	2	1		○	◎	○	○
MGIND204多文化共生各論4	2	1		○	◎	○	○
MGIND131グローバルシズンシップ入門1	2	1		○	○	◎	○
MGIND132グローバルシズンシップ入門2	2	1		○	○	◎	○
MGIND211グローバルシズンシップ各論1	2	1		○	○	◎	○
MGIND212グローバルシズンシップ各論2	2	1		○	○	◎	○
MGIND213グローバルシズンシップ各論3	2	1		○	○	◎	○
MGIND214グローバルシズンシップ各論4	2	1		○	○	◎	○
MGIND141現代平和研究1	2	1	○	○	◎	○	
MGIND142現代平和研究2	2	1	○	○	◎	○	
MGIND143現代平和研究3	2	1	○	○	◎		○
MGIND221スタディーアーツ1	2	1		◎	○		
MGIND222スタディーアーツ2	2	1		◎	○		
MGIND223スタディーアーツ3	2	1		◎	○		
MGIND224スタディーアーツ4	2	1		◎	○		
MGMGS101明治学院研究1	2	1	◎				
MGMGS202明治学院研究2	2	1	◎				
MGMGS203明治学院研究3	2	1	◎				
MGENV101環境学各論1	2	1	◎	○		○	
MGENV102環境学各論2	2	1	◎	○		○	
MGENV103環境学各論3	2	1	○	○		○	◎
MGENV104環境学各論4	2	1	○	○		○	◎
MGSUS101サステイナビリティ-学1	2	1		◎	○	○	○
MGSUS102サステイナビリティ-学2	2	1		◎	○	○	○
MGSUS103サステイナビリティ-学3	2	1		◎	○	○	○
MGSUS104サステイナビリティ-学4	2	1		◎	○	○	○
MGVOL101ボランティア学入門1	2	1		○	◎		○
MGVOL102ボランティア学入門2	2	1		○	◎		○
MGVOL103ボランティア学入門3	2	1		○	◎		○
MGVOL104ボランティア学入門4	2	1		○	◎		○
MGVOL111グローバル社会と市民活動入門1	2	1		○	◎	○	○
MGVOL112グローバル社会と市民活動入門2	2	1		○	◎	○	○
MGVOL201グローバル社会と市民活動1	2	1		○	○	◎	○
MGVOL202グローバル社会と市民活動2	2	1		○	○	○	◎
MGVOL121ボランティア・市民活動論(国内)1A	2	1		○	◎	○	
MGVOL122ボランティア・市民活動論(海外)2A	2	1		○	◎	○	

学士力			知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」			期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」から抽出した身につく能力			現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	単位	年次	科目に最も関連する能力=○、科目に関連する能力=○				
MGVOL223ボランティア・市民活動論(国内)1B	2	1			○	○	○
MGVOL224ボランティア・市民活動論(海外)2B	2	2			○	○	○
MGVOL231ボランティア・市民活動実習(国内)	2	1			○	○	○
MGVOL232ボランティア・市民活動実習(海外)	2	2			○	○	○
MGVOL301ボランティア・市民活動研究(国内)	2	2		○		○	○
MGVOL302ボランティア・市民活動研究(海外)	2	2		○		○	○
MGACW101アカデミック・ライティングの基礎	2	1		○	○	○	
MGACW201アカデミック・ライティング 演習1	2	1		○	○	○	
MGLCD101ライティング1	2	1		○	○	○	○
MGLCD202ライティング2	2	2		○	○	○	○
MGLCD203ライティング3	2	3		○	○	○	○
MGLCD204ライティング4	2	3		○	○	○	○
MGLCD111キャリアデザイン1	2	2		○	○	○	○
MGLCD212キャリアデザイン2	2	2		○	○	○	○
MGSEM301アジア・日本研究A	2	3		○	○	○	○
MGSEM302アジア・日本研究B	2	3		○	○	○	○
MGSEM3113-ロッパ 文化圏研究A	2	3		○	○	○	○
MGSEM3123-ロッパ 文化圏研究B	2	3		○	○	○	○
MGSEM321現代科学研究A	2	3		○	○	○	○
MGSEM322現代科学研究B	2	3		○	○	○	○
MGSEM331現代社会研究A	2	3		○	○	○	○
MGSEM332現代社会研究B	2	3		○	○	○	○
MGPIO101れいん実習1	2	2	○				
MGPIO202れいん実習2	2	2	○				
MGINT201Japanese Arts and Culture 1	2	1	○	○	○		
MGINT202Japanese Arts and Culture 2	2	1	○	○	○		
MGINT203Japanese Arts and Culture 3	2	1	○	○	○		
MGINT204Japanese Arts and Culture 4	2	1	○	○	○		
MGINT205Japanese Arts and Culture 5	2	1	○	○	○		
MGINT206Japanese Arts and Culture 6	2	1	○	○	○		
MGINT211Japanese History 1	2	1	○	○	○		
MGINT212Japanese History 2	2	1	○	○	○		
MGINT213Japanese History 3	2	1	○	○	○		
MGINT214Japanese History 4	2	1	○	○	○		
MGINT215Japanese History 5	2	1	○	○	○		
MGINT216Japanese History 6	2	1	○	○	○		
MGINT221Japanese Society 1	2	1	○	○	○		
MGINT222Japanese Society 2	2	1	○	○	○		
MGINT223Japanese Society 3	2	1	○	○	○		
MGINT224Japanese Society 4	2	1	○	○	○		
MGINT225Japanese Society 5	2	1	○	○	○		
MGINT226Japanese Society 6	2	1	○	○	○		
MGINT231Multilingualism and Multiculturalism 1	2	1	○	○	○		
MGINT232Multilingualism and Multiculturalism 2	2	1	○	○	○		
MGINT233Multilingualism and Multiculturalism 3	2	1	○	○	○		
MGINT234Multilingualism and Multiculturalism 4	2	1	○	○	○		
MGINT241Current Issues 1	2	1	○	○	○		
MGINT242Current Issues 2	2	1	○	○	○		
MGINT243Current Issues 3	2	1	○	○	○		
MGINT244Current Issues 4	2	1	○	○	○		
MGCCS111異文化コミュニケーション研究A	2	1		○	○	○	
MGCCS112異文化コミュニケーション研究B	2	1		○	○	○	

学士力			知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」			期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」から抽出した身につく能力			現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
留学生関連科目							
MGCCS101日本の社会と文化1A	2	1		○	◎	○	
MGCCS102日本の社会と文化1B	2	1		○	◎	○	
MGCCS103日本の社会と文化2A	2	1		○	◎	○	
MGCCS104日本の社会と文化2B	2	1		○	◎	○	
MGCCS105日本の社会と文化3A	2	1		○	◎	○	
MGCCS106日本の社会と文化3B	2	1		○	◎	○	
MGACW202アカデミック・ライティング 演習2(留学生専用)	2	1		◎	○	○	
8.AI-デーダイインス系科目群							
MGAID101AI-デーダイインス入門	2	1	◎	○		○	○
9.特別学部科目							
SGBAS101社会学概論A	2	1	◎	○	○		
SGBAS102社会学概論B	2	1	◎	○	○		
SGBAS204内なる国際化論A	2	3	○	○	◎		○
SGBAS205内なる国際化論B	2	3	○	○	◎		○
SGVOL201ボランティア実践指導	4	3		○	◎		○
単位認定用科目							
1.短期留学認定科目							
MGRES101ヨーロッパ研究(短期留学)	4	1	○	◎		○	
MGRES102北米研究(短期留学)	4	1	○	◎		○	
MGRES103ペイン研究(短期留学)	4	1	○	◎		○	
MGRES104カナダ研究(短期留学)	4	1	○	◎		○	
MGRES105フランス研究(短期留学)	4	1	○	◎		○	
MGRES106アメリカ研究(短期留学)	4	1	○	◎		○	
MGRES107カナダ研究(短期留学)	4	1	○	◎		○	
MGRES108韓国研究(短期留学)	4	1	○	◎		○	
MGRES109中国研究(短期留学)	4	1	○	◎		○	
MGRES110セニア研究(短期留学)	4	1	○	◎		○	
MGRES111東南アジア研究(短期留学)	4	1	○	◎		○	
2.中期留学認定科目							
MGRES121アメリカ研究(中期留学)基礎1	1	1	○	◎		○	
MGRES122アメリカ研究(中期留学)基礎2	1	1	○	◎		○	
MGRES123アメリカ研究(中期留学)基礎3	1	1	○	◎		○	
MGRES124アメリカ研究(中期留学)基礎4	1	1	○	◎		○	
MGRES125アメリカ研究(中期留学)基礎5	1	1	○	◎		○	
MGRES126アメリカ研究(中期留学)基礎6	1	1	○	◎		○	
MGRES221アメリカ研究(中期留学)応用1	1	1	○	◎		○	
MGRES222アメリカ研究(中期留学)応用2	1	1	○	◎		○	
MGRES223アメリカ研究(中期留学)応用3	1	1	○	◎		○	
MGRES224アメリカ研究(中期留学)応用4	1	1	○	◎		○	
MGRES225アメリカ研究(中期留学)応用5	1	1	○	◎		○	
MGRES226アメリカ研究(中期留学)応用6	1	1	○	◎		○	
MGRES321アメリカ研究(中期留学)発展1	1	1	○	◎		○	
MGRES322アメリカ研究(中期留学)発展2	1	1	○	◎		○	
MGRES323アメリカ研究(中期留学)発展3	1	1	○	◎		○	
MGRES324アメリカ研究(中期留学)発展4	1	1	○	◎		○	
MGRES325アメリカ研究(中期留学)発展5	1	1	○	◎		○	
MGRES326アメリカ研究(中期留学)発展6	1	1	○	◎		○	
3.海外インターナショナル関連科目							
MGITS101海外インターナショナル 課題研究A	2	1		○	○	○	◎
MGITS102海外インターナショナル 課題研究B	2	1		○	○	○	◎
MGITS201海外インターナショナル A	4	1		○	○	○	◎
MGITS202海外インターナショナル B	4	1		○	○	○	◎

履修上の注意

- ①A・Bあるいは1～6はそれぞれ独立した科目である。なお、原則としてA・Bは、同一曜時限の同一担当者のクラスを履修することとする。
- ②A・Bは原則としてその順序で履修する（いずれかのみの履修の可否、あるいは両方の履修の要否は科目ごとに指示することとするが、1～6は特に指示された場合を除き、どの順序で履修しても差し支えない。また、1～6の全てを履修する必要はない。なお、同学期中に1～6の番号の異なる複数の授業を履修してもよい。）
- ③以下の表の配当年次とは、その科目を履修できる下限の年次を示したものである。1年次配当科目とは、1年次以上の学生が履修できることを意味している。
- ④特に指示がある科目を除き、同一科目が異なる曜時限に複数開講されている場合でも、履修できるのは1つだけである。
(例：「キリスト教の思想と文化1」が月曜1限と月曜2限に開講されている場合、履修できるのは片方のみ)
- ⑤修得可能な単位数は、学科ごとに定められている。『履修要項』での説明を参照すること。
- ⑥履修可能なクラスの開講学期等については、Port Hepburnの時間割表（開講科目情報）で、各自が所属する学科・入学年度の時間割表を参照すること。
- ⑦学生は自身の興味関心にしたがって所定のルールの範囲内で自由に履修することができるが、関連する科目を有機的に履修することにより、学修の幅をもたせることができある。その理想的な「モデル」として各テーマに沿った「仮想コース」（「アジア地域研究入門コース」・「Do for Others とボランティア・市民活動コース」・「多文化共生コース」・「持続可能な社会コース」）が設定されている。なお、詳細は教養教育センターホームページを参照すること。

必修科目

必修および選択必修科目。以下の科目1～3について、それぞれ所定の単位を修得すること。

1. [コア科目]

全学必修のキリスト教関連科目。A・Bそれぞれ2単位、計4単位を修得しなければならない。

ナンバリング	科目名			レベル	単位数	配当年次
MGCHR 101～102	キリスト教の基礎A・B			1	各2	1年次

2. [言語系科目群]

必修である英語科目と選択必修の初習語科目。

経済学部各学科の履修一覧

	英語コミュニケーション	フランス語	中国語	ドイツ語	スペイン語	ロシア語	韓国語	日本語
経済学科	●	○	○	○	○	○	○	×
	必修	初習語として、いずれか一言語（4単位）を選択必修						留学生用
経営学科	●	○	○	○	○	○	○	×
	必修	初習語として、いずれか一言語（4単位）を選択必修						留学生用
国際経営学科	●	○	○	○	○	○	○	×
	必修	初習語として、いずれか一言語（4単位）を選択必修						留学生用
経済学科 経営学科 留学生	○	○	○	○	○	○	○	●
選択必修	初習語として、いずれか一言語（4単位）を選択必修（母語以外）						必修	
国際経営学科 留学生	●	×	×	×	×	×	×	●
必修	履修不可能						必修	

- ・表においては、●：必修 ○：選択必修 ×：履修不可能 を表す。
- ・英語科目については、「英語コミュニケーション」1A・1B・2A・2Bの計4単位を修得しなければならない。
- ・初習語とは、フランス語・中国語・ドイツ語・スペイン語・ロシア語・韓国語をいう。いずれか1言語を選択し、その言語について1A・1B・2A・2Bの計4単位を修得しなければならない。可能な限り1年次での単位修得が望ましい。原則として、入学時に選択した「初習語」は他の言語へ変更することはできない。
- ・「日本語」1A・1B・2A・2Bは留学生のための必修科目であり、一般学生は履修することができない。
- ・経済学科・経営学科留学生は「日本語」1A・1B・2A・2Bの計4単位を必修とし、さらに日本語以外の1言語（英語、フランス語、中国語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、韓国語、ただし母語は除く）を選択し、その言語について1A・1B・2A・2Bの計4単位を修得しなければならない。
- ・国際経営学科留学生は「日本語」1A・1B・2A・2Bの計4単位、および「英語コミュニケーション」1A・1B・2A・2Bの計4単位をそれぞれ必修とする。

言語系必修・選択必修科目

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGENG	101~104	英語コミュニケーション1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次
MGFRE	101~104	フランス語1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次
MGCHN	101~104	中国語1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次
MGGER	101~104	ドイツ語1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次
MGSPN	101~104	スペイン語1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次
MGRUS	101~104	ロシア語1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次
MGKOR	101~104	韓国語1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次
MGJPN	101~104	日本語1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次

- ・英語以外の言語について、大学入学以前に既に学習している言語を選択する際には必ず教務課窓口に相談すること。
相談の結果、許可された者は上記の言語1A・1B・2A・2Bではなく、3A・3B・4A・4Bを選択必修科目として履修することになる。

選択科目

以下の諸科目から自由に選択して履修することができる。多様な科目を選択してもよいし、同一分野の科目を集中的に選択してもよい。学生それぞれの関心に即して履修計画を立てることが可能である。

- ・各科目ごとの内容は、シラバスに（授業テーマを付して）公表される。履修に際してはそれらを参照すること。
- ・履修者数が制限があるので、履修希望者はシラバスを参照すること。

1. [言語系科目群]

「○○語演習」

- ・必修科目として選択した初習語と同じ言語について、コミュニケーション力向上を目指す。
- ・選択した「初習語」1A・1B・2A・2Bとの同時履修を原則とする。
- ・この科目的単位修得をもって、初習語必修単位に振り替えることはできない。
- ・「○○語」3A・3B・4A・4Bを選択必修科目として履修を許可された者は、同一言語の「○○語演習初級」A・Bは履修できない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGFRE	111~112	フランス語演習初級A・B	1	各1	1年次
	221~222	フランス語演習中級A・B	2	各1	1年次
MGCHN	111~112	中国語演習初級A・B	1	各1	1年次
	221~222	中国語演習中級A・B	2	各1	1年次
MGGER	111~112	ドイツ語演習初級A・B	1	各1	1年次
	221~222	ドイツ語演習中級A・B	2	各1	1年次
MGSPN	111~112	スペイン語演習初級A・B	1	各1	1年次
	221~222	スペイン語演習中級A・B	2	各1	1年次
MGKOR	111~112	韓国語演習初級A・B	1	各1	1年次
	221~222	韓国語演習中級A・B	2	各1	1年次

「〇〇語研究」・「英語特別研究」

- ・英語および必修科目で選択した初習語について、次年度以降も学修を継続することを希望する学生のためのインテンシブクラスである。「〇〇語研究」1A・1B・2A・2B・3A・3Bは2年次から、「〇〇語研究」4A・4Bは3年次以上から履修が可能となる。いずれも2単位科目である。原則として、A・Bセットで履修すること。履修者数の制限があるため、履修者が超過した場合、必修履修者が優先となることがある。
- ・履修に際し一定の語学力が必要とされるため、「英語コミュニケーション」1A・1B・2A・2Bの計4単位を未修得の者が、「英語研究」を履修することは望ましくない。また、「英語コミュニケーション」が必修ではない学生が履修を希望する場合は、初回の授業に必ず出席して履修許可を得ることが必要である。
- ・必修科目で選択した「初習語」1A・1B・2A・2Bの計4単位を未修得の者が、「〇〇語研究」を履修することは望ましくない。
- ・「英語特別研究」A・Bは、1年次で「英語コミュニケーション」に加えてリテラシー（読み・書き）を強化することを希望する学生のためのインテンシブクラスである。
- ・これらの科目の単位修得をもって、初習語必修単位に振り替えることはできない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGENG	201～202	英語特別研究A・B	2	各2	1年次
	211～216	英語研究1A・1B・2A・2B・3A・3B	2	各2	2年次
MGFRE	211～214	フランス語研究1A・1B・2A・2B	2	各2	2年次
	315～316	フランス語研究3A・3B	3	各2	2年次
	317～318	フランス語研究4A・4B	3	各2	3年次
MGCHN	211～214	中国語研究1A・1B・2A・2B	2	各2	2年次
	315～316	中国語研究3A・3B	3	各2	2年次
	317～318	中国語研究4A・4B	3	各2	3年次
MGGER	211～214	ドイツ語研究1A・1B・2A・2B	2	各2	2年次
	315～316	ドイツ語研究3A・3B	3	各2	2年次
	317～318	ドイツ語研究4A・4B	3	各2	3年次
MGSPN	211～214	スペイン語研究1A・1B・2A・2B	2	各2	2年次
	315～316	スペイン語研究3A・3B	3	各2	2年次
	317～318	スペイン語研究4A・4B	3	各2	3年次
MGRUS	211～214	ロシア語研究1A・1B・2A・2B	2	各2	2年次
	315～316	ロシア語研究3A・3B	3	各2	2年次
	317～318	ロシア語研究4A・4B	3	各2	3年次
MGKOR	211～214	韓国語研究1A・1B・2A・2B	2	各2	2年次
	315～316	韓国語研究3A・3B	3	各2	2年次
	317～318	韓国語研究4A・4B	3	各2	3年次

「〇〇語」3A・3B・4A・4B

- ・必修科目として選択した言語の既習者用のインテンシブクラスであり、国際学科生以外は自由に履修できない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGFRE	205～208	フランス語3A・3B・4A・4B	2	各1	1年次
MGCHN	205～208	中国語3A・3B・4A・4B	2	各1	1年次
MGGER	205～208	ドイツ語3A・3B・4A・4B	2	各1	1年次
MGSPN	205～208	スペイン語3A・3B・4A・4B	2	各1	1年次
MGRUS	205～208	ロシア語3A・3B・4A・4B	2	各1	1年次
MGKOR	205～208	韓国語3A・3B・4A・4B	2	各1	1年次

「〇〇語の基礎」および西洋古典語研究

- 必修および選択必修以外の言語について、基礎的な学修を希望する学生のためのインテンシブクラスである。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGITA	101~102	イタリア語の基礎A・B	1	各1	1年次
MGARB	101~102	アラビア語の基礎A・B	1	各1	1年次
MGTHA	101~102	タイ語の基礎A・B	1	各1	1年次
MGGRE	101~102	ギリシア語研究A・B	1	各2	1年次
MGLAT	101~102	ラテン語研究A・B	1	各2	1年次

手話

- 手話の知識を学び、基本的な運用能力を身につける。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGSIG	101	手話1	1	2	1年次
	202	手話2	2	2	1年次

外国文化論科目

- それぞれの国の文化、社会について知識を深め、言語学習への興味を持たせるための入門的科目と、当該言語の資料にも触れながら、社会、文化についての知識を深める各論科目である。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGEUC	101~106	ヨーロッパ言語圏の文化入門1・2・3・4・5・6	1	各2	1年次
	111~116	ヨーロッパ言語圏の文化各論1・2・3・4・5・6	1	各2	1年次
MGASC	101~104	アジア言語圏の文化入門1・2・3・4	1	各2	1年次
	111~114	アジア言語圏の文化各論1・2・3・4	1	各2	1年次

留学生関連科目

- 以下は留学生のための科目であり、一般学生は履修できない。
- 留学生の履修については、別途ガイダンス等の説明を参照し、その指導に従うこと。
- 「日本語研究」3A・3Bは、2年次生でも白金校舎での履修が可能である。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGJPN	205~208	日本語3A・3B・4A・4B	2	各1	2年次
	211~216	日本語研究1A・1B・2A・2B・3A・3B	2	各2	2年次

2. [人文科学系科目群]

ナンバリング	科目名	レベル	単位数	配当年次
MGCHR	201~204 聖書の世界1・2・3・4	2	各2	2年次
	211~214 キリスト教の思想と文化1・2・3・4	2	各2	1年次
	221~224 宗教史1・2・3・4	2	各2	1年次
	231~234 現代社会とキリスト教1・2・3・4	2	各2	1年次
MGPHI	101~102 哲学史1・2	1	各2	1年次
	201~202 哲学各論1・2	2	各2	1年次
	211~212 科学思想1・2	2	各2	1年次
MGETH	101~102 倫理学入門1・2	1	各2	1年次
	201~204 倫理学各論1・2・3・4	2	各2	1年次
MGLOG	101~102 論理学概論1・2	1	各2	1年次
	201~202 伝統論理学1・2	2	各2	1年次
	211~212 現代論理学1・2	2	各2	1年次
MGLIN	101~104 言語科学の基礎1・2・3・4	1	各2	1年次
MGPSY	101~102 心理学入門1・2	1	各2	1年次
	201~204 心理学各論1・2・3・4	2	各2	2年次
MGEDU	101~102 教育学の基礎1・2	1	各2	1年次
MGART	101~102 芸術学の基礎1・2	1	各2	1年次
	201~206 芸術学各論1・2・3・4・5・6	2	各2	1年次
MGJPL	101~102 日本文学概論1・2	1	各2	1年次
	201~204 日本文学講読1・2・3・4	2	各2	1年次
MGJPS	101~104 日本文化論入門1・2・3・4	1	各2	1年次
	201~202 日本文化特論1・2	2	各2	1年次

※3年次以上で「哲学（専）」1・2を履修するためには、「MGPHI」（哲学）、「MGETH」（倫理学）、「MGLOG」（論理学）の中から、ナンバリングのアルファベットが同一の2科目（計4単位）を修得済みでなければならない。

※「心理学各論」1~4を履修するためには、「心理学入門」1・2の単位修得が望ましい。

3. [社会科学系科目群]

ナンバリング	科目名	レベル	単位数	配当年次
MGLAW	101~102 法学（日本国憲法を含む）1・2	1	各2	1年次
MGPOS	101~102 政治学1・2	1	各2	1年次
MGSOC	101~102 社会学理論の基礎1・2	1	各2	1年次
	111~112 文化とメディアの社会学入門1・2	1	各2	1年次
	121~122 生命とアイデンティティの社会学入門1・2	1	各2	1年次
	131~132 環境とコミュニティの社会学入門1・2	1	各2	1年次
MGSWS	101~102 社会福祉学1・2	1	各2	1年次
MGSTA	101~104 統計学1・2・3・4（注1）	1	各2	1年次
MGHIS	201~206 歴史学1・2・3・4・5・6	2	各2	1年次
	211~212 歴史学の世界1・2	2	各2	1年次
MGGEO	101~102 人文地理学入門1・2	1	各2	1年次
	201~206 人文地理学1・2・3・4・5・6	2	各2	1年次
MGANT	101~102 文化人類学入門1・2	1	各2	1年次
	201~202 文化人類学各論1・2	2	各2	1年次
MGSOS	101~104 社会科学概論1・2・3・4	1	各2	1年次

注1：経済学科生は「統計学」1・2・3・4を履修できない。

4. [自然科学系科目群]

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGMAT	101~102	数学入門1・2	1	各2	1年次
	111~114	数学1・2・3・4	1	各2	1年次
	211~212	数学特論1・2	2	各2	1年次
MGPHY	101~103	物理学入門1・2・3	1	各2	1年次
	201~203	現代の物理学1・2・3	2	各2	1年次
	211	物理学特論	2	2	1年次
	121~122	物理学方法論A・B	1	各2	1年次
MGCHE	101~102	化学入門1・2	1	各2	1年次
	201~204	現代の化学1・2・3・4	2	各2	1年次
	121~122	化学方法論A・B	1	各2	1年次
MGBIO	101~102	生物学入門1・2	1	各2	1年次
	201~205	現代の生物学1・2・3・4・5	2	各2	1年次
	211	生物学特論	2	2	1年次
	121~122	生物学方法論A・B	1	各2	1年次
MGLIS	101~102	生命科学入門1・2	1	各2	1年次
	201~203	生命科学各論1・2・3	2	各2	1年次
	211	生命科学特論	2	2	1年次
	121~122	生命科学方法論A・B	1	各2	1年次

5. [情報処理系科目群]

- ・以下は中級以上の技能を有する学生のための科目である。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGCOM	201~204	コンピュータリテラシー研究1A・1B・2A・2B	2	各2	1年次
	211~214	情報科学1・2・3・4	2	各2	1年次

6. [健康・スポーツ科学系科目群]

・履修に際しては、シラバス、『明治学院共通科目 履修の手引き』を参照すること。

ナンバリング	科目名	レベル	単位数	配当年次
MGHSS	101~102 健康科学概論1・2	1	各2	1年次
	111~112 スポーツ科学概論1・2	1	各2	1年次
	121~122 スポーツ社会学概論1・2	1	各2	1年次
	131~134 スポーツ方法学1・2・3・4	1	各2	1年次
	201~202 トレーニング科学理論・実習1・2	2	各2	1年次
	211~212 バイオメカニクス理論・実習1・2	2	各2	1年次
	141・143・145 シーズンスポーツ研究1A・2A・3A	1	各2	1年次
	242・244・246 シーズンスポーツ研究1B・2B・3B	2	各2	1年次

・経済学部生においては「健康・スポーツ科学系科目群」からは合わせて8単位までが卒業要件単位となる。それ以上修得しても卒業に必要な単位とはならない。

7. [総合教育系科目群]

ナンバリング	科目名	レベル	単位数	配当年次
MGIND	101~106 現代世界と人間1・2・3・4・5・6	1	各2	1年次
	111~112 現代社会と教養1・2	1	各2	1年次
	121~122 多文化共生入門1・2	1	各2	1年次
	201~204 多文化共生各論1・2・3・4	2	各2	1年次
	131~132 グローバルシチズンシップ入門1・2	1	各2	1年次
	211~214 グローバルシチズンシップ各論1・2・3・4	2	各2	1年次
	141~143 現代平和研究1・2・3	1	各2	1年次
	221~224 スタディーツアー1・2・3・4 (注2)	2	各2	1年次
MGMGS	101 明治学院研究1	1	2	1年次
	202~203 明治学院研究2・3	2	各2	1年次
MGENV	101~104 環境学各論1・2・3・4	1	各2	1年次
MGSUS	101~104 サステナビリティー学1・2・3・4	1	各2	1年次
MGVOL	101~104 ボランティア学入門1・2・3・4	1	各2	1年次
	111~112 グローバル社会と市民活動入門1・2	1	各2	1年次
	201~202 グローバル社会と市民活動1・2	2	各2	1年次
	121 ボランティア・市民活動論（国内）1A	1	2	1年次
	122 ボランティア・市民活動論（海外）2A	1	2	1年次
	223 ボランティア・市民活動論（国内）1B	2	2	1年次
	224 ボランティア・市民活動論（海外）2B	2	2	2年次
	231 ボランティア・市民活動実習（国内）	2	2	1年次
	232 ボランティア・市民活動実習（海外）	2	2	2年次
	301 ボランティア・市民活動研究（国内）	3	2	2年次
	302 ボランティア・市民活動研究（海外）	3	2	2年次
MGACW	101 アカデミック・ライティングの基礎（注3）	1	2	1年次
	201 アカデミック・ライティング演習1（注3）	2	2	1年次
MGLCD	101 ライフデザイン1	1	2	1年次
	202 ライフデザイン2	2	2	2年次
	203~204 ライフデザイン3・4	2	各2	3年次

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGLCD	111	キャリアデザイン1	1	2	2年次
	212	キャリアデザイン2	2	2	2年次
MGSEM	301~302	アジア・日本研究A・B	3	各2	3年次
	311~312	ヨーロッパ文化圏研究A・B	3	各2	3年次
	321~322	現代科学研究A・B	3	各2	3年次
	331~332	現代社会研究A・B	3	各2	3年次
MGPIO	101	オルガン実習1	1	2	2年次
	202	オルガン実習2	2	2	2年次
MGINT	201~206	Japanese Arts and Culture 1・2・3・4・5・6	2	各2	1年次
	211~216	Japanese History 1・2・3・4・5・6	2	各2	1年次
	221~226	Japanese Society 1・2・3・4・5・6	2	各2	1年次
	231~234	Multilingualism and Multiculturalism 1・2・3・4	2	各2	1年次
	241~244	Current Issues 1・2・3・4	2	各2	1年次
MGCCS	111~112	異文化コミュニケーション研究A・B (注4)	1	各2	1年次

注2：「スタディーツアー」1・2・3・4は各学科で定める年間履修上限単位数には含まれない。

注3：「アカデミック・ライティングの基礎」と「アカデミック・ライティング演習」1は同学期に履修することができない。

また、「アカデミック・ライティング演習」1の単位を修得後に「アカデミック・ライティングの基礎」を履修することはできない。

注4：この科目は、「日本の社会と文化」1A・1B・2A・2B・3A・3Bにおいて、留学生の授業に一般学生が参加するために設けられた科目である。この科目の履修資格と履修上の要件については、シラバスおよび『明治学院共通科目履修の手引き』を参照すること。

留学生関連科目

- ・以下は留学生のための科目であり、一般学生は履修できない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGCCS	101~106	日本の社会と文化1A・1B・2A・2B・3A・3B	1	各2	1年次
MGACW	202	アカデミック・ライティング演習2 (留学生専用)	2	2	1年次

8. [AI・データサイエンス系科目群]

- ・以下は「AI・データサイエンス教育プログラム」対象科目である。
- ・プログラムの詳細については履修要項『学修の手引き』およびWebページを参照すること。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGAID	101	AI・データサイエンス入門	1	2	1年次

9. [特別学科科目]

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
SGBAS	101~102	社会学概論A・B (注5)		各2	1年次
	204~205	内なる国際化論A・B		各2	3年次
SGVOL	201	ボランティア実践指導		4	3年次

注5：学部によっては、中学（社会）、高校（公民）の教育職員免許状取得のための必修科目または選択必修科目（教科に関する科目）の場合もあるので注意すること。詳細は「教職課程履修要項（諸資格）」を参照のこと。

単位認定用科目

以下の諸科目は、授業として行われる科目ではなく、留学やインターンシップ等が実施された後に、本学の単位として認定するための科目である。予め履修登録をすることはできないので注意すること。

1. [短期留学認定科目]

- ・以下は、本学と協定を結ぶ海外校への短期留学について、本学が単位を認定するための科目である。短期留学を行った者以外が単位を修得することはできない。
- ・留学先によって別途配当年次が定められている場合があるので、必ず「留学ハンドブック」を確認すること。
- ・これらの科目は各学科で定める年間履修上限単位数には含まれない。

ナンバリング	科目名	レベル	単位数	配当年次
MGRES	101 ヨーロッパ研究（短期留学）	1	4	1年次
	102 イギリス研究（短期留学）	1	4	1年次
	103 スペイン研究（短期留学）	1	4	1年次
	104 ドイツ研究（短期留学）	1	4	1年次
	105 フランス研究（短期留学）	1	4	1年次
	106 アメリカ研究（短期留学）	1	4	1年次
	107 カナダ研究（短期留学）	1	4	1年次
	108 韓国研究（短期留学）	1	4	1年次
	109 中国研究（短期留学）	1	4	1年次
	110 オセアニア研究（短期留学）	1	4	1年次
	111 東南アジア研究（短期留学）	1	4	1年次

2. [中期留学認定科目]

- ・以下は、本学と協定を結ぶ海外校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。中期留学を行った者以外が単位を修得することはできない。
- ・留学先によって別途配当年次が定められている場合があるので、必ず「留学ハンドブック」を確認すること。
- ・これらの科目は各学科で定める年間履修上限単位数には含まれない。

ナンバリング	科目名	レベル	単位数	配当年次
MGRES	121～126 アメリカ研究（中期留学）基礎1～6	1	各1	1年次
	221～226 アメリカ研究（中期留学）応用1～6	2	各2	1年次
	321～326 アメリカ研究（中期留学）発展1～6	3	各3	1年次

3. [海外インターンシップ関連科目]

- ・以下は、学生が参加した各種の海外インターンシップについて、本学が単位を認定するための科目である。海外インターンシップ参加の例としては、「国連ユースボランティア」などがあるが、詳細は国際センター等の発信する掲示を参考すること。
- ・実際に海外インターンシップに参加することが決まった段階で教務課窓口に相談し、単位認定を希望する者は、科目責任者の許可を得ること。
- ・すべての海外インターンシップが単位認定の対象となるわけではない点に留意すること。
- ・インターンシップ先によって別途配当年次が決められている場合があるので、必ず出願時に確認すること。
- ・これらの科目は各学科で定める年間履修上限単位数には含まれない。
- ・これらの科目はP・F評価となるため、GPAには含まれない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGITS	101~102	海外インターンシップ課題研究A・B	1	各2	1年次
	201~202	海外インターンシップA・B	2	各4	1年次

経済学科

経済学部の目標と方針

人材養成上の目的・教育目標

経済学部は、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、経済学部の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

経済学部が目標とするのは、健全な倫理観を持ちながら経済学の知識によって社会で活躍できる人材の育成であり、経済学の多様性を理解し、新しい変化に弾力的に取り組めるようなバランス感覚を身につけた「良識のある経済人」の育成である。

卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

経済学部は、明治学院大学の「卒業の認定・学位授与に関する方針」に基づき、経済学部の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成するため、所定の期間在学するとともに所定の単位を修得し、次の能力を身につけることを卒業認定と学位授与の要件とする。

いずれの学科でも、幅広い教養とともに経済学・経営学分野の基礎的知識を獲得し、それを体系的に理解し、これを活用するための情報収集力・分析力や他者とのコミュニケーション能力を身につけ、現代社会に生起する諸問題に積極的に取り組む力を身につけた「良識のある経済人」であること。

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部は、明治学院大学の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、経済学部の定める「人材養成上の目的・教育目標」および「卒業の認定・学位授与に関する方針」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

いずれの学科でも、カリキュラム編成においては無理なく導入から専門へ移行できるよう、コース制等の制度的な工夫をしている。また、コミュニケーション能力獲得のため少人数教育を目指し、身につけた知識を実際の現場で応用できるよう、実践的な科目も多く配置してある。専門教育科目のうち、演習（卒業論文を含む）とインターンシップはすべての学科の共通科目として配置している。また学科間の結びつきを高めるため、経済学部内の他学科の専門教育科目は「隣接領域科目」として位置づけ、原則として経済学部の全学生が履修できるようにしてある。

経済学科の目標と方針

人材養成上の目的・教育目標

経済学部経済学科は、経済学部の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、経済学科の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

経済学科の人材養成上の目的は、現代の複雑な経済を、社会科学としての経済学の知識をもとに理解し冷静な判断を下し行動できる人材を養成することである。教育目標は、第一に、経済の基本的なメカニズムの理解に必要な、学問としての経済学の基礎を身につけること、第二に経済学的センスを磨き現実の問題に的確に対処できる応用能力を涵養することである。

卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

経済学部経済学科は、経済学部の「卒業の認定・学位授与に関する方針」に基づき、経済学科の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成するため、所定の期間在学するとともに128単位を修得し、次の能力を身につけることを卒業認定と学位授与の要件とする。

- 1 國際化・情報化が進むなかで、幅広い教養とともに経済理論の基礎に加え、現在・過去の具体的な経済現象に関する様々な知識を理解し、体系的に身につけている。
- 2 これらの知識を獲得し活用するための情報収集能力や分析力などを身につけている。
- 3 在学期間を通じて獲得した知識・技能・態度などを総合的に活用して、ますます複雑化する経済システムのメカニズムを理解している。その上で、現代社会に生起する諸問題に対して、社会的責任や他者との協調性をもって、経済学的な見方から主体的に対応できる自立した経済人としての能力を身につけている。

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部経済学科は、経済学部の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、経済学科の定める「人材養成上の目的・教育目標」および「卒業の認定・学位授与に関する方針」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

現実社会において直面する様々な問題に対して、経済学的な見方から客観的な分析を加えるために必要な知識を、経済理論、歴史的関係、政策・制度といった側面から教授し、演習・卒業論文を通して学生が自らの問題関心に基づき主体的に研究するように指導する。このような経済学の学習と同時に、高度情報化社会において必須となる情報処理技術に関する知識や、国際化社会において必要とされるコミュニケーション能力についても、あわせて修得できるように教育課程（カリキュラム）を構成する。その際に、学生の多様なニーズに対応できるように選択肢の広い教育課程（カリキュラム）を用意する。

1年次では理論・歴史・現状分析などの基礎を身につけることができるよう、経済学の入門的な科目を配置する。2年次からは、学生が各自の目的に応じて専門的な勉学を進めることができるよう、3つの専攻コース（ポリシー・アナリシスコース、企業・制度デザインコース、グローバル・スタディーズコース）を設置する。

ポリシー・アナリシスコース：

競争的な市場とそれを補完する公共政策という視点で市場経済を捉え、その理論や政策について基礎的なものから専門的なものへと段階を追って順番に学ぶ積み上げ方式による体系的な教育方法を採用することで、経済問題を理論的に考える能力を基礎から積み上げ、実社会に応用できる実力を養成する。

企業・制度デザインコース：

市場経済は、市場取引だけでなく、企業組織あるいは法律やルールといった制度の存在を通じて機能している。このコ

スは、関連する具体的なケースに即しながら、企業組織の役割、法やルールの制度設計を問題にする。経済と法の関連、そして組織内のインセンティブやガバナンス構造などが視野に入れられる。企業組織や法や制度の形態に応じて、市場経済の効率性は変わりうるもので、企業組織とそのとりまく経済環境は、所与のものではなく、相互的に調整、形成可能なものであることが理解される。企業や組織に身をおきながら、経済環境と市場との相互関係を戦略的に構想できる人材の育成を目標とする。

グローバル・スタディーズコース：

世界的規模で繰り広げられる、歴史的、地域的に多様な制度や環境のもとでの経済の諸相を理解する。グローバルな経済の発展、ボーダーレスな展開、過去、現在、未来にわたるタイムスパン上の問題が視野に入れられる。経済のグローバル化に対応するために、基本的な経済理論を学ぶ一方で、現実社会における現在や過去の実際の経済現象を学ぶ科目を、学生が各自の問題関心に沿って受講できるように、実習科目（体験学習）をはじめ多面的に用意し、グローバルに展開する様々な業界で活躍できる人材の育成を目標とする。

卒業の認定・学位授与に関する方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連表(能力要件表)

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性		統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				経済学科1	経済学科1	経済学科2	経済学科2	経済学科3	経済学科3	経済学科3
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				幅広い教養	経済理論の基礎と、経済現象の体系的理解	情報収集能力	分析力	主体的な対応能力	社会的責任をもって他者と協調する能力	主体的に対応できる自立した経済人としての能力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○						
1. 入門専門科目										
EEELM101ミクロ経済学入門	選択必修	2	1	○	◎	○				○
EEELM102マクロ経済学入門	選択必修	2	1	○	○	○	○	○	○	
EEELM111現代社会と経済A	選択必修	2	1	○	○	○				○
EEELM112現代社会と経済B	選択必修	2	1	○	○	○				○
EEELM121入門経済史1	選択必修	2	1	○	○			○		○
EEELM122入門経済史2	選択必修	2	1	○	○			○		○
2. 基礎専門科目										
①経済理論・計量科目群										
EETHQ201初級ミクロ経済学1	選択必修	2	2	○	○	○				○
EETHQ202初級ミクロ経済学2	選択必修	2	2	○	○	○				○
EETHQ211初級マクロ経済学1	選択必修	2	2	○	○	○				○
EETHQ212初級マクロ経済学2	選択必修	2	2	○	○	○				○
EETHQ221入門計量経済学1	選択必修	2	2	○	○	○			○	
EETHQ222入門計量経済学2	選択必修	2	2	○	○	○			○	
EETHQ231経済学史1	選択必修	2	2	○	○		○			○
EETHQ232経済学史2	選択必修	2	2	○	○		○			○
EETHQ301中級ミクロ経済学1	選択必修	2	3	○	○	○				○
EETHQ302中級ミクロ経済学2	選択必修	2	3	○	○	○				○
EETHQ311中級マクロ経済学1	選択必修	2	3	○	○	○				○
EETHQ312中級マクロ経済学2	選択必修	2	3	○	○	○				○
EETHQ411経済成長と景気変動1	選択必修	2	3	○	○	○				○
EETHQ412経済成長と景気変動2	選択必修	2	3	○	○	○				○
EETHQ331計量経済学1	選択必修	2	3	○	○	○	○			
EETHQ332計量経済学2	選択必修	2	3	○	○	○	○			
EETHQ381経済理論特講1	選択必修	2	3	○			○	○		○
EETHQ382経済理論特講2	選択必修	2	3	○			○	○		○
EETHQ391情報数理特講1	選択必修	2	3	○			○	○		○
EETHQ392情報数理特講2	選択必修	2	3	○			○	○		○
②公共政策科目群										
EEPOL201ミクロ経済政策	選択必修	2	2	○	○	○				○
EEPOL202マクロ経済政策	選択必修	2	2	○	○			○		○
EEPOL301財政学1	選択必修	2	3	○	○			○		○
EEPOL302財政学2	選択必修	2	3	○	○			○		○
EEPOL311地方財政論1	選択必修	2	3	○	○			○		○
EEPOL312地方財政論2	選択必修	2	3	○	○			○		○
EEPOL321公共経済学1	選択必修	2	3	○			○		○	○
EEPOL322公共経済学2	選択必修	2	3	○			○		○	○
EEPOL331農業政策論1	選択必修	2	3	○	○	○				○
EEPOL332農業政策論2	選択必修	2	3	○	○	○				○
EEPOL341公共政策論1	選択必修	2	3	○	○			○		○
EEPOL342公共政策論2	選択必修	2	3	○	○			○		○
EEPOL351経済発展論1	選択必修	2	3	○	○	○				○
EEPOL352経済発展論2	選択必修	2	3	○	○	○				○
EEPOL381都市政策論1	選択必修	2	3	○		○		○		○
EEPOL382都市政策論2	選択必修	2	3	○		○		○		○

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性		統合的な学習経験と創造的思考力	
対応するディプロマ・ポリシー				経済学科1	経済学科1	経済学科2	経済学科2	経済学科3	経済学科3	経済学科3	
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				幅広い教養	経済理論の基礎と、経済現象の体系的理	情報収集能力	分析力	主体的な対応能力	社会的責任をもって他者と協調する能力	主体的に対応できる自立した経済人としての能力	
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○							
EEPOL391公共政策特講1	選択必修	2	3	○	○	○				○	
EEPOL392公共政策特講2	選択必修	2	3	○	○	○				○	
③金融経済科目群											
EEMON301金融論1	選択必修	2	3		○	○		○		○	
EEMON302金融論2	選択必修	2	3		○	○		○		○	
EEMON311国際金融論1	選択必修	2	3		○	○		○		○	
EEMON312国際金融論2	選択必修	2	3		○	○		○		○	
EEMON321ファイナンス1	選択必修	2	3			○	◎	○		○	
EEMON322ファイナンス2	選択必修	2	3			○	◎	○		○	
EEMON331金融システム論1	選択必修	2	3			○	◎	○		○	
EEMON332金融システム論2	選択必修	2	3			○	◎	○		○	
EEMON341コーポレート・ファイナンス1	選択必修	2	3			○	◎	○		○	
EEMON342コーポレート・ファイナンス2	選択必修	2	3			○	◎	○		○	
EEMON391金融経済特講1	選択必修	2	3			○	◎	○		○	
EEMON392金融経済特講2	選択必修	2	3			○	◎	○		○	
EGA&F304金融資本市場論	選択必修	2	3			○	◎	○		○	
④市場・組織・制度の経済分析科目群											
EEORG201ゲーム理論1	選択必修	2	2	○	○	○					
EEORG202ゲーム理論2	選択必修	2	2	○	○	○					
EEORG211産業組織論1	選択必修	2	2		○	○				○	
EEORG212産業組織論2	選択必修	2	2		○	○				○	
EEORG301情報の経済学1	選択必修	2	3			○	◎	○		○	
EEORG302情報の経済学2	選択必修	2	3			○	◎	○		○	
EEORG311企業と組織の経済学1	選択必修	2	3			○	○			○	
EEORG312企業と組織の経済学2	選択必修	2	3			○	○			○	
EEORG321法と経済学1	選択必修	2	3	○	○		○			○	
EEORG322法と経済学2	選択必修	2	3	○	○		○			○	
EEORG331社会の公正の経済学1	選択必修	2	3	○	○		○			○	
EEORG332社会の公正の経済学2	選択必修	2	3	○	○		○			○	
EEORG341比較経済制度論1	選択必修	2	3		○		○				
EEORG342比較経済制度論2	選択必修	2	3		○		○				
EEORG351行動経済学1	選択必修	2	3		○		○			○	
EEORG352行動経済学2	選択必修	2	3		○		○			○	
EEORG361イノベーションの経済学1	選択必修	2	3	○	○		○				
EEORG362イノベーションの経済学2	選択必修	2	3	○	○		○				
EEORG371マーケットデザイン1	選択必修	2	3	○	○		○			○	
EEORG372マーケットデザイン2	選択必修	2	3	○	○		○			○	
EEORG391組織と制度の経済学特講1	選択必修	2	3	○	○		○				
EEORG392組織と制度の経済学特講2	選択必修	2	3	○	○		○				
⑤現代の経済環境科目群											
EEISS201経済の先端的問題1	選択必修	2	2	○	○		○			○	
EEISS202経済の先端的問題2	選択必修	2	2	○	○		○			○	
EEISS301労働経済学1	選択必修	2	3		○	○		○		○	
EEISS302労働経済学2	選択必修	2	3		○	○		○		○	
EEISS311企業と経済1	選択必修	2	3		○	○		○		○	
EEISS312企業と経済2	選択必修	2	3		○	○		○		○	
EEISS321環境の経済学1	選択必修	2	3	○	○	○				○	
EEISS322環境の経済学2	選択必修	2	3	○	○	○				○	

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性		統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				経済 学科1	経済 学科1	経済 学科2	経済 学科2	経済 学科3	経済 学科3	経済 学科3
ディプロマ・ポリシーに基づく 身につく能力				幅広い 教養	経済理論の 基礎と、 経済現象の 体系的理	情報収集 能力	分析力	主体的な 対応能力	社会的責任 をもって 他者と協調 する能力	主体的に対応できる 自立した経済人 としての能力
授業科目名				必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○			
EEISS331開発経済学1										
EEISS332開発経済学2	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEISS341人口論1	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEISS342人口論2	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEISS351人事の経済学1	選択必修	2	3		○		○		○	◎
EEISS352人事の経済学2	選択必修	2	3		○		○		○	◎
EEISS361政策評価の経済学1	選択必修	2	3		○	○	◎	○		
EEISS362政策評価の経済学2	選択必修	2	3		○	○	◎	○		
EEISS381都市の経済学1	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEISS382都市の経済学2	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEISS391現代経済特講1	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEISS392現代経済特講2	選択必修	2	3	○	◎	○				○
⑥国際経済の理論と実際科目群										
EEGLO301世界経済論1	選択必修	2	2	○	◎	○				○
EEGLO302世界経済論2	選択必修	2	2	○	◎	○				○
EEGLO311国際経済学1	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEGLO312国際経済学2	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEGLO321日本経済論1	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEGLO322日本経済論2	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEGLO331アメリカ経済論1	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEGLO332アメリカ経済論2	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEGLO341中国経済論	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEGLO342アジア経済論	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEGLO351ヨーロッパ経済論1	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEGLO352ヨーロッパ経済論2	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEGLO391国際経済特講1	選択必修	2	3	○	◎	○				○
EEGLO392国際経済特講2	選択必修	2	3	○	◎	○				○
⑦経済社会と経済思想の歴史科目群										
EEHIS201キリスト教と経済	選択必修	2	2	○	◎			○		○
EEHIS301日本経済史1	選択必修	2	3	○	◎			○		○
EEHIS302日本経済史2	選択必修	2	3	○	◎			○		○
EEHIS311西洋経済史1	選択必修	2	3	○	◎			○		○
EEHIS312西洋経済史2	選択必修	2	3	○	◎			○		○
EEHIS321アジア経済史1	選択必修	2	3	○	◎			○		○
EEHIS322アジア経済史2	選択必修	2	3	○	◎			○		○
EEHIS331現代西洋経済史1	選択必修	2	3	○	◎			○		○
EEHIS332現代西洋経済史2	選択必修	2	3	○	◎			○		○
EEHIS341現代日本経済史1	選択必修	2	3	○	◎			○		○
EEHIS342現代日本経済史2	選択必修	2	3	○	◎			○		○
EEHIS351比較経済思想史1	選択必修	2	3	○	○			○		◎
EEHIS352比較経済思想史2	選択必修	2	3	○	○			○		◎
EEHIS401古典・資料研究1	選択必修	2	3	○	○				○	○
EEHIS402古典・資料研究2	選択必修	2	3	○	○				○	○
EEHIS391経済史特講1	選択必修	2	3	○	◎			○		○
EEHIS392経済史特講2	選択必修	2	3	○	◎			○		○

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性		統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				経済学科1	経済学科1	経済学科2	経済学科2	経済学科3	経済学科3	経済学科3
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				幅広い教養	経済理論の基礎と、経済現象の体系的理	情報収集能力	分析力	主体的な対応能力	社会的責任をもって他者と協調する能力	主体的に対応できる自立した経済人としての能力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○						
⑧事例研究・フィールド科目群										
EECAS201事例研究A	選択必修	2	2	○	○	○	○			○
EECAS211事例研究B	選択必修	2	2	○	○	○	○			○
EECAS221事例研究C	選択必修	2	2	○	○	○	○			○
EECAS231事例研究D	選択必修	2	2	○	○	○	○			○
EECAS202フィールド・スタディA	選択必修	2	2	○			○	○		◎
EECAS212フィールド・スタディB	選択必修	2	2	○			○	○		◎
EECAS222フィールド・スタディC	選択必修	2	2	○			○	○		◎
EECAS232フィールド・スタディD	選択必修	2	2	○			○	○		◎
EECAS241実験経済学1	選択必修	2	2		○		○			○
EECAS242実験経済学2	選択必修	2	2		○		○			○
3. 情報数理・統計科目										
EEMST101基礎数学1	選択必修	2	1	○		○	○			○
EEMST102基礎数学2	選択必修	2	1	○		○	○			○
EEMST111経済情報処理1	選択必修	2	1	○		○	○			○
EEMST112経済情報処理2	選択必修	2	1	○		○	○			○
EEMST121経済統計学1	選択必修	2	1			○	○			
EEMST122経済統計学2	選択必修	2	1			○	○			
EEMST201入門経済数学1	選択必修	2	2	○		○	○			○
EEMST202入門経済数学2	選択必修	2	2	○		○	○			○
EEMST211確率・統計1	選択必修	2	2			○	○			
EEMST212確率・統計2	選択必修	2	2			○	○			
EEMST301経済数学1	選択必修	2	3	○		○	○			○
EEMST302経済数学2	選択必修	2	3	○		○	○			○
4. 専門外国語科目										
EELNG101海外語学研修	選択必修	2	1	○				○	○	○
EELNG201経済事情(英語)1	選択必修	2	2	○			○		○	○
EELNG202経済事情(英語)2	選択必修	2	2	○			○		○	○
EELNG211経済事情(中国語)1	選択必修	2	2	○			○		○	○
EELNG212経済事情(中国語)2	選択必修	2	2	○			○		○	○
EELNG221経済英語1	選択必修	2	2	○			○		○	○
EELNG222経済英語2	選択必修	2	2	○			○		○	○
5. 実習科目										
EEPRA201社会参加実習1	選択必修	2	2	○			○	○		○
EEPRA202社会参加実習2	選択必修	2	2	○			○	○		○
EBSEM303インターンシップ(講義)	選択必修	2	2	○			○	○		○
EBSEM304インターンシップ(実習)	選択必修	1	3	○			○	○		○
6. 演習・卒業論文科目										
EESEM101基礎演習A	選択必修	2	1	○	○		○	○		
EESEM111基礎演習B	選択必修	2	1	○	○		○	○		
EESEM121基礎演習C	選択必修	2	1	○	○		○	○		
EESEM131基礎演習D	選択必修	2	1	○	○		○	○		
EESEM201経済学演習A	選択必修	2	2	○	○	○				○
EESEM211経済学演習B	選択必修	2	2	○	○	○				○
EESEM221経済学演習C	選択必修	2	2	○	○	○				○
EESEM231経済学演習D	選択必修	2	2	○	○	○				○
EESEM301演習A1	選択必修	2	3				○	○		○
EESEM302演習A2	選択必修	2	3				○	○		○

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性		統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				経済 学科1	経済 学科1	経済 学科2	経済 学科2	経済 学科3	経済 学科3	経済 学科3
ディプロマ・ポリシーに基づく 身につく能力				幅広い 教養	経済理論の 基礎と、 経済現象の 体系的理	情報収集 能力	分析力	主体的な 対応能力	社会的責任 をもって 他者と協調 する能力	主体的に対応できる 自立した経済人 としての能力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○						
EESEM311演習B1	選択必修	2	3		○	◎	○			○
EESEM312演習B2	選択必修	2	3		○	◎	○			○
EESEM401演習A3	選択必修	2	4		○	◎	○			○
EESEM402演習A4	選択必修	2	4		○	◎	○			○
EESEM403卒業論文	選択必修	4	4		○	◎	○			○
EBSEM301演習A1	選択必修	2	3		○	◎	○			○
EBSEM302演習A2	選択必修	2	3		○	◎	○			○
EBSEM311演習B1	選択必修	2	3		○	◎	○			○
EBSEM312演習B2	選択必修	2	3		○	◎	○			○
EBSEM401演習A3	選択必修	2	4		○	◎	○			○
EBSEM402演習A4	選択必修	2	4		○	◎	○			○
EBSEM403卒業論文	選択必修	4	4		○	◎	○			○
EGSEM301演習A1	選択必修	2	3		○	◎	○			○
EGSEM302演習A2	選択必修	2	3		○	◎	○			○
EGSEM311演習B1	選択必修	2	3		○	◎	○			○
EGSEM312演習B2	選択必修	2	3		○	◎	○			○
EGSEM401演習A3	選択必修	2	4		○	◎	○			○
EGSEM402演習A4	選択必修	2	4		○	◎	○			○
EGSEM403卒業論文	選択必修	4	4		○	◎	○			○
経営学・商学・会計学科目										
EBBUS201経営学原理1	選択	2	2	○		◎		○		○
EBBUS202経営学原理2	選択	2	2	○		◎		○		○
EBBUS203経営組織論1	選択	2	2	○		◎		○		○
EBBUS204経営組織論2	選択	2	2	○		◎		○		○
EBMKT201マーケティング1	選択	2	2	○		◎		○		○
EBMKT202マーケティング2	選択	2	2	○		◎		○		○
EBMKT203市場システム1	選択	2	2	○		◎		○		○
EBMKT204市場システム2	選択	2	2	○		◎		○		○
EBACC201財務会計論1	選択	2	2	○		◎		○		○
EBACC202財務会計論2	選択	2	2	○		◎		○		○
EBACC203管理会計論1	選択	2	2	○		◎		○		○
EBACC204管理会計論2	選択	2	2	○		◎		○		○
EBSEM102ビジネス英語1	選択	2	1	○		◎		○		○
EBSEM103ビジネス英語2	選択	2	1	○		◎		○		○
EBACC102簿記1	選択	2	1	○		◎		○		○
EBACC103簿記2	選択	2	1	○		◎		○		○
EBACC104応用簿記	選択	2	1	○		◎		○		○
EBSEM201ビジネス英語3	選択	2	2	○			○	○	◎	
EBSEM202ビジネス英語4	選択	2	2	○			○	○	◎	
EBACC205工業簿記	選択	2	2	○		◎		○		○
EBMKT301マーケティング・リサーチ1	選択	2	3	○			○		◎	○
EBMKT302マーケティング・リサーチ2	選択	2	3	○			○		◎	○
EBBUS205経営史1	選択	2	2	○		◎		○		○
EBBUS206経営史2	選択	2	2	○		◎		○		○
EBBUS207経営戦略論1	選択	2	2	○		◎		○		○
EBBUS208経営戦略論2	選択	2	2	○		◎		○		○
EBBUS209情報ネットワーク論1	選択	2	2	○		◎		○		○
EBBUS210情報ネットワーク論2	選択	2	2	○		◎		○		○

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性		統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				経済 学科1	経済 学科1	経済 学科2	経済 学科2	経済 学科3	経済 学科3	経済 学科3
ディプロマ・ポリシーに基づく 身につく能力				幅広い 教養	経済理論の 基礎と、 経済現象の 体系的理	情報収集 能力	分析力	主体的な 対応能力	社会的責任 をもって 他者と協調 する能力	主体的に対応できる 自立した経済人 としての能力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○						
EBBUS211環境と社会	選択	2	2	○	◎		○		○	
EBBUS401経営学特講	選択	2	2	○	◎		○		○	
EBMKT205証券論1	選択	2	2	○	◎		○		○	
EBMKT206証券論2	選択	2	2	○	◎		○		○	
EBMKT207保険論1	選択	2	2	○	◎		○		○	
EBMKT208保険論2	選択	2	2	○	◎		○		○	
EBACC206経営財務	選択	2	2	○	◎		○		○	
EBACC207企業分析1	選択	2	2	○	◎		○		○	
EBACC208企業分析2	選択	2	2	○	◎		○		○	
EBACC209原価計算論1	選択	2	2	○	◎		○		○	
EBACC210原価計算論2	選択	2	2	○	◎		○		○	
EBACC211ビジネスのための税法1	選択	2	2	○	◎		○		○	
EBACC212ビジネスのための税法2	選択	2	2	○	◎		○		○	
EBBUS301経営管理論1	選択	2	3	○	◎		○		○	
EBBUS302経営管理論2	選択	2	3	○	◎		○		○	
EBMKT303消費者行動1	選択	2	3	○	◎		○		○	
EBMKT304消費者行動2	選択	2	3	○	◎		○		○	
EBMKT305商業政策論1	選択	2	3	○	◎		○		○	
EBMKT306商業政策論2	選択	2	3	○	◎		○		○	
EBMKT307マーケティング・コミュニケーション1	選択	2	3	○		○		◎	○	
EBMKT308マーケティング・コミュニケーション2	選択	2	3	○		○		◎	○	
EBACC301税務会計1	選択	2	3	○	◎		○		○	
EBACC302税務会計2	選択	2	3	○	◎		○		○	
EBACC303監査論	選択	2	3	○	◎		○		○	
EGACA101e-learning 1	選択	2	1	○	◎		○		○	
EGACA102e-learning 2	選択	2	1	○	◎		○		○	
EGACA201外国書講読1	選択	2	1	○		○	○	○		
EGACA202外国書講読2	選択	2	1	○		○	○	○		
EGACA203外国書講読3	選択	2	1	○		○	○	○		
EGACA204外国書講読4	選択	2	1	○		○	○	○		
EGM&S203国際経営論1	選択	2	2	○	◎		○		○	
EGM&S204国際経営論2	選択	2	2	○	◎		○		○	
EGM&S205ヒューマン・リソース・マネジメント1	選択	2	2	○		○	○	○	◎	
EGM&S206ヒューマン・リソース・マネジメント2	選択	2	2	○		○	○	○	◎	
EGM&S207各国経営史論	選択	2	2	○	◎		○		○	
EGA&F203海外企業分析	選択	2	2	○	◎		○		○	
EGT&I203Business in Japan 1	選択	2	2	○	◎		○		○	
EGT&I204Business in Japan 2	選択	2	2	○	◎		○		○	
EGT&I205ビジネス・エコノミクス1	選択	2	2	○	◎		○		○	
EGT&I206ビジネス・エコノミクス2	選択	2	2	○	◎		○		○	
EGM&S303比較経営学史1	選択	2	3	○	◎		○		○	
EGM&S304比較経営学史2	選択	2	3	○	◎		○		○	
EGM&S305ビジネスエシックス	選択	2	3	○	◎		○		○	
EGM&S306国際経営学特講	選択	2	3	○	◎		○		○	
EGA&F301国際会計論1	選択	2	3	○	◎		○		○	
EGA&F302国際会計論2	選択	2	3	○	◎		○		○	
EGA&F303国際税務	選択	2	3		○	◎	○		○	
EGA&F305国際経営学特講	選択	2	3	○	◎		○		○	

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性		統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				経済 学科1	経済 学科1	経済 学科2	経済 学科2	経済 学科3	経済 学科3	経済 学科3
ディプロマ・ポリシーに基づく 身につく能力				幅広い 教養	経済理論の 基礎と、 経済現象の 体系的理	情報収集 能力	分析力	主体的な 対応能力	社会的責任 をもって 他者と協調 する能力	主体的に対応できる 自立した経済人 としての能力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○						
EGT&I301グローバル・マーケティング1	選択	2	3		○	◎	○			○
EGT&I302グローバル・マーケティング2	選択	2	3		○	◎	○			○
EGT&I305貿易実務1	選択	2	3	○	◎	○				○
EGT&I306貿易実務2	選択	2	3	○	◎	○				○
EGT&I307西洋文化史1	選択	2	3	○	◎	○				○
EGT&I308西洋文化史2	選択	2	3	○	◎	○				○
EGT&I309国際経営学特講	選択	2	3	○		◎		○		○
EGBCR201海外フィールド・スタディ	選択	4	1	○			○	○		◎
EGBCR206グローバル・ビジネス環境	選択	2	2	○			○	○		◎
EGBCR207海外インターンシップ1	選択	1	2	○			○	○		◎
EGBCR208海外インターンシップ2	選択	1	2	○			○	○		◎
EGBCR209海外インターンシップ3	選択	1	2	○			○	○		◎
法学・消費情報環境法学・政治学科目										
J-CIL201民法A	選択	2	2	○		◎		○		○
J-CIL202民法B	選択	2	2	○		◎		○		○
J-COL201商法A	選択	2	2	○		◎		○		○
J-COL202商法B	選択	2	2	○		◎		○		○
J-COL344金融商品取引法	選択	2	3	○		◎		○		○
J-PUL111憲法A	選択	2	2	○		◎		○		○
J-PUL112憲法B	選択	2	2	○		◎		○		○
J-PUL221行政法A	選択	2	3	○		◎		○		○
J-PUL222行政法B	選択	2	3	○		◎		○		○
J-PUL350EU法	選択	2	3	○		◎		○		○
J-INL211国際法1－1	選択	2	2	○		◎		○		○
J-INL212国際法1－2	選択	2	2	○		◎		○		○
J-INL311国際法2－1	選択	2	3	○		◎		○		○
J-INL312国際法2－2	選択	2	3	○		◎		○		○
J-INL353国際消費者法	選択	2	3	○		◎		○		○
J-INL357アメリカ契約・不法行為法1	選択	2	3	○		◎		○		○
J-INL358アメリカ契約・不法行為法2	選択	2	3	○		◎		○		○
J-INL361グローバル企業法	選択	2	3	○		◎		○		○
J-NFL324環境政策と法	選択	2	3	○		◎		○		○
J-NFL326国際環境法1	選択	2	3	○		◎		○		○
J-NFL331競争法	選択	2	3	○		◎		○		○
J-INR103国際政治学A	選択	2	2	○		◎		○		○
J-INR104国際政治学B	選択	2	2	○		◎		○		○
J-POL201現代政治理論1A	選択	2	2	○		◎		○		○
J-POL202現代政治理論1B	選択	2	2	○		◎		○		○
J-SOL321労働法1	選択	2	3	○		◎		○		○
J-SOL322労働法2	選択	2	3	○		◎		○		○
社会学・社会福祉学科目										
SWSPA201社会保障論A	選択	2	2	○		◎		○		○
SWSPA202社会保障論B	選択	2	2	○		◎		○		○
SGLEC214地域社会論	選択	2	3	○		◎		○		○
SGLEC215都市社会学	選択	2	3	○		◎		○		○
国際キャリア学科目										
KCGEN102Current Affairs A	選択	2	1	○		◎		○		○
KCGEN103Current Affairs B	選択	2	1	○		◎		○		○

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性		統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				経済 学科1	経済 学科1	経済 学科2	経済 学科2	経済 学科3	経済 学科3	経済 学科3
ディプロマ・ポリシーに基づく 身につく能力				幅広い 教養	経済理論の 基礎と、 経済現象の 体系的理	情報収集 能力	分析力	主体的な 対応能力	社会的責任 をもって 他者と協調 する能力	主体的に対応できる 自立した経済人 としての能力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○						
教職関連科目										
TCKNO901日本史A	選択	2	2	○		◎		○		○
TCKNO902日本史B	選択	2	2	○		◎		○		○
TCKNO911世界史A	選択	2	2	○		◎		○		○
TCKNO912世界史B	選択	2	2	○		◎		○		○
TCKNO921地理学概論1	選択	2	2	○		◎		○		○
TCKNO922地理学概論2	選択	2	2	○		◎		○		○
TCKNO931自然地理学1	選択	2	2	○		◎		○		○
TCKNO932自然地理学2	選択	2	2	○		◎		○		○
TCKNO941地誌概説1	選択	2	2	○		◎		○		○
TCKNO942地誌概説2	選択	2	2	○		◎		○		○
TCKNO951宗教学概論1	選択	2	3	○		◎		○		○
TCKNO952宗教学概論2	選択	2	3	○		◎		○		○
TCKNO961職業指導	選択	2	3	○		◎		○		○
LXCRS301哲学(専)1	選択	2	3	○		◎		○		○
LXCRS302哲学(専)2	選択	2	3	○		◎		○		○

※卒業要件外科目は、学科のディプロマ・ポリシーに基づく「身につく能力」との関連がないため記載していません。

1. 経済学科の方針

経済学部経済学科では、現実社会において直面する経済現象並びに経済問題を理解すると同時に、これらの諸問題に客観的分析を加えるために必要な知識を、経済理論的側面、歴史的関係、および政策的制度的な側面から教授し、演習および卒業論文を通して、経済問題に関わる研究を主体的に行わせるように指導する。このような経済学の学習と同時に、高度情報化社会において必須となる情報処理技術に関する知識並びに国際化社会において必要とされるコミュニケーション能力の諸技能をも併せて修得できるように教育課程（カリキュラム）を構成している。

経済学科の科目は、専門科目（経済学科の学科科目）、隣接領域科目（他学科科目）、明治学院共通科目、教職関連科目から構成されている。また、学習の目的に応じて、「ポリシー・アナリシスコース」「企業・制度デザインコース」「グローバル・スタディーズコース」の3つの専攻コースが設置されている。経済学科の学生は、2年次より、いずれかの専攻コースに所属しなければならない。

2. 専攻コース制度について

学習の目的に応じて以下の3つの専攻コースがある。また、それぞれの専攻コースには定員がある。

（年度によって定員が変動する可能性があるため、注意すること。）

- ① ポリシー・アナリシスコース（定員100名）
- ② 企業・制度デザインコース（定員100名）
- ③ グローバル・スタディーズコース（定員180名）

1. 専攻コースへの所属

1年次秋学期中に希望する専攻コースを教務課に申告すること。各コースとも定員を超す希望者がいる場合は、成績による選別が行われる（2. 2年次進級時専攻コースの選考方法（定員を超過するとき）を参照）。学生はいずれかの専攻コースに所属しなければならない。

2. 2年次進級時専攻コースの選考方法（定員を超過するとき）

以下の2段階で選考を行う。

- 1) 2年次進級時、卒業要件単位を24単位修得している者を優先とする
- 2) 1) でも超過する場合は、GPA（P27を参照）による選考を行う

3. 専攻コースの変更

いったん、専攻コースに所属すると、年度中での専攻コースの変更はできないが、3年次進級時および、4年次進級時のみ、コース変更の申告を教務課にて受け付ける。ただし、①希望する専攻コースの定員に欠員がある場合に限られること、②先着順で定員が満了するときに、コース変更の受付を終了すること、③4年次進級時にコース変更を希望する際は、コース変更希望理由書を提出することが必須である。

（注意）所属するコースにより、卒業に必要な単位の内訳が異なる（P79を参照）。

3. 科目の履修

1. 履修の順序

学期科目に、「1」・「2」という番号が付いている場合、この番号は履修の順序を指示している。したがって、たとえば、秋学期に開講される「金融論2」を履修するためには、原則として春学期に開講される「金融論1」を履修することが望ましい。

2. 配当年次と単位数

科目には必ず配当年次と単位数が指示されている。

科目的配当年次は、指示された年次の年次生と、それより上級の年次生だけが当該科目を履修できることを示している。指示された配当年次に満たない年次生は当該科目を履修できない。ただし、本要項中で特に指示が付されている科目については、その指示による。

科目的単位数は、履修した科目的試験に合格すると、当該科目に指示された単位数が与えられることを示している。

3. 年間履修上限単位数

1) 1年間に履修できる単位数の上限は、48単位とする。ただし、「卒業論文」、「インターンシップ（講義）」、「インターンシップ（実習）」、「フィールド・スタディA～D」、「社会参加実習1・2」、「応用簿記」、「e-learning1・2」、「海外フィールドスタディ」、「海外インターンシップ1・2・3」および、夏季第1期、夏季第2期、春季講座で開講される授業の単位は、この中に含めない。ただし、これらの科目は、学生個々の事情により履修の遂行が困難とされる場合は授業開始後に履修削除とする場合がある。

2) 教職課程科目的履修について

卒業要件外の「教職に関する科目」「大学が独自に設定する科目」「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち各教科の指導法科目を履修する場合、年間履修上限単位数を超えて16単位まで追加履修できる。詳細は別冊の「教職課程履修要項（諸資格）」を参照のこと。

4. 履修中止除外科目について

学修の手引き「履修」の「7. 履修中止制度」において、履修中止ができない科目のうち、各学科において定めている履修中止の申請ができない科目は以下のとおりである。

ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、初級ミクロ経済学1・2、初級マクロ経済学1・2

演習A1～A4、演習B1～B2、卒業論文

5. 大学独自の認証資格（内なる国際化プロジェクト）について

内なる国際化プロジェクト

文化、宗教、民族性など、多様な価値観を理解する学生をはぐくむこと、そして外国につながる人たちを包摂した共生社会の担い手として、人権問題などに対して鋭い洞察力をもった学生の育成を目的としています。

このプロジェクトを通じ、所定の教室での学びを修めた学生は「多文化共生サポーター」として認証されます。その上さらに、支援実践参加の学びを修めた学生は「多文化共生ファシリテーター」として認証されます。

【教室での学び】

明治学院共通科目と経済学部経済学科が開講する科目的うち、指定された科目を12単位以上修得した者が申請を行った場合に「多文化共生サポーター」として認証されます。開講科目はプロジェクト公式WEBサイト（<https://internal-18n-meijigakuin.org/>）で確認してください。

【支援実践参加の学び】

「多文化共生ファシリテーター」の認証に必要な支援実践の場への参加を希望する者は、「多文化共生各論1・2」「ボランティア実践指導」等、★印の科目（合計4単位）を履修してください。

6. 教職課程科目の履修

教育職員免許状を取得するための科目で、「教職に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」と「教科及び教科の指導法に関する科目」から成る。

「教職に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」と「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち各教科の指導法科目は教育職員免許状を取得するためだけに必要な科目であり、修得単位は卒業に必要な単位として認められない。これらの科目は「教職課程履修要項（諸資格）」に掲載されており、この履修要項には掲載されていない。

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する科目」は形式的には専門科目という形をとっている。「教科に関する科目」の多くは卒業に必要な単位として認められ、そのうち、「教職関連科目」（付表3）も12単位まで卒業に必要な単位として認められる。

7. 条件つき科目の履修

科目を履修するにあたり、特定科目の「単位修得」が条件として記載されている場合は、特定科目の単位修得済が条件となるが、特定科目を「履修済」または「同一年度に履修」が条件の場合は「履修」のみが条件であり、単位の修得済・未修得を問わない。

8. 同一科目の重複履修禁止

同一学期に、同一の科目を複数履修することはできない。ただし、単位未修得の場合は、学期をかえて履修することは可能である。

なお、本要項中で特に指示が付されている科目については、その指示による。

9. 「飛び入学」制度

1. 明治学院大学経済学部・同大学院経済学研究科 経済学専攻では、以下の1)から4)の条件をすべて満たす経済学部経済学科の学生に対して、大学を3年で卒業して大学院に進学（いわゆる「飛び入学」）するための大学院入学試験（口述試験のみ）の出願資格を与える制度がある。

- 1) 3年次修了時に卒業に必要な単位数をすべて修得見込みの者。
- 2) 3年次春学期までの成績が、科目総合でGPA2.8以上の者。
- 3) 3年次春学期までの成績が、専門科目（「専門科目」・「隣接領域科目（他学科科目）」）でGPA2.9以上の者。
- 4) 原則として「演習A」を履修している者。

※ただし、入学試験後に確定する3年次修了までの成績が、原則として科目総合でGPA2.8以上、専門科目（「専門科目」・「隣接領域科目（他学科科目）」）でGPA2.9以上であることを満たしていないと、入学試験の結果にかかわらず入学することはできない。

2. 明治学院大学経済学部・同大学院法と経営学研究科 法と経営学専攻では、以下の1)から3)の条件をすべて満たす経済学部経済学科の学生に対して、大学を3年で卒業して大学院に進学（いわゆる「飛び入学」）するための大学院入学試験（口述試験のみ）の出願資格を与える制度がある。

- 1) 3年次修了時に卒業に必要な単位数をすべて修得見込みの者。
- 2) 3年次修了までの成績が科目総合でGPA2.9以上である見込みが立つ者。
- 3) 3年次修了までの成績が専門科目（「専門科目」・「隣接領域科目（他学科科目）」）でGPA2.9以上である見込みが立つ者。

なお、入学試験後に確定する3年次修了までの成績の結果、入学要件を満たしていなければ入学試験の結果にかかわらず、入学資格を失う。

(GPAの算定については、P27を参照。上記の出願資格は変更されることがあるので、実際に受験する際には、必ず大学院入学試験要項を確認するか、大学院事務室に問い合わせること。)

10. 大学院科目の履修について

本学大学院「法と経営学研究科」に進学を希望する4年次生は、以下の条件を満たした場合、法と経営学研究科 法と経営学専攻の科目を履修できる。

- 1) 3年次秋学期修了時の成績が、総合GPA2.7以上であること。
- 2) 卒業要件単位の90%以上を修得済であること。
- 3) 法と経営学専攻主任の承認を得ていること。

大学院科目は年間履修上限単位数を超えて年間10単位まで履修できる（ただし、ビジネス総論1・2、1年次演習、研究指導、特定課題研究、合同演習、エクスターインシップ、ビジネス英語を除く）。大学院科目の単位を修得した場合、学部の卒業要件としては認められず、大学院入学後に修了要件単位として認定される。

なお、上記の履修除外科目だけでなく、休講科目や、同専攻学生の履修希望がなく不開講になる科目など、年度によって履修できない科目が隨時でてくるので、履修を希望する場合は大学院事務室からの案内や情報提供に十分留意するとともに、必要な場合は大学院事務室に問い合わせること。

4. 経済学科における科目の構成

経済学科のカリキュラムは、

1. 専門科目（経済学科の学科科目）
2. 隣接領域科目（他学科科目）
3. 明治学院共通科目
4. 教職関連科目

からなる。

さらに、1. 専門科目は、

入門専門科目
基礎専門科目
情報数理・統計科目
専門外国語科目
実習科目
演習・卒業論文科目

に分かれる。このうち基礎専門科目は下記8つの科目群で構成される。

- ①経済理論・計量科目群
- ②公共政策科目群
- ③金融経済科目群
- ④市場・組織・制度の経済分析科目群
- ⑤現代の経済環境科目群
- ⑥国際経済の理論と実際科目群
- ⑦経済社会と経済思想の歴史科目群
- ⑧事例研究・フィールド科目群

これら8つの科目群は、下記の通りそれぞれコース科目群に分けられる。学生は自分の所属コース科目群の中から定められた単位数を修得しなければならない。

- | | |
|---------------------|--|
| ■ポリシー・アナリシスコース科目群 | ：①経済理論・計量科目群
②公共政策科目群
③金融経済科目群 |
| ■企業・制度デザインコース科目群 | ：③金融経済科目群
④市場・組織・制度の経済分析科目群
⑤現代の経済環境科目群 |
| ■グローバル・スタディーズコース科目群 | ：⑤現代の経済環境科目群
⑥国際経済の理論と実際科目群
⑦経済社会と経済思想の歴史科目群 |

⑧事例研究・フィールド科目群は3つのコースの共通科目群とされる。学生は⑧事例研究・フィールド科目群を除き、自分の所属するコース科目群に加え更に最低もう1つの科目群の、計4つ以上の科目群にわたって履修することが求められる。

以下の科目群については、それぞれ付表を参照のこと。

2. 隣接領域科目（他学科科目）（付表2を参照）
4. 教職関連科目（付表3を参照）

5. 卒業に必要な単位数と科目の内訳

各専攻コースの卒業要件は、卒業に必要な単位数と科目の内訳として以下の表にまとめられているので必ず参照のこと。

科目区分	ポリシー・アナリシスコース	企業・制度デザインコース	グローバル・スタディーズコース
専門科目	<p>84単位以上</p> <p>このうち、 基礎専門科目①・②・③群 演習・卒業論文科目的うち 「演習A3・演習A4・卒業論文」の中から32単位以上 および 基礎専門科目④・⑤・⑥・⑦ の中から2単位以上</p> <p>このうち、 ○ミクロ経済学入門(入門) ○マクロ経済学入門(入門) ○初級ミクロ経済学1・2(基礎①群) ○初級マクロ経済学1・2(基礎①群) の中から8単位 および ●入門計量経済学1・2(基礎①群) ●ミクロ経済政策(基礎②群) ●マクロ経済政策(基礎②群) ●ゲーム理論1・2(基礎④群) の中から8単位</p> <p>計16単位以上</p>	<p>84単位以上</p> <p>このうち、 基礎専門科目③・④・⑤群 演習・卒業論文科目的うち 「演習A3・演習A4・卒業論文」の中から32単位以上 および 基礎専門科目①・②・⑥・⑦ の中から2単位以上</p> <p>このうち、 ☆ミクロ経済学入門(入門) ☆マクロ経済学入門(入門) ☆初級ミクロ経済学1・2(基礎①群) ☆初級マクロ経済学1・2(基礎①群) の中から8単位 および ★現代社会と経済B(入門) ★入門計量経済学1・2(基礎①群) ★経済学史1・2(基礎①群) ★ゲーム理論1・2(基礎④群) の中から8単位</p> <p>計16単位以上</p>	<p>84単位以上</p> <p>このうち、 基礎専門科目⑤・⑥・⑦群 演習・卒業論文科目的うち 「演習A3・演習A4・卒業論文」の中から32単位以上 および 基礎専門科目①・②・③・④ の中から2単位以上</p> <p>このうち、 ◇ミクロ経済学入門(入門) ◇マクロ経済学入門(入門) ◇初級ミクロ経済学1・2(基礎①群) ◇初級マクロ経済学1・2(基礎①群) ◇経済学史1・2(基礎①群) の中から8単位 および ◆現代社会と経済A・B(入門) ◆入門経済史1・2(入門) ◆入門計量経済学1・2(基礎①群) ◆ゲーム理論1・2(基礎④群) ◆世界経済論1・2(基礎⑥群) の中から8単位 計16単位以上</p>
明治学院共通科目	<p>コア科目 4単位</p> <p>言語系科目 2言語で8単位 ※ (英語コミュニケーション1A・1B 英語コミュニケーション2A・2B) の計4単位は必修</p> <p>選択科目 12単位</p>	<p>4単位</p> <p>2言語で8単位 ※ (英語コミュニケーション1A・1B 英語コミュニケーション2A・2B) の計4単位は必修</p> <p>12単位</p>	<p>4単位</p> <p>2言語で8単位 ※ (英語コミュニケーション1A・1B 英語コミュニケーション2A・2B) の計4単位は必修</p> <p>12単位</p>
自由選択科目	<p>専門科目 言語系科目 明治学院共通科目 (選択科目) 隣接領域科目(他学科科目) 教職関連科目</p> <p>上記のほかに20単位</p>	<p>上記のほかに20単位</p>	<p>上記のほかに20単位</p>
	合計 128単位	128単位	128単位

※相談の結果、許可された者は1A・1B・2A・2Bではなく、3A・3B・4A・4Bを選択必修科目として履修することになる。

・「ミクロ経済学入門」「マクロ経済学入門」「経済情報処理1・2」は1年次の要求科目、「初級ミクロ経済学1・2」「初級マクロ経済学1・2」は2年次の要求科目であり、必ず履修しなければならない。ただし、その単位を修得できなくとも、ポリシー・アナリシスコースの場合は○印の付された他の科目的、企業・制度デザインコースの場合は☆印の付された他の科目的、グローバル・スタディーズコースの場合は◇印の付された他の科目的単位を修得することで、卒業要件を満たすことができる。

・留学生の言語系科目的履修については、P50の明治学院共通科目[言語系科目群]を参照。

⇒【専門科目】の科目に関する履修の方法は、P78を参照。

⇒【明治学院共通科目】の科目に関する履修の方法は、P35~59を参照。

- ⇒ 【隣接領域科目（他学科科目）】の科目に関する履修の方法は、P90～91を参照。
⇒ 【教職関連科目】の科目に関する履修の方法は、P91を参照。

1. ポリシー・アナリシスコースに所属する学生の卒業要件

- 1) 専門科目（経済学科の学科科目）、隣接領域科目（他学科科目）、明治学院共通科目、教職関連科目の中から合計128単位以上を修得しなければならない。
ただし、教職関連科目は12単位までしか卒業に必要な単位とはならない。
- 2) 明治学院共通科目の中から合計24単位以上を修得しなければならない。
第1に、コア科目 4 単位（キリスト教の基礎A・B）必修を修得し、
第2に、選択科目の中から12単位以上を修得し、
(ただし、明治学院共通科目の「統計学1・2・3・4」は履修できない。また、「6. 健康・スポーツ科学系科目群」は合わせて8単位しか卒業に必要な単位とはならない。)
第3に、言語系科目として、「英語コミュニケーション」1A・1B、2A・2Bそれぞれ各1単位、計4単位必修を修得し、さらに初習語の中から1言語を選択し、その言語について1A・1B、2A・2Bの各1単位、計4単位を修得しなければならない。（相談の結果、許可された者は1A・1B・2A・2Bではなく、3A・3B・4A・4Bを選択必修科目として履修することになる。）
- 3) 専門科目（入門専門科目、基礎専門科目、情報数理・統計科目、専門外国語科目、実習科目、演習・卒業論文科目）の中から84単位以上を修得しなければならない。
第1に、入門専門科目及び基礎専門科目のうち、○印の科目の中から8単位及び、●印の科目の中から8単位の、合計16単位以上を修得しなければならない。このうち、ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、初級ミクロ経済学1・2、初級マクロ経済学1・2、経済情報処理1・2は要求科目であり、それぞれの履修年次で必ず履修することが求められる。
第2に、基礎専門科目のうち、ポリシー・アナリシスコース科目群（=①経済理論・計量科目群、②公共政策科目群、③金融経済科目群）および演習A3・演習A4・卒業論文の中から32単位以上を修得しなければならない（上記第1の16単位のうち、ポリシー・アナリシスコース科目群の科目を含む）。また、ポリシー・アナリシスコースのコース科目群3つのほかに、さらに4～7群の科目群の中から2単位以上修得しなくてはならない。
第3に、残り50単位（84 - (32 + 2) = 50）は、専門科目（入門専門科目、基礎専門科目、情報数理・統計科目、専門外国語科目、実習科目、演習・卒業論文科目）のうちから、上記34単位の他に任意の科目を修得すればよい。
- 4) 専門科目（入門専門科目、基礎専門科目、情報数理・統計科目、専門外国語科目、実習科目、演習・卒業論文科目）の84単位を超過して修得した単位分、明治学院共通科目の言語系科目の8単位を超過して修得した単位分、明治学院共通科目の選択科目の12単位を超過して修得した単位分、および隣接領域科目（他学科科目）の修得単位分と付表3の教職関連科目の修得単位分は、自由選択科目の単位数として算入することができる。自由選択科目は、20単位以上を修得しなければならない。

2. 企業・制度デザインコースに所属する学生の卒業要件

- 1) 専門科目（経済学科の学科科目）、隣接領域科目（他学科科目）、明治学院共通科目、教職関連科目の中から合計128単位以上を修得しなければならない。
ただし、教職関連科目は12単位までしか卒業に必要な単位とはならない。

2) 明治学院共通科目の中から合計24単位以上を修得しなければならない。

第1に、コア科目 4 単位（キリスト教の基礎A・B）必修を修得し、

第2に、選択科目の中から12単位以上を修得し、

（ただし、明治学院共通科目の「統計学1・2・3・4」は履修できない。また、「6. 健康・スポーツ科学系科目群」は合わせて8単位しか卒業に必要な単位とはならない。）

第3に、言語系科目として、「英語コミュニケーション」1A・1B、2A・2Bそれぞれ各1単位、計4単位必修を修得し、さらに初習語の中から1言語を選択し、その言語について1A・1B、2A・2Bの各1単位、計4単位を修得しなければならない。（相談の結果、許可された者は1A・1B・2A・2Bではなく、3A・3B・4A・4Bを選択必修科目として履修することになる。）

3) 専門科目（入門専門科目、基礎専門科目、情報数理・統計科目、専門外国語科目、実習科目、演習・卒業論文科目）の中から84単位以上を修得しなければならない。

第1に、入門専門科目及び基礎専門科目のうち、☆印の科目の中から8単位及び、★印の科目の中から8単位の、合計16単位以上を修得しなければならない。このうち、ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、初級ミクロ経済学1・2、初級マクロ経済学1・2、経済情報処理1・2は要求科目であり、それぞれの履修年次で必ず履修することが求められる。

第2に、基礎専門科目のうち、企業・制度デザインコース科目群（=③金融経済科目群、④市場・組織・制度の経済分析科目群、⑤現代の経済環境科目群）および演習A3・演習A4・卒業論文の中から32単位以上を修得しなければならない（上記第1の16単位のうち、企業・制度デザインコース科目群の科目を含む）。また、企業・制度デザインコースのコース科目群3つのほかに、さらに1～2群及び6～7群の科目群の中から2単位以上修得しなくてはならない。

第3に、残り50単位（84 - (32 + 2) = 50）は、専門科目（入門専門科目、基礎専門科目、情報数理・統計科目、専門外国語科目、実習科目、演習・卒業論文科目）のうちから、上記34単位の他に任意の科目を修得すればよい。

4) 専門科目（入門専門科目、基礎専門科目、情報数理・統計科目、専門外国語科目、実習科目、演習・卒業論文科目）の84単位を超過して修得した単位分、明治学院共通科目の言語系科目の8単位を超過して修得した単位分、明治学院共通科目の選択科目の12単位を超過して修得した単位分、および隣接領域科目（他学科科目）の修得単位分と付表3の教職関連科目の修得単位分は、自由選択科目の単位数として算入することができる。自由選択科目は、20単位以上を修得しなければならない。

3. グローバル・スタディーズコースに所属する学生の卒業要件

1) 専門科目（経済学科の学科科目）、隣接領域科目（他学科科目）、明治学院共通科目、教職関連科目の中から合計128単位以上を修得しなければならない。

ただし、教職関連科目は12単位までしか卒業に必要な単位とはならない。

2) 明治学院共通科目の中から合計24単位以上を修得しなければならない。

第1に、コア科目 4 単位（キリスト教の基礎A・B）必修を修得し、

第2に、選択科目の中から12単位以上を修得し、

（ただし、明治学院共通科目の「統計学1・2・3・4」は履修できない。また、「6. 健康・スポーツ科学系科目群」は合わせて8単位しか卒業に必要な単位とはならない。）

第3に、言語系科目として、「英語コミュニケーション」1A・1B、2A・2Bそれぞれ各1単位、計4単位必修を修得し、さらに初習語の中から1言語を選択し、その言語について1A・1B、2A・2Bの各1単位、計4単位を修得しなければならない。（相談の結果、許可された者は1A・1B、2A・2Bではなく、3A・3B、4A・4Bを選択必修科目として履修することになる。）

3) 専門科目（入門専門科目、基礎専門科目、情報数理・統計科目、専門外国語科目、実習科目、演習・卒業論文科目）の中から84単位以上を修得しなければならない。

第1に、入門専門科目及び基礎専門科目のうち、◇印の科目の中から8単位及び、◆印の科目の中から8単位の、合計16単位以上を修得しなければならない。このうち、ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、初級ミクロ経済学1・2、初級マクロ経済学1・2、経済情報処理1・2は要求科目であり、それぞれの履修年次で必ず履修することが求められる。

第2に、基礎専門科目のうち、グローバル・スタディーズコース科目群（=⑤現代の経済環境科目群、⑥国際経済の理論と実際科目群、⑦経済社会と経済思想の歴史科目群）および演習A3・演習A4・卒業論文の中から32単位以上を修得しなければならない（上記第1の16単位のうち、グローバル・スタディーズコース科目群の科目を含む）。

また、グローバル・スタディーズコースのコース科目群3つのほかに、さらに1～4群の科目群の中から2単位以上修得しなくてはならない。

第3に、残り50単位（84 - (32 + 2) = 50）は、専門科目（入門専門科目、基礎専門科目、情報数理・統計科目、専門外国語科目、実習科目、演習・卒業論文科目）のうちから、上記34単位の他に任意の科目を修得すればよい。

4) 専門科目（入門専門科目、基礎専門科目、情報数理・統計科目、専門外国語科目、実習科目、演習・卒業論文科目）の84単位を超過して修得した単位分、明治学院共通科目の言語系科目の8単位を超過して修得した単位分、明治学院共通科目の選択科目の12単位を超過して修得した単位分、および隣接領域科目（他学科科目）の修得単位分と付表3の教職関連科目の修得単位分は、自由選択科目の単位数として算入することができる。自由選択科目は、20単位以上を修得しなければならない。

6. その他の履修上の注意

- 1) 予備登録科目は、学修の手引きに記載があるように登録後は変更できない。また、春学期に登録した秋学期開講の予備登録科目は、秋学期の履修登録期間に変更できない。予備登録を行う科目については履修登録期間前に「履修の手引き」を確認すること。
- 2) 「基礎演習A～D」は1年生のみが履修できる。A・B・C・Dのいずれか1つしか履修できない。
履修の方法については、「履修の手引き」を確認すること。原則として初回授業に出席する必要がある。
- 3) 「現代社会と経済A・B」は1年生のみが履修できる。
- 4) 「経済学演習A～D」は、2年生のみが履修できる。A・B・C・Dのいずれか1つしか履修できない。
履修登録期間中に先着順で募集をするので、各自履修登録を行うこと。
- 5) 「ミクロ経済学入門」と「マクロ経済学入門」は要求科目であり、1年次で必ず履修しなければならない。ただし、その単位を修得できなくても、ポリシー・アナリシスコースの場合はP79の○印の付された他の科目的、企業・制度デザインコースの場合は☆印の付された他の科目的、グローバル・スタディーズコースの場合は◇印の付された他の科目的単位を修得することで、卒業要件を満たすことができる。また、「初級ミクロ経済学1・2」「初級マクロ経済学1・2」は要求科目であり、2年次で必ず履修しなければならない。ただし、その単位を修得できなくても、ポリシー・アナリシスコースの場合は、P79の○印の付された他の科目的、企業・制度デザインコースの場合は☆印の付された他の科目的、グローバル・スタディーズコースの場合は、◇印の付された他の科目的単位を修得することで、卒業要件を満たすことができる。
- 6) 「経済情報処理1・2」は要求科目であり、1年次で必ず履修しなければならない。
- 7) 「フィールド・スタディA～D」「事例研究A～D」の履修については以下のとおりである。
 - ・「フィールド・スタディA～D」を履修する学生は、原則として末尾が同じアルファベットの「事例研究A～D」を同年度同学期において履修しなければならない。ただし、「事例研究A～D」を履修する学生は、「フィールド・スタディA～D」を必ずしも履修する必要はない。
 - ・「フィールド・スタディA～D」の費用は、学部から海外保険及び海外教育施設利用についての補助が一部あるが、自己負担である。
 - ・「フィールド・スタディA～D」の1コマの定員は原則として25名以内とする。また、「事例研究A～D」(半期)の1コマの定員を原則として60名～90名とする。履修できる「事例研究A～D」は学期ごとに1つまでである。
 - ・「フィールド・スタディA～D」は、4年次以上かつ当該学期に卒業を予定している学生が履修希望する場合は、WEBでの登録はできず、履修登録期間内に教務課窓口で申請する必要がある。その場合も、フィールド・スタディ科目的単位認定が通常卒業判定に間に合わない事に留意すること。履修者を制限する必要が生じた場合、2年生・3年生・4年生及び過年度生の順に優先とする。
 - ・「フィールド・スタディA～D」の行程や目的地は、国情の変化や相手国の受け入れ先の事情等により変更・中止する場合があることを事前に理解しておくこと。外務省海外安全ホームページの「危険・スポット・広域情報」においてレベル2以上の情報が掲載されたときは、フィールド・スタディを実施するかどうか検討することとする。また、この変更・中止によって参加できなくなった場合は、GPAに影響を与えない「履修削除」とする。
 - ・「フィールド・スタディA～D」の履修を希望する3年生以上の学生で、以前の年度に末尾が同じアルファベットの「事例研究A～D」の単位を修得している学生は、担当教員と相談の上、末尾が同じアルファベットの「事例研究A～D」

について同年度同学期の履修を免除することがある。その際には、教務課で配布する「事例研究免除承諾書」に担当教員の署名を受けた上で、履修登録期間内に教務課に提出しなければならない。

・「フィールド・スタディA～D」「事例研究A～D」は予備登録を実施せずに、新2年生も3年生以上も、履修登録期間に履修者を募集する。定員を超えた場合は、2年生、3年生、4年生の順で優先とする。さらに定員を超えた場合は抽選とする。

8) 2年次経済学科生は、白金校舎で火曜日・木曜日に開講されている2年次配当の科目を下記の通り履修できる。

曜日	明治学院共通科目	専門科目	隣接領域科目 (他学科科目)	教職関連科目
火曜	履修不可	履修可	履修不可	履修不可
木曜	[選択科目]の2年次配当科目のみ履修可	履修可	履修不可	履修不可

9) 「入門計量経済学1・2」は、1クラス定員100名を上限とする。新2年生の専攻コース決定後、予備登録（事前登録）を実施する。原則として初回授業に出席する必要がある。定員超過の場合、ポリシー・アナリシスコースと企業・制度デザインコースの学生を優先し、人数に余裕があればグローバル・スタディーズコースの学生も履修できる。この科目を受講するにはノートパソコンの携帯を必要とする。事前登録までに準備が必要である。また、「経済統計学1・2」を履修済であることが望ましい。

10) 「海外語学研修」は、4年次以上かつ当該学期に卒業を予定している学生が履修希望する場合は、WEBでの登録はできず、履修登録期間内に教務課窓口で申請する必要がある。その場合も、当該科目の単位認定が通常卒業判定に間に合わない事に留意すること。

11) 経済学科生は、明治学院共通科目「統計学1・2・3・4」は履修できない。経済学科生向けには「経済統計学1・2」「入門計量経済学1・2」が開講されている。

7. 科目一覧表

経済学科の学科科目を一覧で示すと、付表1のとおりである。

付表1 専門科目

1. 入門専門科目				
EEELM	101	ミクロ経済学入門	2単位	1年次
	102	マクロ経済学入門	2単位	1年次
	111	現代社会と経済A	2単位	1年次
	112	現代社会と経済B	2単位	1年次
	121	入門経済史1	2単位	1年次
	122	入門経済史2	2単位	1年次
2. 基礎専門科目				
①経済理論・計量科目群				
EETHQ	201	初級ミクロ経済学1	2単位	2年次
	202	初級ミクロ経済学2	2単位	2年次
	211	初級マクロ経済学1	2単位	2年次
	212	初級マクロ経済学2	2単位	2年次
	221	入門計量経済学1	2単位	2年次
	222	入門計量経済学2	2単位	2年次
	231	経済学史1	2単位	2年次
	232	経済学史2	2単位	2年次
	301	中級ミクロ経済学1	2単位	3年次
	302	中級ミクロ経済学2	2単位	3年次
	311	中級マクロ経済学1	2単位	3年次
	312	中級マクロ経済学2	2単位	3年次
	411	経済成長と景気変動1	2単位	3年次
	412	経済成長と景気変動2	2単位	3年次
	331	計量経済学1	2単位	3年次
	332	計量経済学2	2単位	3年次
	381	経済理論特講1	2単位	3年次
	382	経済理論特講2	2単位	3年次
	391	情報数理特講1	2単位	3年次
	392	情報数理特講2	2単位	3年次
②公共政策科目群				
EEPOL	201	ミクロ経済政策	2単位	2年次
	202	マクロ経済政策	2単位	2年次
	301	財政学1	2単位	3年次
	302	財政学2	2単位	3年次
	311	地方財政論1	2単位	3年次
	312	地方財政論2	2単位	3年次
	321	公共経済学1	2単位	3年次
	322	公共経済学2	2単位	3年次
	331	農業政策論1	2単位	3年次
	332	農業政策論2	2単位	3年次

EEPOL	341	公共政策論1	2単位	3年次
	342	公共政策論2	2単位	3年次
	351	経済発展論1	2単位	3年次
	352	経済発展論2	2単位	3年次
	381	都市政策論1	2単位	3年次
	382	都市政策論2	2単位	3年次
	391	公共政策特講1	2単位	3年次
	392	公共政策特講2	2単位	3年次
	③金融経済科目群			
EEMON	301	金融論1	2単位	3年次
	302	金融論2	2単位	3年次
	311	国際金融論1	2単位	3年次
	312	国際金融論2	2単位	3年次
	321	ファイナンス1	2単位	3年次
	322	ファイナンス2	2単位	3年次
	331	金融システム論1	2単位	3年次
	332	金融システム論2	2単位	3年次
	341	コーポレート・ファイナンス1	2単位	3年次
	342	コーポレート・ファイナンス2	2単位	3年次
	391	金融経済特講1	2単位	3年次
	392	金融経済特講2	2単位	3年次
	EGA&F	金融資本市場論	2単位	3年次
	④市場・組織・制度の経済分析科目群			
EEORG	201	ゲーム理論1	2単位	2年次
	202	ゲーム理論2	2単位	2年次
	211	産業組織論1	2単位	2年次
	212	産業組織論2	2単位	2年次
	301	情報の経済学1	2単位	3年次
	302	情報の経済学2	2単位	3年次
	311	企業と組織の経済学1	2単位	3年次
	312	企業と組織の経済学2	2単位	3年次
	321	法と経済学1	2単位	3年次
	322	法と経済学2	2単位	3年次
	331	社会的公正の経済学1	2単位	3年次
	332	社会的公正の経済学2	2単位	3年次
	341	比較経済制度論1	2単位	3年次
	342	比較経済制度論2	2単位	3年次
	351	行動経済学1	2単位	3年次
	352	行動経済学2	2単位	3年次
	361	イノベーションの経済学1	2単位	3年次
	362	イノベーションの経済学2	2単位	3年次
	371	マーケットデザイン1	2単位	3年次
	372	マーケットデザイン2	2単位	3年次
	391	組織と制度の経済学特講1	2単位	3年次
	392	組織と制度の経済学特講2	2単位	3年次

⑤現代の経済環境科目群				
EEISS	201	経済の先端的問題1	2単位	2年次
	202	経済の先端的問題2	2単位	2年次
	301	労働経済学1	2単位	3年次
	302	労働経済学2	2単位	3年次
	311	企業と経済1	2単位	3年次
	312	企業と経済2	2単位	3年次
	321	環境の経済学1	2単位	3年次
	322	環境の経済学2	2単位	3年次
	331	開発経済学1	2単位	3年次
	332	開発経済学2	2単位	3年次
	341	人口論1	2単位	3年次
	342	人口論2	2単位	3年次
	351	人事の経済学1	2単位	3年次
	352	人事の経済学2	2単位	3年次
	361	政策評価の経済学1	2単位	3年次
	362	政策評価の経済学2	2単位	3年次
	381	都市の経済学1	2単位	3年次
	382	都市の経済学2	2単位	3年次
	391	現代経済特講1	2単位	3年次
	392	現代経済特講2	2単位	3年次
⑥国際経済の理論と実際科目群				
EEGLO	301	世界経済論1	2単位	2年次
	302	世界経済論2	2単位	2年次
	311	国際経済学1	2単位	3年次
	312	国際経済学2	2単位	3年次
	321	日本経済論1	2単位	3年次
	322	日本経済論2	2単位	3年次
	331	アメリカ経済論1	2単位	3年次
	332	アメリカ経済論2	2単位	3年次
	341	中国経済論	2単位	3年次
	342	アジア経済論	2単位	3年次
	351	ヨーロッパ経済論1	2単位	3年次
	352	ヨーロッパ経済論2	2単位	3年次
	391	国際経済特講1	2単位	3年次
	392	国際経済特講2	2単位	3年次
⑦経済社会と経済思想の歴史科目群				
EEHIS	201	キリスト教と経済	2単位	2年次
	301	日本経済史1	2単位	3年次
	302	日本経済史2	2単位	3年次
	311	西洋経済史1	2単位	3年次
	312	西洋経済史2	2単位	3年次
	321	アジア経済史1	2単位	3年次
	322	アジア経済史2	2単位	3年次
	331	現代西洋経済史1	2単位	3年次
	332	現代西洋経済史2	2単位	3年次

EEHIS	341	現代日本経済史1	2単位	3年次
	342	現代日本経済史2	2単位	3年次
	351	比較経済思想史1	2単位	3年次
	352	比較経済思想史2	2単位	3年次
	401	古典・資料研究1	2単位	3年次
	402	古典・資料研究2	2単位	3年次
	391	経済史特講1	2単位	3年次
	392	経済史特講2	2単位	3年次
	⑧事例研究・フィールド科目群			
EECAS	201	事例研究A	2単位	2年次
	211	事例研究B	2単位	2年次
	221	事例研究C	2単位	2年次
	231	事例研究D	2単位	2年次
	202	フィールド・スタディA	2単位	2年次
	212	フィールド・スタディB	2単位	2年次
	222	フィールド・スタディC	2単位	2年次
	232	フィールド・スタディD	2単位	2年次
	241	実験経済学1	2単位	2年次
	242	実験経済学2	2単位	2年次
3. 情報数理・統計科目				
EEMST	101	基礎数学1	2単位	1年次
	102	基礎数学2	2単位	1年次
	111	経済情報処理1	2単位	1年次
	112	経済情報処理2	2単位	1年次
	121	経済統計学1	2単位	1年次
	122	経済統計学2	2単位	1年次
	201	入門経済数学1	2単位	2年次
	202	入門経済数学2	2単位	2年次
	211	確率・統計1	2単位	2年次
	212	確率・統計2	2単位	2年次
	301	経済数学1	2単位	3年次
	302	経済数学2	2単位	3年次
4. 専門外国語科目				
EELNG	101	海外語学研修	2単位	1年次
	201	経済事情（英語）1	2単位	2年次
	202	経済事情（英語）2	2単位	2年次
	211	経済事情（中国語）1	2単位	2年次
	212	経済事情（中国語）2	2単位	2年次
	221	経済英語1	2単位	2年次
	222	経済英語2	2単位	2年次
5. 実習科目				
EEPRA	201	社会参加実習1	2単位	2年次
	202	社会参加実習2	2単位	2年次
EBSEM	303	インターンシップ（講義）	2単位	2年次
	304	インターンシップ（実習）	1単位	3年次

6. 演習・卒業論文科目

EESEM	101	基礎演習A	2単位	1年次
	111	基礎演習B	2単位	1年次
	121	基礎演習C	2単位	1年次
	131	基礎演習D	2単位	1年次
	201	経済学演習A	2単位	2年次
	211	経済学演習B	2単位	2年次
	221	経済学演習C	2単位	2年次
	231	経済学演習D	2単位	2年次
	301	演習A1	2単位	3年次
	302	演習A2	2単位	3年次
	311	演習B1	2単位	3年次
	312	演習B2	2単位	3年次
	401	演習A3	2単位	4年次
	402	演習A4	2単位	4年次
	403	卒業論文	4単位	4年次
EBSEM	301	演習A1	2単位	3年次
	302	演習A2	2単位	3年次
	311	演習B1	2単位	3年次
	312	演習B2	2単位	3年次
	401	演習A3	2単位	4年次
	402	演習A4	2単位	4年次
	403	卒業論文	4単位	4年次
EGSEM	301	演習A1	2単位	3年次
	302	演習A2	2単位	3年次
	311	演習B1	2単位	3年次
	312	演習B2	2単位	3年次
	401	演習A3	2単位	4年次
	402	演習A4	2単位	4年次
	403	卒業論文	4単位	4年次

(注1)「特講科目」(例えば国際経済特講1・2など)の授業は、特定のテーマに相応しい担当者によってなされる科目である。そのため、サブタイトルが異なれば同一科目名の単位を再度修得することが可能であり、そのいずれも卒業単位とみなされる。

例えばサブタイトルが異なれば○○特講1の単位を2回修得することができる。

(注2) インターンシップ(実習)は、3年次生以上のみ履修可とする。ただし、単位を修得するには、インターンシップ(講義)を履修している必要がある。

また、インターンシップ(講義)、インターンシップ(実習)の成績評価は、通常の評価(S、A、B、C、DあるいはN)ではなく、P(合格)、あるいはF(不合格)とする。Pの場合、卒業に必要な単位として認められる。

付表2 隣接領域科目（他学科科目）

経営学・商学・会計学科目				
経営学科の専門科目（経営学入門、マーケティング入門、会計学入門、経済学概論1・2、ビジネスのための法律1・2、データ処理論、ワークショップ1・2を除く）の全科目				
国際経営学科の専門科目（基礎科目、専門外国語I、Study Abroad Program、ビジネス・オーガニゼーション1・2、コーポレート・ファイナンス1・2、貿易論1・2、産業組織論1・2、コーポレート・ストラテジー1・2、ケース・スタディ1・2・3・4を除く）の全科目				
法学・消費情報環境法学・政治学科目				
J-CIL	201	民法A	2単位	2年次
	202	民法B	2単位	2年次
J-COL	201	商法A	2単位	2年次
	202	商法B	2単位	2年次
	344	金融商品取引法	2単位	3年次
J-PUL	111	憲法A ※	2単位	2年次
	112	憲法B ※	2単位	2年次
	221	行政法A ※	2単位	3年次
	222	行政法B ※	2単位	3年次
	350	EU法	2単位	3年次
J-INL	211	国際法1-1	2単位	2年次
	212	国際法1-2	2単位	2年次
	311	国際法2-1	2単位	3年次
	312	国際法2-2	2単位	3年次
	353	国際消費者法	2単位	3年次
	357	アメリカ契約・不法行為法1	2単位	3年次
	358	アメリカ契約・不法行為法2	2単位	3年次
	361	グローバル企業法	2単位	3年次
J-NFL	324	環境政策と法	2単位	3年次
	326	国際環境法1	2単位	3年次
	331	競争法	2単位	3年次
J-INR	103	国際政治学A	2単位	2年次
	104	国際政治学B	2単位	2年次
J-POL	201	現代政治理論1A	2単位	2年次
	202	現代政治理論1B	2単位	2年次
J-SOL	321	労働法1	2単位	3年次
	322	労働法2	2単位	3年次

※印の科目：これらの科目の履修に際しては、BはAで学んだ知識を前提とした続編としての性格を有するため、再履修の場合を除き、同一年度にAとBの両方を履修することが望ましい。

- (注1) 「民法A・B」、「商法A・B」は法学1・2（明治学院共通科目）の履修を前提として講義が行われる。また、Bの履修にあたっては、Aが履修済みであることが望ましい。講義はAの知識を前提として行われる。
- (注2) 金融商品取引法、グローバル企業法、国際環境法1、環境政策と法、国際消費者法の履修については、法律の知識およびパーソナルコンピュータの操作技術が求められる。憲法A・B、民法A・B、商法A・Bのいずれかを修得済みか、同時に履修していることが望ましい。
- (注3) 他学科科目の一部で専門科目に含まれている科目がある。それらの科目は付表1に記載されている科目群に属する。

社会学・社会福祉学科目				
SWSPA	201	社会保障論A	2単位	2年次
	202	社会保障論B	2単位	2年次
SGLEC	214	地域社会論	2単位	3年次
	215	都市社会学	2単位	3年次

(注1) 上記の科目は、それぞれAとBが内容的に連続している場合が多いので、できるだけ同一年度に続けて履修することが望ましい。

国際キャリア学科目				
KCGEN	102	Current Affairs A	2単位	1年次
	103	Current Affairs B	2単位	1年次

付表3 教職関連科目

教職関連科目				
TCKNO	901	日本史A	2単位	2年次
	902	日本史B	2単位	2年次
	911	世界史A	2単位	2年次
	912	世界史B	2単位	2年次
	921	地理学概論1	2単位	2年次
	922	地理学概論2	2単位	2年次
	931	自然地理学1	2単位	2年次
	932	自然地理学2	2単位	2年次
	941	地誌概説1	2単位	2年次
	942	地誌概説2	2単位	2年次
	951	宗教学概論1	2単位	3年次
	952	宗教学概論2	2単位	3年次
LXCRS	961	職業指導	2単位	3年次
	301	哲学（専）1	2単位	3年次
	302	哲学（専）2	2単位	3年次

(注1) 年間履修上限単位数48単位に含まれる。

(注2) 12単位までしか卒業単位として認められない。

(注3) 3年次以上で「哲学（専）1・2」を履修するためには、「MGPHI」（哲学）、「MGETH」（倫理学）、「MGLOG」（論理学）の科目から、同一名称の2科目（計4単位）を修得済みでなければならない。

経営学科

経済学部の目標と方針

人材養成上の目的・教育目標

経済学部は、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、経済学部の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

経済学部が目標とするのは、健全な倫理観を持ちながら経済学の知識によって社会で活躍できる人材の育成であり、経済学の多様性を理解し、新しい変化に弾力的に取り組めるようなバランス感覚を身につけた「良識のある経済人」の育成である。

卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

経済学部は、明治学院大学の「卒業の認定・学位授与に関する方針」に基づき、経済学部の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成するため、所定の期間在学するとともに所定の単位を修得し、次の能力を身につけることを卒業認定と学位授与の要件とする。

いずれの学科でも、幅広い教養とともに経済学・経営学分野の基礎的知識を獲得し、それを体系的に理解し、これを活用するための情報収集力・分析力や他者とのコミュニケーション能力を身につけ、現代社会に生起する諸問題に積極的に取り組む力を身につけた「良識のある経済人」であること。

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部は、明治学院大学の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、経済学部の定める「人材養成上の目的・教育目標」および「卒業の認定・学位授与に関する方針」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

いずれの学科でも、カリキュラム編成においては無理なく導入から専門へ移行できるよう、コース制等の制度的な工夫をしている。また、コミュニケーション能力獲得のため少人数教育を目指し、身につけた知識を実際の現場で応用できるよう、実践的な科目も多く配置してある。専門教育科目のうち、演習（卒業論文を含む）とインターンシップはすべての学科の共通科目として配置している。また学科間の結びつきを高めるため、経済学部内の他学科の専門教育科目は「隣接領域科目」として位置づけ、原則として経済学部の全学生が履修できるようにしてある。

経営学科の目標と方針

人材養成上の目的・教育目標

経済学部経営学科は、経済学部の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、経営学科の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

複雑化・高度化する企業経営上の課題、また社会的諸課題を、経営学領域の専門的知識と思考力によって解決できる人材が求められている。経営学科の教育目標は、経営学、マーケティング、会計学の各分野の知識と、各分野を横断的にとらえ課題を解決する思考力を備えた「良識あるビジネス・パーソン」の育成にある。

卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

経済学部経営学科は、経済学部の「卒業の認定・学位授与に関する方針」に基づき、経営学科の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成するため、所定の期間在学するとともに124単位を修得し、次の能力を身につけることを卒業認定と学位授与の要件とする。

- 1 幅広い教養とともに、経営学、マーケティング、会計学の各経営学分野の基礎的知識を有し、それらを横断的にとらえる能力を有している。
- 2 知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための思考力と情報収集・分析力を身につけている。
- 3 他者と協業して課題解決にあたるためのコミュニケーション能力を備えている。
- 4 本学の教育理念である“Do for Others（他者への貢献）”の精神を持ち、在学期間を通じて獲得した知識・技能・態度などを総合的に活用して現代社会に生じる諸問題に積極的に取り組む力を身につけた「良識あるビジネス・パーソン」であること。

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部経営学科は、経済学部の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、経営学科の定める「人材養成上の目的・教育目標」および「卒業の認定・学位授与に関する方針」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

経営学科では、導入科目群、基幹科目群、演習科目群、応用科目群を設け、1年次から4年次を通じて、経営学、マーケティング、会計学の3分野を、段階的かつ体系的に学習できるようにする。

- ・経営学分野では、経営理論に重点をおく科目、情報分析能力を養う科目、さらに事例分析も含めて、企業活動の分析・理解に必要不可欠な知識を獲得できる体系的な教育課程（カリキュラム）を提供する。
- ・マーケティング分野では、理論的かつ体系的な講義科目、および実証的かつ実践的な演習科目を通して、企業が産み出す商品やサービスに関わるマーケティング活動に必要な知識が得られる教育課程（カリキュラム）を提供する。
- ・会計学分野では、企業活動を貨幣の動きで記録、計算、報告する情報システムを、理論的および技術的側面から体系的に学ぶことのできる教育課程（カリキュラム）を提供する。

1年次ではこの3分野の基礎を学び、2年次以降では理論的内容の科目や応用科目を学習できるよう配置し、それと並行する形で、1年次より少人数の演習科目を設け、能動的、双方向的な学習の機会をつくる。さらに企業等で実習をおこなう科目（インターンシップ）を配置し、教室内外での学習ができるようにする。

卒業の認定・学位授与に関する方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連表(能力要件表)

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				経営学科1	経営学科1	経営学科2	経営学科2	経営学科4	経営学科4	経営学科3	経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく 身につく能力				幅広い 教養	経営学分野の基礎的知識とそれらを横断的にとらえる能力	知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための情報収集力	知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための思考力・分析力	諸問題に積極的に取り組む姿勢	本学の教育理念である“Do for Others(他者への貢献)”の精神	他者と協業して課題解決にあたるためのコミュニケーション能力	現代社会に生起する諸問題に積極的に取り組む力
授業科目名 必修選択 単位 年次 科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○											
導入科目群											
EBBUS101経営学入門	選択必修	2	1		◎	○					
EBMKT101マーケティング入門	選択必修	2	1		◎	○					○
EBACC101会計学入門	選択必修	2	1		◎						○
基幹科目群											
EBBUS102経済学概論1	選択必修	2	1		◎		○				
EBBUS103経済学概論2	選択必修	2	1	○							◎
EBBUS104ビジネスのための法律1	選択必修	2	1	○			○				◎
EBBUS105ビジネスのための法律2	選択必修	2	1	○			○				◎
EBBUS201経営学原理1	選択必修	2	2	○	◎		○				
EBBUS202経営学原理2	選択必修	2	2		◎		○				
EBBUS203経営組織論1	選択必修	2	2		◎		○				○
EBBUS204経営組織論2	選択必修	2	2		◎						○
EBMKT201マーケティング1	選択必修	2	2		○		◎			○	○
EBMKT202マーケティング2	選択必修	2	2		○		◎			○	○
EBMKT203市場システム1	選択必修	2	2		○		◎				○
EBMKT204市場システム2	選択必修	2	2		○		◎				○
EBACC201財務会計論1	選択必修	2	2		○						◎
EBACC202財務会計論2	選択必修	2	2		○						◎
EBACC203管理会計論1	選択必修	2	2		○						◎
EBACC204管理会計論2	選択必修	2	2		○						◎
演習科目群											
EBSEM101データ処理論	選択必修	2	1			◎	○				
EBSEM102ビジネス英語1	選択必修	2	1							◎	○
EBSEM103ビジネス英語2	選択必修	2	1							◎	○
EBSEM104ワークショップ1	選択必修	2	1			○	○			◎	
EBACC102簿記1	選択必修	2	1		◎						○
EBACC103簿記2	選択必修	2	1		◎						○
EBACC104応用簿記	選択必修	2	1		◎						○
EBSEM201ビジネス英語3	選択必修	2	2							◎	○
EBSEM202ビジネス英語4	選択必修	2	2							◎	○
EBSEM203ワークショップ2	選択必修	2	2			○	○			◎	
EBSEM303インターンシップ(講義)	選択必修	2	2					◎		○	
EBACC205工業簿記	選択必修	2	2		◎						○
EBSEM304インターンシップ(実習)	選択必修	1	3					◎		○	
EBSEM301演習A1	選択必修	2	3			○	○			◎	
EBSEM302演習A2	選択必修	2	3			○	○			◎	
EBSEM311演習B1	選択必修	2	3			○	○			◎	
EBSEM312演習B2	選択必修	2	3			○	○			◎	
EESEM301演習A1	選択必修	2	3			○	○			◎	
EESEM302演習A2	選択必修	2	3			○	○			◎	
EESEM311演習B1	選択必修	2	3			○	○			◎	
EESEM312演習B2	選択必修	2	3			○	○			◎	
EGSEM301演習A1	選択必修	2	3			○	○			◎	
EGSEM302演習A2	選択必修	2	3			○	○			◎	

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				経営学科1	経営学科1	経営学科2	経営学科2	経営学科4	経営学科4	経営学科3	経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				幅広い教養	経営学分野の基礎的知識とそれらを横断的にとらえる能力	知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための情報収集力	知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための思考力・分析力	諸問題に積極的に取り組む姿勢	本学の教育理念である“Do for Others (他者への貢献)”の精神	他者と協業して課題解決にあたるためのコミュニケーション能力	現代社会に生起する諸問題に積極的に取り組む力
授業科目名											科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○
EGSEM311演習B1	選択必修	2	3			○	○			◎	
EGSEM312演習B2	選択必修	2	3			○	○			◎	
EBMKT301マーケティング・リサーチ1	選択必修	2	3				◎				○
EBMKT302マーケティング・リサーチ2	選択必修	2	3				◎			○	○
EBSEM401演習A3	選択必修	2	4			○	○			◎	
EBSEM402演習A4	選択必修	2	4			○	○			◎	
EBSEM403卒業論文	選択必修	4	4			○	○				◎
EESEM401演習A3	選択必修	2	4			○	○			◎	
EESEM402演習A4	選択必修	2	4			○	○			◎	
EESEM403卒業論文	選択必修	4	4			○	○				◎
EGSEM401演習A3	選択必修	2	4			○	○			◎	
EGSEM402演習A4	選択必修	2	4			○	○			◎	
EGSEM403卒業論文	選択必修	4	4			○	○				◎
応用科目群											
EBBUS205経営史1	選択必修	2	2		◎	○					
EBBUS206経営史2	選択必修	2	2		◎	○					
EBBUS207経営戦略論1	選択必修	2	2		◎	○					○
EBBUS208経営戦略論2	選択必修	2	2		◎	○					○
EBBUS209情報ネットワーク論1	選択必修	2	2		◎	○					
EBBUS210情報ネットワーク論2	選択必修	2	2		◎	○					
EBBUS211環境と社会	選択必修	2	2			○			◎		
EBBUS401経営学特講	選択必修	2	2	○			○		○		◎
EBMKT205証券論1	選択必修	2	2		◎		○				
EBMKT206証券論2	選択必修	2	2		◎		○				
EBMKT207保険論1	選択必修	2	2		◎		○				
EBMKT208保険論2	選択必修	2	2		◎		○				
EBACC206経営財務	選択必修	2	2				○				◎
EBACC207企業分析1	選択必修	2	2		◎		○				○
EBACC208企業分析2	選択必修	2	2		○		○				◎
EBACC209原価計算論1	選択必修	2	2		◎	○					
EBACC210原価計算論2	選択必修	2	2		◎	○					
EBACC211ビジネスのための税法1	選択必修	2	2				○				◎
EBACC212ビジネスのための税法2	選択必修	2	2				○				◎
J-CIL201民法A	選択必修	2	2		◎		○				
J-CIL202民法B	選択必修	2	2		◎		○				
J-COL201商法A	選択必修	2	2		◎		○				
J-COL202商法B	選択必修	2	2		◎		○				
EBBUS301経営管理論1	選択必修	2	3		◎		○				○
EBBUS302経営管理論2	選択必修	2	3		◎		○				○
EBMKT303消費者行動1	選択必修	2	3		◎		○	○			
EBMKT304消費者行動2	選択必修	2	3		◎		○	○			
EBMKT305商業政策論1	選択必修	2	3		◎		○				
EBMKT306商業政策論2	選択必修	2	3		◎		○				
EBMKT307マーケティング・コミュニケーション1	選択必修	2	3		○	○	◎			○	
EBMKT308マーケティング・コミュニケーション2	選択必修	2	3		○	○	◎			○	
EBACC301税務会計1	選択必修	2	3			○	○	◎			
EBACC302税務会計2	選択必修	2	3			○	○	◎			

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				経営学科1	経営学科1	経営学科2	経営学科2	経営学科4	経営学科4	経営学科3	経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				幅広い教養	経営学分野の基礎的知識とそれらを横断的にとらえる能力	知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための情報収集力	知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための思考力・分析力	諸問題に積極的に取り組む姿勢	本学の教育理念である“Do for Others（他者への貢献）”の精神	他者と協業して課題解決にあたるためのコミュニケーション能力	現代社会に生起する諸問題に積極的に取り組む力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○							
EBACC303監査論	選択必修	2	3			○	◎				
EEMON301金融論1	選択必修	2	3		◎	○					
EEMON302金融論2	選択必修	2	3		◎	○					
EGM&S306国際経営学特講	選択必修	2	3			○	◎				
EGA&F304金融資本市場論	選択必修	2	3	◎			○				
EGA&F305国際経営学特講	選択必修	2	3			○	◎				
EGT&I309国際経営学特講	選択必修	2	3			○	◎				
隣接領域科目(他学科科目)											
(1) 国際経営学科の専門科目の全科目											
EGACA101e-learning 1	選択	2	1	◎		○					
EGACA102e-learning 2	選択	2	1	◎		○					
EGACA201外国書講読1	選択	2	1	◎		○					
EGACA202外国書講読2	選択	2	1	◎		○					
EGACA203外国書講読3	選択	2	1	◎		○					
EGACA204外国書講読4	選択	2	1	◎		○					
EGM&S203国際経営論1	選択	2	2		◎		○				
EGM&S204国際経営論2	選択	2	2		◎		○				
EGM&S205ヒューマン・リソース・マネジメント1	選択	2	2		◎		○				
EGM&S206ヒューマン・リソース・マネジメント2	選択	2	2		◎		○				
EGM&S207各国経営史論	選択	2	2		◎		○				
EGA&F201コーポレート・ファイナンス1	選択	2	2		◎		○				
EGA&F202コーポレート・ファイナンス2	選択	2	2		◎		○				
EGA&F203海外企業分析	選択	2	2		◎		○				
EGT&I201貿易論1	選択	2	2		◎		○				
EGT&I202貿易論2	選択	2	2		◎		○				
EGT&I203Business in Japan 1	選択	2	2		◎		○				
EGT&I204Business in Japan 2	選択	2	2		◎		○				
EGT&I205ビジネス・エコノミクス1	選択	2	2		◎		○				
EGT&I206ビジネス・エコノミクス2	選択	2	2		◎		○				
EGM&S303比較経営学史1	選択	2	3		◎		○				
EGM&S304比較経営学史2	選択	2	3		◎		○				
EGM&S305ビジネスエシックス	選択	2	3		◎		○				
EGA&F301国際会計論1	選択	2	3		◎		○				
EGA&F302国際会計論2	選択	2	3		◎		○				
EGA&F303国際税務	選択	2	3		◎		○				
EGT&I301グローバル・マーケティング1	選択	2	3		◎		○				
EGT&I302グローバル・マーケティング2	選択	2	3		◎		○				
EGT&I305貿易実務1	選択	2	3	◎			○				
EGT&I306貿易実務2	選択	2	3	◎			○				
EGT&I307西洋文化史1	選択	2	3	◎			○				
EGT&I308西洋文化史2	選択	2	3	◎			○				
EGBCR201海外フィールド・スタディ	選択	4	1				○	◎		○	
EGBCR202ケース・スタディ1	選択	2	2				○	◎			
EGBCR203ケース・スタディ2	選択	2	2				○	◎			
EGBCR204ケース・スタディ3	選択	2	2				○	◎			
EGBCR205ケース・スタディ4	選択	2	2				○	◎			
EGBCR206グローバル・ビジネス環境	選択	2	2					◎	○		

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				経営学科1	経営学科1	経営学科2	経営学科2	経営学科4	経営学科4	経営学科3	経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				幅広い教養	経営学分野の基礎的知識とそれらを横断的にとらえる能力	知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための情報収集力	知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための思考力・分析力	諸問題に積極的に取り組む姿勢	本学の教育理念である“Do for Others（他者への貢献）”の精神	他者と協業して課題解決にあたるためのコミュニケーション能力	現代社会に生起する諸問題に積極的に取り組む力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○							
EGBCR207海外インターンシップ1	選択	1	2					◎		○	
EGBCR208海外インターンシップ2	選択	1	2					◎		○	
EGBCR209海外インターンシップ3	選択	1	2					◎		○	
(2) 経済学科の専門科目の全科目											
EEELM121入門経済史1	選択	2	1		◎		○				
EEELM122入門経済史2	選択	2	1		◎		○				
EETHQ231経済学史1	選択	2	2		◎		○				
EETHQ232経済学史2	選択	2	2		◎		○				
EETHQ301中級マクロ経済学1	選択	2	3	◎			○				
EETHQ302中級マクロ経済学2	選択	2	3	◎			○				
EETHQ311中級マクロ経済学1	選択	2	3	◎			○				
EETHQ312中級マクロ経済学2	選択	2	3	◎			○				
EETHQ411経済成長と景気変動1	選択	2	3	◎			○				
EETHQ412経済成長と景気変動2	選択	2	3	◎			○				
EETHQ331計量経済学1	選択	2	3	◎			○				
EETHQ332計量経済学2	選択	2	3	◎			○				
EETHQ381経済理論特講1	選択	2	3	◎			○				
EETHQ382経済理論特講2	選択	2	3	◎			○				
EETHQ391情報数理特講1	選択	2	3	◎			○				
EETHQ392情報数理特講2	選択	2	3	◎			○				
EEPOL201ミクロ経済政策	選択	2	2	◎			○				
EEPOL202マクロ経済政策	選択	2	2	◎			○				
EEPOL301財政学1	選択	2	3	◎			○				
EEPOL302財政学2	選択	2	3	◎			○				
EEPOL311地方財政論1	選択	2	3	◎			○				
EEPOL312地方財政論2	選択	2	3	◎			○				
EEPOL321公共経済学1	選択	2	3	◎			○				
EEPOL322公共経済学2	選択	2	3	◎			○				
EEPOL331農業政策論1	選択	2	3	◎			○				
EEPOL332農業政策論2	選択	2	3	◎			○				
EEPOL341公共政策論1	選択	2	3	◎			○				
EEPOL342公共政策論2	選択	2	3	◎			○				
EEPOL351経済発展論1	選択	2	3	◎			○				
EEPOL352経済発展論2	選択	2	3	◎			○				
EEPOL381都市政策論1	選択	2	3	◎			○				
EEPOL382都市政策論2	選択	2	3	◎			○				
EEPOL391公共政策特講1	選択	2	3	◎			○				
EEPOL392公共政策特講2	選択	2	3	◎			○				
EEMON311国際金融論1	選択	2	3		◎		○				
EEMON312国際金融論2	選択	2	3		◎		○				
EEMON321ファイナンス1	選択	2	3		◎		○				
EEMON322ファイナンス2	選択	2	3		◎		○				
EEMON331金融システム論1	選択	2	3		◎		○				
EEMON332金融システム論2	選択	2	3		◎		○				
EEMON391金融経済特講1	選択	2	3	◎			○				
EEMON392金融経済特講2	選択	2	3	◎			○				

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				経営学科1	経営学科1	経営学科2	経営学科2	経営学科4	経営学科4	経営学科3	経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				幅広い教養	経営学分野の基礎的知識とそれらを横断的にとらえる能力	知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための情報収集力	知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための思考力・分析力	諸問題に積極的に取り組む姿勢	本学の教育理念である“Do for Others（他者への貢献）”の精神	他者と協業して課題解決にあたるためのコミュニケーション能力	現代社会に生起する諸問題に積極的に取り組む力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○							
EEORG201ゲーム理論1	選択	2	2	◎			○				
EEORG202ゲーム理論2	選択	2	2	◎			○				
EEORG211産業組織論1	選択	2	2	◎			○				
EEORG212産業組織論2	選択	2	2	◎			○				
EEORG301情報の経済学1	選択	2	3	◎			○				
EEORG302情報の経済学2	選択	2	3	◎			○				
EEORG311企業と組織の経済学1	選択	2	3	◎			○				
EEORG312企業と組織の経済学2	選択	2	3	◎			○				
EEORG321法と経済学1	選択	2	3	◎			○				
EEORG322法と経済学2	選択	2	3	◎			○				
EEORG331社会的公正の経済学1	選択	2	3	◎			○				
EEORG332社会的公正の経済学2	選択	2	3	◎			○				
EEORG341比較経済制度論1	選択	2	3	◎			○				
EEORG342比較経済制度論2	選択	2	3	◎			○				
EEORG351行動経済学1	選択	2	3	◎			○				
EEORG352行動経済学2	選択	2	3	◎			○				
EEORG361イノベーションの経済学1	選択	2	3	◎			○				
EEORG362イノベーションの経済学2	選択	2	3	◎			○				
EEORG371マーケットデザイン1	選択	2	3	◎			○				
EEORG372マーケットデザイン2	選択	2	3	◎			○				
EEORG391組織と制度の経済学特講1	選択	2	3	◎			○				
EEORG392組織と制度の経済学特講2	選択	2	3	◎			○				
EEISS201経済の先端的問題1	選択	2	2	◎			○				
EEISS202経済の先端的問題2	選択	2	2	◎			○				
EEISS301労働経済学1	選択	2	3	◎			○				
EEISS302労働経済学2	選択	2	3	◎			○				
EEISS311企業と経済1	選択	2	3	◎			○				
EEISS312企業と経済2	選択	2	3	◎			○				
EEISS321環境の経済学1	選択	2	3	◎				○			
EEISS322環境の経済学2	選択	2	3	◎				○			
EEISS331開発経済学1	選択	2	3	◎				○			
EEISS332開発経済学2	選択	2	3	◎				○			
EEISS341人口論1	選択	2	3	◎					○		
EEISS342人口論2	選択	2	3	◎					○		
EEISS351人事の経済学1	選択	2	3	◎			○				
EEISS352人事の経済学2	選択	2	3	◎			○				
EEISS361政策評価の経済学1	選択	2	3	◎			○				
EEISS362政策評価の経済学2	選択	2	3	◎			○				
EEISS381都市の経済学1	選択	2	3	◎					○		
EEISS382都市の経済学2	選択	2	3	◎					○		
EEISS391現代経済特講1	選択	2	3	◎			○				
EEISS392現代経済特講2	選択	2	3	◎			○				
EEGLO301世界経済論1	選択	2	2	◎			○				
EEGLO302世界経済論2	選択	2	2	◎			○				
EEGLO321日本経済論1	選択	2	3	◎			○				
EEGLO322日本経済論2	選択	2	3	◎			○				

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				経営学科1	経営学科1	経営学科2	経営学科2	経営学科4	経営学科4	経営学科3	経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				幅広い教養	経営学分野の基礎的知識とそれらを横断的にとらえる能力	知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための情報収集力	知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための思考力・分析力	諸問題に積極的に取り組む姿勢	本学の教育理念である“Do for Others（他者への貢献）”の精神	他者と協業して課題解決にあたるためのコミュニケーション能力	現代社会に生起する諸問題に積極的に取り組む力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○							
EEGLO331アメリカ経済論1	選択	2	3	◎			○				
EEGLO332アメリカ経済論2	選択	2	3	◎			○				
EEGLO341中国経済論	選択	2	3	◎			○				
EEGLO342アジア経済論	選択	2	3	◎			○				
EEGLO351ヨーロッパ経済論1	選択	2	3	◎			○				
EEGLO352ヨーロッパ経済論2	選択	2	3	◎			○				
EEGLO391国際経済特講1	選択	2	3	◎			○				
EEGLO392国際経済特講2	選択	2	3	◎			○				
EEHIS201キリスト教と経済	選択	2	2	◎					○		
EEHIS301日本経済史1	選択	2	3	◎			○				
EEHIS302日本経済史2	選択	2	3	◎			○				
EEHIS311西洋経済史1	選択	2	3	◎			○				
EEHIS312西洋経済史2	選択	2	3	◎			○				
EEHIS321アジア経済史1	選択	2	3	◎			○				
EEHIS322アジア経済史2	選択	2	3	◎			○				
EEHIS331現代西洋経済史1	選択	2	3	◎			○				
EEHIS332現代西洋経済史2	選択	2	3	◎			○				
EEHIS341現代日本経済史1	選択	2	3	◎			○				
EEHIS342現代日本経済史2	選択	2	3	◎			○				
EEHIS351比較経済思想史1	選択	2	3	◎			○				
EEHIS352比較経済思想史2	選択	2	3	◎			○				
EEHIS401古典・資料研究1	選択	2	3	◎			○				
EEHIS402古典・資料研究2	選択	2	3	◎			○				
EEHIS391経済史特講1	選択	2	3	◎			○				
EEHIS392経済史特講2	選択	2	3	◎			○				
EECAS201事例研究A	選択	2	2				○	◎			
EECAS211事例研究B	選択	2	2				○	◎			
EECAS221事例研究C	選択	2	2				○	◎			
EECAS231事例研究D	選択	2	2				○	◎			
EECAS202フィールド・スタディA	選択	2	2					○		○	
EECAS212フィールド・スタディB	選択	2	2					○		○	
EECAS222フィールド・スタディC	選択	2	2					○		○	
EECAS232フィールド・スタディD	選択	2	2					○		○	
EECAS241実験経済学1	選択	2	2	○				○			○
EECAS242実験経済学2	選択	2	2	○				○			○
EEMST101基礎数学1	選択	2	1	◎			○				
EEMST102基礎数学2	選択	2	1	◎			○				
EEMST111経済情報処理1	選択	2	1	◎			○				
EEMST112経済情報処理2	選択	2	1	◎			○				
EEMST121経済統計学1	選択	2	1	◎			○				
EEMST122経済統計学2	選択	2	1	◎			○				
EEMST201入門経済数学1	選択	2	2	◎			○				
EEMST202入門経済数学2	選択	2	2	◎			○				
EEMST211確率・統計1	選択	2	2	◎			○				
EEMST212確率・統計2	選択	2	2	◎			○				

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				経営学科1	経営学科1	経営学科2	経営学科2	経営学科4	経営学科4	経営学科3	経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				幅広い教養	経営学分野の基礎的知識とそれらを横断的にとらえる能力	知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための情報収集力	知識や体験に基づいて的確に課題を解決するための思考力・分析力	諸問題に積極的に取り組む姿勢	本学の教育理念である“Do for Others (他者への貢献)”の精神	他者と協業して課題解決にあたるためのコミュニケーション能力	現代社会に生起する諸問題に積極的に取り組む力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○							
EEMST301経済数学1	選択	2	3	◎			○				
EEMST302経済数学2	選択	2	3	◎			○				
EELNG201経済事情(英語)1	選択	2	2	◎			○				
EELNG202経済事情(英語)2	選択	2	2	◎			○				
EELNG211経済事情(中国語)1	選択	2	2	◎			○				
EELNG212経済事情(中国語)2	選択	2	2	◎			○				
EELNG221経済英語1	選択	2	2				○			◎	
EELNG222経済英語2	選択	2	2				○			◎	
EEPRA201社会参加実習1	選択	2	2					◎		○	
EEPRA202社会参加実習2	選択	2	2					◎		○	
(3) その他の他学科科目											
J-PUL111憲法A	選択	2	2	◎			○				
J-PUL112憲法B	選択	2	2	◎			○				
J-COL231会社法1	選択	2	2	◎			○				
J-COL320商取引法	選択	2	2		◎		○				
J-POL201現代政治理論1A	選択	2	2	◎			○				
J-POL202現代政治理論1B	選択	2	2	◎			○				
J-INR103国際政治学A	選択	2	2	◎			○				
J-INR104国際政治学B	選択	2	2	◎			○				
SWSPA201社会保障論A	選択	2	2	◎			○				
SWSPA202社会保障論B	選択	2	2	◎			○				
J-PUL221行政法A	選択	2	3	◎			○				
J-PUL222行政法B	選択	2	3	◎			○				
J-PUL331租税法1	選択	2	3		◎		○				
J-PUL332租税法2	選択	2	3		◎		○				
J-PUL350EU法	選択	2	3	◎			○				
J-SOL321労働法1	選択	2	3		◎		○				
J-SOL322労働法2	選択	2	3		◎		○				
J-COL321海商法	選択	2	3		◎		○				
J-COL332会社法2	選択	2	3		◎		○				
J-COL341手形法・小切手法	選択	2	3		◎		○				
J-COL342保険法	選択	2	3		◎		○				
J-NFL331競争法	選択	2	3	◎			○				
J-NFL350信託法	選択	2	3	◎			○				
J-INL357アメリカ契約・不法行為法1	選択	2	3	◎			○				
J-INL358アメリカ契約・不法行為法2	選択	2	3	◎			○				
KCGEN102Current Affairs A	選択	2	1					◎		○	
KCGEN103Current Affairs B	選択	2	1					◎		○	

※卒業要件外科目は、学科のディプロマ・ポリシーに基づく「身につく能力」との関連がないため記載していません。

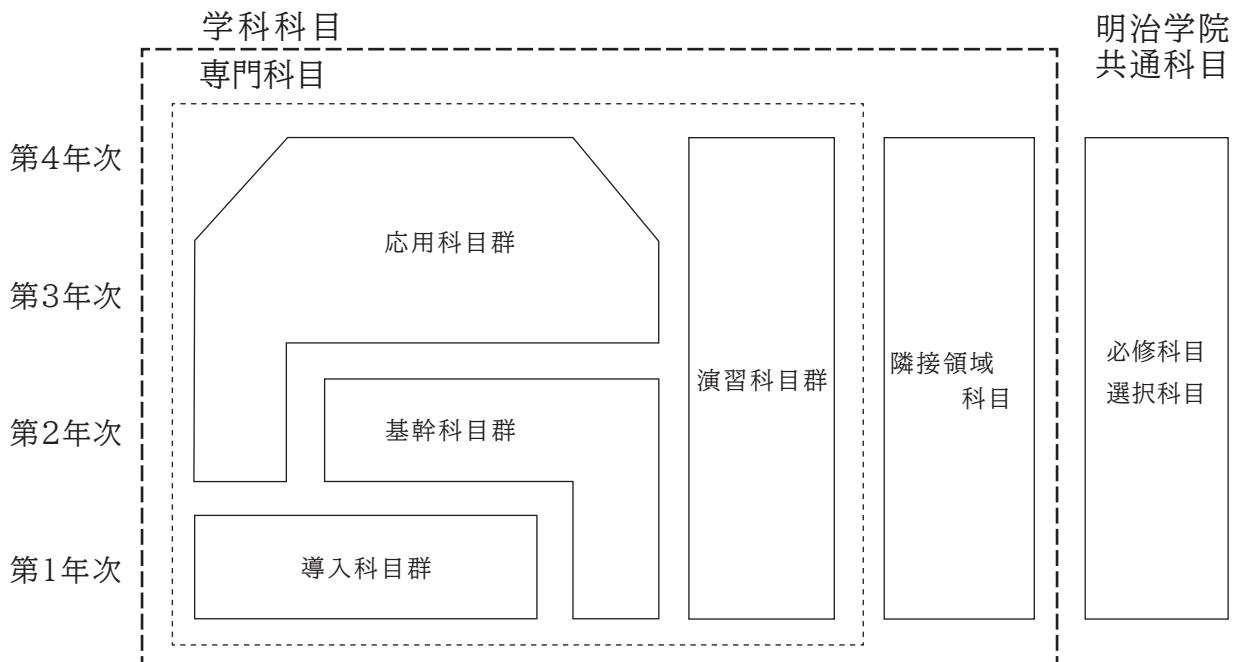
1. 経営学科の教育目標

経営学科の教育目標は、『明治学院大学学則』の第5条に明記されているように、経営学、商学、会計学の各分野に対して深い理解力と思考力を持ち、同時に各分野を横断的にとらえる能力を備えた人材の育成にある。この目標を達成するため、経営学科では、各分野をバランス良く体系的に学べる科目が用意されている。たとえば、経営学分野では、経営理論に重点をおく科目、情報分析能力を養う科目、さらに事例分析も含めて、企業活動の分析・理解に必要不可欠な知識を獲得できる体系的科目である。商学分野では、理論的かつ体系的な講義科目、および実証的かつ実践的な演習科目を通して、企業が産み出す商品やサービスに関わるマーケティング活動に必要な知識が得られる科目である。会計学分野では、企業活動を貨幣の動きで記録、計算、報告する情報システムを、理論的および技術的側面から体系的に学ぶことのできる科目が配置されている。

2. 経営学科カリキュラムの概要 ～全体像をつかむ～

授業科目の全体をカリキュラムと呼ぶが、経営学科のカリキュラムの体系およびその全体像を配当年次からイメージすると、図-1のようになる。すなわち、授業科目全体は、明治学院共通科目と学科科目に大別できる。さらに、学科科目は、導入科目群、基幹科目群、演習科目群、応用科目群および隣接領域科目（他学科科目）から成り立つ。大まかに言えば、専門科目（経営学科の学科科目）は導入科目群→基幹科目群→応用科目群の積み上げ式の理論系の科目群があると同時に、第1年次から実習・トレーニング型の演習科目群がある。

図-1 カリキュラム体系のイメージ



図の見方

1. 導入科目群はすべて第1年次の配当科目であり、原則として横浜校舎のみで開講される。
2. 導入科目群の科目は、他の経営学科科目を学ぶための基礎的な入門の科目であるので、経営学科の学生全員が履修しなければならない。
3. 基幹科目群は経営学科の基本的な理論科目であり、第1年次あるいは第2年次に配当されている。
4. 演習科目群はクラスの人数を一定数に制限した実習・演習の科目であり、第1年次から第4年次までに配当されている。

5. 応用科目群は、おもに基幹科目群の応用・発展的な科目であり、第2年次あるいは第3年次に配当されている。
6. 隣接領域科目（他学科科目）は、国際経営学科・経済学科など他学科の関連科目である。
7. 明治学院共通科目は、主に第1年次に配当されており、自らの教養を高めるための授業科目が中心であるが、第2年次以降でも履修可能である。

3. 科目の履修

1. 履修の順序

学科科目には、「1」・「2」という番号が付されている科目がある。この番号は履修の順序を指示している。したがって、たとえば、秋学期に開講される「経営組織論2」を履修するためには、原則として、春学期に開講される「経営組織論1」の履修を終えていることが望ましい。

2. 配当年次と単位数

科目には必ず配当年次と単位数が指示されている。

科目の配当年次は、指示された年次の年次生と、それより上級の年次生だけが当該科目を履修できることを示している。指示された配当年次に満たない年次生は当該科目を履修できない。なお、隣接領域科目（他学科科目）の経済学科および国際経営学科の専門科目に関しては、該当学科の年次配当の指定に従うものとする。

科目の単位数は、履修した科目の試験に合格すると、当該科目に指示された単位数が与えられることを示している。

3. 履修校舎について

- 1) 1年次生は、横浜校舎のみの履修とする。ただし、休暇期間中に行われる集中講義のうち、1年次配当となっている学科科目については白金校舎で履修することができる。
- 2) 2年次生は、2年次配当となっている学科科目（国際経営学科提供以外の隣接領域科目（他学科科目）を除く）のみ白金、横浜両校舎で履修することができる。なお、明治学院共通科目については、横浜校舎のみの履修とする。
- 3) 3年次生以上は、履修制限のある科目を除き白金、横浜両校舎で履修することができる。

4. 年間履修上限単位数

- 1) 1年間に履修できる単位数の上限は、1年次、2年次、3年次、4年次ともにそれぞれ48単位とする。ただし、「インターンシップ（講義）」、「インターンシップ（実習）」、「フィールド・スタディA～D」、「社会参加実習1・2」、「応用簿記」、「e-learning1・2」、「海外フィールドスタディ」、「海外インターンシップ1・2・3」および、夏季第1期、夏季第2期、春季講座で開講される授業の単位は、この中に含めない。
ただし、これらの科目は、学生個々の事情により履修の遂行が困難とされる場合は授業開始後に履修削除とする場合がある。
- 2) 教職課程科目について、「教職に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」および「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち、卒業に必要な単位として認められない科目を履修する場合は、年間履修上限単位数を超えて16単位まで追加履修できる。詳細は別冊の『教職課程履修要項（諸資格）』を参照のこと。

5. 履修中止除外科目について

学修の手引き「履修」の「7. 履修中止制度」において、履修中止ができない科目のうち、各学科において定めている履修中止の申請ができない科目は以下のとおりである。

演習A1～A4、演習B1～B2、卒業論文

6. 条件つき科目の履修

科目を履修するにあたり、特定科目の「単位修得」が条件として記載されている場合は、特定科目の単位修得済が条件となるが、特定科目を「履修済」または「同一年度に履修」が条件の場合は「履修」のみが条件であり、単位の修得済・未修得を問わない。

7. 同一科目の重複履修禁止

同一学期に、同一の科目を複数履修することはできない。ただし、単位未修得の場合は学期をかえて履修することは可能である。

なお、本要項中で特に指示が付されている科目については、その指示による。

8. 大学独自の認証資格（内なる国際化プロジェクト）について

内なる国際化プロジェクト

文化、宗教、民族性など、多様な価値観を理解する学生をはぐくむこと、そして外国につながる人たちを包摂した共生社会の担い手として、人権問題などに対して鋭い洞察力をもった学生の育成を目的としています。

このプロジェクトを通じ、所定の教室での学びを修めた学生は「多文化共生サポーター」として認証されます。その上でさらに、支援実践参加の学びを修めた学生は「多文化共生ファシリテーター」として認証されます。

【教室での学び】

明治学院共通科目と経済学部経営学科が開講する科目のうち、指定された科目を12単位以上修得した者が申請を行った場合に「多文化共生サポーター」として認証されます。開講科目はプロジェクト公式WEBサイト（<https://internal-i18n-meijigakuin.org/>）で確認してください。

【支援実践参加の学び】

「多文化共生ファシリテーター」の認証に必要な支援実践の場への参加を希望する者は、「多文化共生各論1・2」「ボランティア実践指導」等、★印の科目（合計4単位）を履修してください。

9. 教職課程科目の履修

教育職員免許状を取得するための科目で、「教職に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」と「教科及び教科の指導法に関する科目」から成る。

「教職に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」と「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち各教科の指導法科目は教育職員免許状を取得するためだけに必要な科目であり、修得単位は卒業に必要な単位として認められない。これらの科目は「教職課程履修要項（諸資格）」に掲載されており、この履修要項には掲載されていない。

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する科目」は形式的には専門科目という形をとっている。「教科に関する科目」の多くは卒業に必要な単位として認められる。しかし、卒業に必要な単位として認められない科目もある。卒業に必要な単位として認められない「教科に関する科目」（専門科目）は各学科の専門科目の項に掲載してある。

10. 「飛び入学」制度

明治学院大学経済学部・同大学院法と経営学研究科 法と経営学専攻では、以下の1)から3)の条件をすべて満たす経済学部経営学科の学生に対して、大学を3年で卒業して大学院に進学（いわゆる「飛び入学」）するための大学院入学試験（口述試験のみ）の出願資格を与える制度がある。

- 1) 3年次修了時に卒業に必要な単位数をすべて修得見込みの者。
- 2) 3年次修了までの成績が科目総合でGPA2.9以上である見込みが立つ者。
- 3) 3年次修了までの成績が学科科目でGPA2.9以上である見込みが立つ者。

なお、大学院入学試験後に確定する3年次修了までの成績の結果、入学要件を満たしていない場合は入学試験の結果に

かかわらず、入学資格を失う。

(GPAの算定については、P27を参照。上記の出願資格は変更されることがあるので、実際に受験する際には、必ず大学院入学試験要項を確認するか、大学院事務室に問い合わせること。)

11. 大学院科目の履修について

本学大学院「法と経営学研究科」に進学を希望する4年次生は、以下の条件を満たした場合、法と経営学研究科 法と経営学専攻の科目を履修できる。

- 1) 3年次秋学期修了時の成績が、総合GPA2.7以上であること。
- 2) 卒業要件単位の90%以上を修得済であること。
- 3) 法と経営学専攻主任の承認を得ていること。

大学院科目は年間履修上限単位数を超えて年間10単位まで履修できる（ただし、ビジネス総論1・2、1年次演習、研究指導、特定課題研究、合同演習、エクステーンシップ、ビジネス英語を除く）。大学院科目の単位を修得した場合、学部の卒業要件としては認められず、大学院入学後に修了要件単位として認定される。

なお、上記の履修除外科目だけでなく、休講科目や、同専攻学生の履修希望がなく不開講になる科目など、年度によって履修できない科目が隨時でてくるので、履修を希望する場合は大学院事務室からの案内や情報提供に十分留意するとともに、必要な場合は大学院事務室に問い合わせること。

4. 卒業に必要な単位数と科目の内訳

～卒業するためには、どの科目を何単位とすればよいのか～

卒業するためには以下の科目について、所定の単位を修得しなければならない。その内訳は表-1のとおりである。

表-1 卒業に必要な単位数と科目の内訳

内訳	科目・必要単位数		合計
明治学院共通科目	必修コア科目	キリスト教の基礎A キリスト教の基礎B	2単位 2単位
	必修言語系科目	英語コミュニケーション 1A・1B、2A・2B 初習語1A・1B、2A・2B※	4単位 4単位
	選択科目	選択科目より選択 12単位	
学科科目 (専門科目)	導入科目群	4単位	24単位
	基幹科目群	24単位	
	演習科目群	8単位	
	応用科目群	26単位	62単位
自由選択科目	明治学院共通科目および学科科目の中から選択可能		38単位
合計			124単位

表の解説

1. 明治学院共通科目（コア科目・キリスト教の基礎A・B・各2単位合計4単位）は必修である。
2. 明治学院共通科目（言語系科目・2言語で8単位）は必修である。
「英語コミュニケーション」1A・1B、2A・2Bそれぞれ各1単位、計4単位を修得しなければならない。さらに初習語の中から1言語を選択し、その言語について1A・1B、2A・2Bの各1単位、計4単位を修得しなければならない。（※相談の結果、許可された者は1A・1B、2A・2Bではなく、3A・3B・4A・4Bを選択必修科目として履修することになる。）なお、8単位を超過して修得した場合、9単位目からの単位は自由選択科目の単位数に算入される。その場合、9単位目から外国語は〔2言語で8単位を修得した時の言語〕でなくともよい。
3. 明治学院共通科目（明治学院共通科目の選択科目）の中から、12単位以上を修得しなければならない。12単位を超過して修得した場合、13単位目からの単位は自由選択科目の単位数に算入される。ただし、「健康・スポーツ科学系科目群」は合わせて8単位までしか卒業に必要な単位にはならない。
4. 学科科目（導入科目群）の3科目6単位を履修しなければならない。また、その中から2科目（4単位）は単位を修得しなければならない。4単位を超過して修得した場合、5単位目からの単位は応用科目群の単位数に算入される。
5. 学科科目（基幹科目群）の中から、24単位を修得しなければならない。24単位を超過して修得した場合、25単位目からの単位は応用科目群の単位数に算入される。
6. 学科科目（演習科目群）の中から、8単位を修得しなければならない。8単位を超過して修得した場合、9単位目からの単位は応用科目群の単位数に算入される。
演習と卒業論文の単位の認定方法については、「演習と卒業論文」の項を参照すること。
7. 学科科目（応用科目群）の中から、26単位を修得しなければならない。上記4、5および6の超過単位数を含めて26単位を超過した場合、27単位目からの単位は自由選択科目の単位数に算入される。
8. 明治学院共通科目24単位、学科科目62単位を超過して修得した単位、および隣接領域科目（他学科科目）は、合計38単位まで自由選択科目として、卒業に必要な単位数に算入される。
9. 卒業には少なくとも合計して124単位を修得しなければならない。
⇒【明治学院共通科目】の科目に関する履修の方法は、P35～59を参照。
⇒【学科科目】に関する履修の方法は、5. 学科科目を参照。

5. 学科科目～学べる科目は何か～

経営学科の学科科目を一覧で示すと、表-2のとおりである。

表-2 学科科目（専門科目）

導入科目群（第1年次で下記3科目6単位をすべて履修し、かつ、卒業までには、少なくともそのうちから4単位を修得しなければならない）				
1年次	EBBUS	101	経営学入門	2単位
	EBMKT	101	マーケティング入門	2単位
	EBACC	101	会計学入門	2単位
基幹科目群（下記の科目から合計24単位を修得しなければならない）				
1年次	EBBUS	102	経済学概論1	2単位
		103	経済学概論2	2単位
		104	ビジネスのための法律1	2単位
		105	ビジネスのための法律2	2単位
2年次	EBBUS	201	経営学原理1	2単位
		202	経営学原理2	2単位
		203	経営組織論1	2単位
		204	経営組織論2	2単位
	EBMKT	201	マーケティング1	2単位
		202	マーケティング2	2単位
		203	市場システム1	2単位
		204	市場システム2	2単位
	EBACC	201	財務会計論1	2単位
		202	財務会計論2	2単位
		203	管理会計論1	2単位
		204	管理会計論2	2単位
演習科目群（下記の科目から合計8単位を修得しなければならない）				
1年次	EBSEM	101	データ処理論	2単位
		102	ビジネス英語1	2単位
		103	ビジネス英語2	2単位
		104	ワークショップ1	2単位
	EBACC	102	簿記1	2単位
		103	簿記2	2単位
		104	応用簿記	2単位
2年次	EBSEM	201	ビジネス英語3	2単位
		202	ビジネス英語4	2単位
		203	ワークショップ2	2単位
		303	インターンシップ（講義）	2単位
	EBACC	205	工業簿記	2単位
3年次	EBSEM	304	インターンシップ（実習）	1単位
		301	演習A1	2単位
		302	演習A2	2単位
		311	演習B1	2単位
		312	演習B2	2単位

3年次	EESEM	301	演習A1	2単位
		302	演習A2	2単位
		311	演習B1	2単位
		312	演習B2	2単位
	EGSEM	301	演習A1	2単位
		302	演習A2	2単位
		311	演習B1	2単位
		312	演習B2	2単位
	EBMKT	301	マーケティング・リサーチ1	2単位
		302	マーケティング・リサーチ2	2単位
4年次	EBSEM	401	演習A3	2単位
		402	演習A4	2単位
		403	卒業論文	4単位
	EESEM	401	演習A3	2単位
		402	演習A4	2単位
		403	卒業論文	4単位
	EGSEM	401	演習A3	2単位
		402	演習A4	2単位
		403	卒業論文	4単位
応用科目群（下記の科目から合計26単位を修得しなければならない）				
2年次	EBBUS	205	経営史1	2単位
		206	経営史2	2単位
		207	経営戦略論1	2単位
		208	経営戦略論2	2単位
		209	情報ネットワーク論1	2単位
		210	情報ネットワーク論2	2単位
		211	環境と社会	2単位
		401	経営学特講（※注1）	2単位
	EBMKT	205	証券論1	2単位
		206	証券論2	2単位
		207	保険論1	2単位
		208	保険論2	2単位
	EBACC	206	経営財務	2単位
		207	企業分析1	2単位
		208	企業分析2	2単位
		209	原価計算論1	2単位
		210	原価計算論2	2単位
		211	ビジネスのための税法1	2単位
	J-CIL	212	ビジネスのための税法2	2単位
		201	民法A	2単位
	J-COL	202	民法B	2単位
		201	商法A	2単位
		202	商法B	2単位

3年次	EBBUS	301	経営管理論1	2単位
		302	経営管理論2	2単位
	EBMKT	303	消費者行動1	2単位
		304	消費者行動2	2単位
		305	商業政策論1	2単位
		306	商業政策論2	2単位
		307	マーケティング・コミュニケーション1	2単位
		308	マーケティング・コミュニケーション2	2単位
	EBACC	301	税務会計1	2単位
		302	税務会計2	2単位
		303	監査論	2単位
	EEMON	301	金融論1	2単位
		302	金融論2	2単位
	EGM&S	306	国際経営学特講（※注1）	2単位
	EGA&F	304	金融資本市場論	2単位
		305	国際経営学特講（※注1）	2単位
	EGT&I	309	国際経営学特講（※注1）	2単位

（※注1）経営学特講および国際経営学特講は、（ ）内の名称が異なれば別の科目とみなされるので、卒業に必要な単位として認められる。

表-3 他学科科目

隣接領域科目（他学科科目）				
(1) 国際経営学科の専門科目の全科目				
基礎科目、専門外国语 I、Study Abroad Program、ビジネス・オーガニゼーション1・2、コーポレート・ストラテジー1・2、産業組織論1・2を除く（P136～138）				
(2) 経済学科の専門科目の全科目				
ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、初級ミクロ経済学1・2、初級マクロ経済学1・2、入門計量経済学1・2、国際経済学1・2、海外語学研修、基礎演習A・B・C・D、経済学演習A・B・C・D、現代社会と経済A・Bを除く（P85～89）				
(3) その他の他学科科目				
1年次	KCGEN	102	Current Affairs A	2単位
		103	Current Affairs B	2単位
2年次	J-PUL	111	憲法A	2単位
		112	憲法B	2単位
	J-COL	231	会社法1	2単位
		320	商取引法	2単位
	J-POL	201	現代政治理論1A	2単位
		202	現代政治理論1B	2単位
	J-INR	103	国際政治学A	2単位
		104	国際政治学B	2単位
	SWSPA	201	社会保障論A	2単位
		202	社会保障論B	2単位
3年次	J-PUL	221	行政法A	2単位
		222	行政法B	2単位
		331	租税法1	2単位
		332	租税法2	2単位
		350	EU法	2単位
	J-SOL	321	労働法1	2単位
		322	労働法2	2単位
	J-COL	321	海商法	2単位
		332	会社法2	2単位
		341	手形法・小切手法	2単位
		342	保険法	2単位
	J-NFL	331	競争法	2単位
		350	信託法	2単位
	JCINL	357	アメリカ契約・不法行為法1	2単位
		358	アメリカ契約・不法行為法2	2単位
教職関連科目（これらの科目は卒業に必要な単位としては認められない）				
2年次	TCKNO	901	日本史A	2単位
		902	日本史B	2単位
		911	世界史A	2単位
		912	世界史B	2単位
		921	地理学概論1	2単位
		922	地理学概論2	2単位
		931	自然地理学1	2単位
		932	自然地理学2	2単位
		941	地誌概説1	2単位
		942	地誌概説2	2単位

3年次	TCKNO	951	宗教学概論1	2単位
		952	宗教学概論2	2単位
		961	職業指導	2単位
	LXCRS	301	哲学（専）1（※注2）	2単位
		302	哲学（専）2（※注2）	2単位

（※注1）他学科科目の一部で専門科目に含まれている科目がある。それらの科目は表-2に記載されている科目群に属する。

（※注2）3年次以上で「哲学（専）1・2」を履修するためには、「MGPHI」（哲学）、「MGETH」（倫理学）、「MGLOG」（論理学）の科目から、同一名称の2科目（計4単位）を修得済みでなければならない。

6. 履修の方法～配当年次、開講校舎に注意～

〔1〕学科科目履修についての一般的注意

1. 学科科目の多くは、1、2あるいはA、Bと番号あるいはアルファベット表記され、各2単位科目であるが通年履修を原則とする。すなわち、同一名称科目1、2あるいはA、Bの科目は、1、2あるいはA、Bの両方を修得することが望ましい（ワークショップ1、2を除く）。修得した科目は、原則として、卒業に必要な単位に算入される。
2. 配当年次に従って履修すること。
3. 導入科目群の科目は原則として横浜校舎でのみ開講される。
4. 導入科目群以外の学科科目の再履修は、授業科目が開講されていれば、白金校舎・横浜校舎のいずれでもできる。
5. 同一科目の単位を2度以上修得した場合、2度目以降に修得した単位は、卒業に必要な単位として認められない。
6. 演習科目（演習A1・A2・A3・A4・卒業論文、演習B1・B2）の履修方法および単位修得の方法については、「演習と卒業論文」の項を参照すること。

〔2〕学科科目 履修上の注意

1年次配当となっている学科科目は原則として横浜校舎で履修する。なお、集中講義開講科目のうち、1年次配当となっている学科科目については白金校舎で履修することができる。2年次配当となっている学科科目（国際経営学科提供以外の隣接領域科目（他学科科目）を除く）は、授業科目が開講されていれば、白金校舎・横浜校舎のいずれでも履修できる。3年次および4年次配当となっている学科科目は原則として白金校舎で履修する。履修については、以下の点に注意すること。

1. 導入科目群

- (1) 1年次に経営学入門、マーケティング入門、会計学入門すべてを履修しなければならない。
- (2) 卒業のためには4単位を修得しなければならない（選択必修科目）。
- (3) 春学期または秋学期のみの学期科目である。

2. 基幹科目群

- (1) 経営学科の基本的科目であるから、すべての科目（16科目32単位）を履修することが望ましい。
- (2) 卒業のためには24単位を修得しなければならない（選択必修科目）。
- (3) 経済学概論1・2とビジネスのための法律1・2は1年次配当であり、2年次以降に履修することも可能であるが、1年次に履修することが望ましい。
- (4) 経営学原理1・2、経営組織論1・2、マーケティング1・2、市場システム1・2、財務会計論1・2および管理会計論1・2は2年次配当であり、3年次以降でも履修することは可能であるが、2年次に履修することが望ましい。

3. 演習科目群

- (1) 卒業のためには8単位を修得しなければならない（選択必修科目）。
- (2) データ処理論は経営学科1年次生のみ履修可能で、春学期または秋学期のみの科目であり、クラスが指定される。
- (3) ワークショップ1は経営学科1年次生のみに開講される少人数クラスであり、履修しなければならない。
- (4) 応用簿記の成績評価は、通常の評価（S・A・B・C・DあるいはN）ではなく、P（合格）あるいはF（不合格）とする。Pの場合、修得した単位が卒業のための単位として認められる。
- (5) マーケティング・リサーチ1・2は3年次配当の科目であり、基幹科目群のマーケティング1・2および市場システム1・2を履修済みであることが望ましい。
- (6) インターンシップ（実習）は3年次生以上の履修可とする。ただし、単位を修得するには、インターンシップ（講義）を履修している必要がある。また、インターンシップ（講義）、インターンシップ（実習）の成績評価は、通常の評価（S、A、B、C、DあるいはN）ではなく、P（合格）あるいはF（不合格）とする。Pの場合、修得した単位が卒業のた

めの単位として認められる。

- (7) 演習科目群の授業科目の多くは定員制をとっている。そのため、希望しても必ずしも履修できるわけではない（1年次のデータ処理論はクラスが指定されるので、全員が履修可能である）。

4. 応用科目群

- (1) 民法B、商法Bの履修にあたっては、民法A、商法Aが履修済みであることが望ましい。Bの講義はAの知識を前提として行われる。
- (2) 経営管理論1・2は3年次配当の科目であり、基幹科目群の経営学原理1・2もしくは経営組織論1・2を履修済みであることが望ましい。
- (3) 消費者行動1・2、商業政策論1・2、マーケティング・コミュニケーション1・2は3年次配当の科目であり、基幹科目群のマーケティング1・2および市場システム1・2を履修済みであることが望ましい。
- (4) 金融論1・2は3年次配当の科目であり、基幹科目群の経済学概論1・2を履修済みであることが望ましい。
- (5) 税務会計1・2および監査論は3年次配当の科目であり、基幹科目群の財務会計論1・2もしくは管理会計論1・2を履修済みであることが望ましい。

5. 隣接領域科目（他学科科目）(1) 国際経営学科科目

- (1) 国際経営学科の学科科目のうち、基礎科目、専門外国語Ⅰ、Study Abroad Programを除くすべてが対象である。なお、ビジネス・オーガニゼーション1・2とコーポレート・ストラテジー1・2は経営組織論1・2と経営戦略論1・2と同一科目であるので履修できない。詳しくは、国際経営学科の学科科目を参照すること。
- (2) 国際経営学科開講の産業組織論1・2は履修できない。代わりに経済学科開講の産業組織論1・2を履修できる。

6. 隣接領域科目（他学科科目）(2) 経済学科科目

- (1) 経済学科の学科科目のうち、ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、初級ミクロ経済学1・2、初級マクロ経済学1・2、入門計量経済学1・2、海外語学研修、国際経済学1・2、基礎演習および経済学演習を除くすべての科目が対象である。詳しくは、経済学科の学科科目を参照すること。
- (2) 経済情報処理1・2、事例研究、フィールド・スタディは定員制を取っており、経済学科生の履修を優先する。このため、経営学科生がこの科目を履修できるのは、経済学科生の履修定員数が満たなかった場合に限られる。

7. 隣接領域科目（他学科科目）(3) その他の他学科科目

- (1) 憲法A・B、行政法A・Bの履修に際しては、BはAで学んだ知識を前提とした統編としての性格を有するため、再履修の場合を除き、同一年度にAとBの両方を履修することが望ましい。
- (2) 会社法1、会社法2は、内容的に2科目で1つの法分野を形成しており、2は1の教授内容を前提としている。1、2の順で履修することを強く推奨する。これによらない場合は、講義内容の理解が難しく、事実上単位の修得がきわめて困難になる可能性が高いことを指摘しておく。単位認定はそれぞれ独立の科目として行われる。
- (3) 社会保障論Bは社会保障論Aを履修していることが望ましい。

8. 教職関連科目

- (1) 教育職員免許状取得のためにのみ有効であり、卒業に必要な単位としては認められない。
- (2) 3年次以上で「哲学（専）1・2」を履修するためには、「MGPHI」（哲学）、「MGETH」（倫理学）、「MGLOG」（論理学）の科目から、同一名称の2科目（計4単位）を修得済みでなければならない。

9. 予備登録科目

予備登録科目は、学修の手引きに記載があるように登録後は変更できない。また、春学期に登録した秋学期開講の予備登録科目は、秋学期の履修登録期間に変更できない。

国際経営学科

経済学部の目標と方針

人材養成上の目的・教育目標

経済学部は、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、経済学部の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

経済学部が目標とするのは、健全な倫理観を持ちながら経済学の知識によって社会で活躍できる人材の育成であり、経済学の多様性を理解し、新しい変化に弾力的に取り組めるようなバランス感覚を身につけた「良識のある経済人」の育成である。

卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

経済学部は、明治学院大学の「卒業の認定・学位授与に関する方針」に基づき、経済学部の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成するため、所定の期間在学するとともに所定の単位を修得し、次の能力を身につけることを卒業認定と学位授与の要件とする。

いずれの学科でも、幅広い教養とともに経済学・経営学分野の基礎的知識を獲得し、それを体系的に理解し、これを活用するための情報収集力・分析力や他者とのコミュニケーション能力を身につけ、現代社会に生起する諸問題に積極的に取り組む力を身につけた「良識のある経済人」であること。

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部は、明治学院大学の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、経済学部の定める「人材養成上の目的・教育目標」および「卒業の認定・学位授与に関する方針」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

いずれの学科でも、カリキュラム編成においては無理なく導入から専門へ移行できるよう、コース制等の制度的な工夫をしている。また、コミュニケーション能力獲得のため少人数教育を目指し、身につけた知識を実際の現場で応用できるよう、実践的な科目も多く配置してある。専門教育科目のうち、演習（卒業論文を含む）とインターンシップはすべての学科の共通科目として配置している。また学科間の結びつきを高めるため、経済学部内の他学科の専門教育科目は「隣接領域科目」として位置づけ、原則として経済学部の全学生が履修できるようにしてある。

国際経営学科の目標と方針

人材養成上の目的・教育目標

経済学部国際経営学科は、経済学部の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、国際経営学科の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

急速に国際化が進む経済環境に対応して、企業ではこれまで以上にグローバルに活躍できる人材が求められている。国際経営学科では、こうした新しい時代の要請に応えて、企業の諸問題をグローバルな市場環境のもとで正しく理解できる基礎学力を養うとともに、それをビジネスに活かす国際的なコミュニケーション能力を高めることを教育目標とする。この目標を達成するため、国際経営学科では、企業の分析に不可欠なコアの学力を養う基礎的なカリキュラムにくわえて、さらに国際的な市場や市場制度と、それに対する企業の適応行動を学べるようなカリキュラムを提供する。海外の言語や国際的なビジネスの実態にも通じたグローバル・マネジャーを育成する。

卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

経済学部国際経営学科は、経済学部の「卒業の認定・学位授与に関する方針」に基づき、国際経営学科の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成するため、所定の期間在学するとともに124単位を修得し、次の能力を身につけることを卒業認定と学位授与の要件とする。

- 1 幅広い教養とともに、企業活動のグローバル化が急速に進展するなかで、広く経済学・経営学に関する知識を有している。
- 2 これらの知識を獲得し、活用するための情報収集能力や分析力、および企業の諸問題をグローバルな市場環境のもとで正しく理解したうえで、自らの考えを日本語はもとより英語で表現できる能力を身に附している。
- 3 本学の教育理念である“Do for Others（他者への貢献）”のもと、他者とのコミュニケーション能力をもって、対人関係を円滑に構築できる能力を身に附している。
- 4 在学期間を通じて獲得した知識・技能・態度などを総合的に活用して現代社会に生起する諸問題に対して、高い倫理観のもとで常に自らの言動を批判的に内省し、グローバルな視野に立ってその解決に積極的に取り組む能力を身に附している。

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部国際経営学科は、経済学部の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、国際経営学科の定める「人材養成上の目的・教育目標」および「卒業の認定・学位授与に関する方針」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

国際経営学科の卒業要件単位は124単位であり、その教育課程（カリキュラム）は、企業の諸問題をグローバルな市場環境のもとで正しく理解できる基礎学力を養うこと、それをビジネスに活かすコミュニケーション能力を高めること、演習および卒業論文を通じて、国際的な経済・経営問題に係る研究を主体的に行えるようになること等に重点を置いて編成する。

より具体的には、広く経済学・経営学に係る知識を取得するための基礎科目群、企業の分析に不可欠なManagement & Strategy科目群、企業を取り巻く国際的な市場および市場制度の分析に不可欠なAccounting & Finance科目群、およびTrade & Industry科目群、コミュニケーション能力を高めるのに不可欠な専門外国語群、およびBusiness Communication & Research群、国際的なコミュニケーション能力を高めるStudy Abroad Program科目群から編成されるカリキュラムとする。

1年次では、基礎学力を身につけることができるよう、基礎科目群として、「ビジネス入門」「アカウンティング入門」「ファイナンス入門」「貿易入門」「経済学概論」「ビジネスのための法律」を配置している。同時に、英語コミュニケーション能力を高め、国際ビジネス社会で活躍できるよう、専門外国語群として「English for Business Communication」の履修を義務づける。さらに、主体的に企業のグローバル活動について研究・発表し、自己表現力

を高めるために、少人数クラスの「基礎演習」を全員履修できるようにしている。

2年次および3年次では、より高い専門知識を習得させるために、Management & Strategy、Accounting & Finance、Trade & Industryのそれぞれの科目群の基礎科目から応用科目までを配置する。引き続き、専門外国語群として「English for Business Communication」の履修を義務づけている。2年次秋学期に原則全員が海外に留学することを義務づけている。

3年次および4年次には、主体的に企業のグローバル活動について研究・発表し、自己表現力を高めるために、Business Communication & Researchとして「演習」科目を配置している。

卒業の認定・学位授与に関する方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連表(能力要件表)

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				国際経営学科1	国際経営学科1	国際経営学科2	国際経営学科2	国際経営学科4	国際経営学科3・4	国際経営学科3	国際経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				幅広い教養	経済学・経営学に関する知識	情報収集能力や分析力	自らの考えを日本語はもとより英語で表現できる能力	諸問題に積極的に取り組む能力	“Do for Others(他者への貢献)“の精神、高い倫理観	コミュニケーション能力と対人関係を構築できる能力	現代社会の諸問題に積極的に取り組む能力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○							
基礎科目											
EGA&F101アカウンティング入門	選択必修	2	1	○	◎						
EGA&F102ファイナンス入門	選択必修	2	1	○	◎						
EGM&S101ビジネス入門	選択必修	2	1	○	◎						
EGM&S102海外マーケット調査	選択必修	2	2		◎	○					
EGM&S103ビジネスのための法律1	選択必修	2	1	◎		○					
EGM&S104ビジネスのための法律2	選択必修	2	1	◎		○					
EGT&I101貿易入門	選択必修	2	1	○	◎						
EGT&I103経済学概論1	選択必修	2	1	○	◎						
EGT&I104経済学概論2	選択必修	2	1	○	◎						
EGALL101基礎演習	選択必修	2	1	○		○			◎	○	
EGALL102データ分析入門	選択必修	2	2		◎	○					
専門外国語 I											
EGEBC101English for Business Communication A1	必修	2	1				◎			○	
EGEBC102English for Business Communication A2	必修	2	1				◎			○	
EGEBC201English for Business Communication B1	必修	2	2				◎			○	
EGEBC202English for Business Communication B2	必修	2	2				◎			○	
EGEBC301English for Business Communication C1	必修	2	3				◎			○	
EGEBC302English for Business Communication C2	必修	2	3				◎			○	
EGEBC303English for Business Communication C3	必修	2	3				◎			○	
EGEBC304English for Business Communication C4	必修	2	3				◎			○	
専門外国語 II											
EGACA101e-learning 1	選択必修	2	1	○			◎				
EGACA102e-learning 2	選択必修	2	1	○			◎				
EGACA201外国書講読1	選択必修	2	1	○	◎						
EGACA202外国書講読2	選択必修	2	1	○	◎						
EGACA203外国書講読3	選択必修	2	1	○	◎						
EGACA204外国書講読4	選択必修	2	1	○	◎						
Study Abroad Program											
EGPSA101Preparation for Study Abroad 1	必修	1	1			○				◎	
EGPSA102Preparation for Study Abroad 2	必修	1	1			○				◎	
EGPSA201Preparation for Study Abroad 3	必修	2	2			○				◎	
EGSAB201Study Abroad 1	必修	4	2			○				◎	
EGSAB202Study Abroad 2	必修	4	2			○				◎	
EGSAB203Accounting & Finance	選択	2	2		◎		○				
EGSAB204Business	選択	2	2		◎		○				
EGSAB205Economics	選択	2	2		◎		○				
専門科目 I											
(1) MANAGEMENT & STRATEGY											
EGM&S201ビジネス・オーガニゼーション1	選択必修	2	2	○	◎						
EGM&S202ビジネス・オーガニゼーション2	選択必修	2	2	○	◎						

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				国際経営学科1	国際経営学科1	国際経営学科2	国際経営学科2	国際経営学科4	国際経営学科3・4	国際経営学科3	国際経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				幅広い教養	経済学・経営学に関する知識	情報収集能力や分析力	自らの考えを日本語はもとより英語で表現できる能力	諸問題に積極的に取り組む能力	“Do for Others(他者への貢献)“の精神、高い倫理観	コミュニケーション能力と対人関係を構築できる能力	現代社会の諸問題に積極的に取り組む能力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○							
EGM&S203国際経営論1	選択必修	2	2	○	◎						
EGM&S204国際経営論2	選択必修	2	2	○	◎						
EGM&S205ヒューマン・リソース・マネジメント1	選択必修	2	2	○	◎						
EGM&S206ヒューマン・リソース・マネジメント2	選択必修	2	2	○	◎						
EGM&S207各国経営史論	選択必修	2	2	◎	○						
(2) ACCOUNTING & FINANCE											
EGA&F201コーポレート・ファイナンス1	選択必修	2	2	○	◎						
EGA&F202コーポレート・ファイナンス2	選択必修	2	2	○	◎						
EGA&F203海外企業分析	選択必修	2	2	○	◎	○					
EGA&F204財務会計論1	選択必修	2	2	○	◎						
EGA&F205財務会計論2	選択必修	2	2	○	◎						
(3) TRADE & INDUSTRY											
EGT&I201貿易論1	選択必修	2	2	○	◎						
EGT&I202貿易論2	選択必修	2	2	○	◎						
EGT&I203Business in Japan 1	選択必修	2	2	○	◎						
EGT&I204Business in Japan 2	選択必修	2	2	○	◎						
EGT&I205ビジネス・エコノミクス1	選択必修	2	2	○	◎						
EGT&I206ビジネス・エコノミクス2	選択必修	2	2	○	◎						
専門科目Ⅱ											
(1) MANAGEMENT & STRATEGY											
EGM&S301コーポレート・ストラテジー1	選択必修	2	3	○	◎						
EGM&S302コーポレート・ストラテジー2	選択必修	2	3	○	◎						
EGM&S303比較経営学史1	選択必修	2	3	○	◎						
EGM&S304比較経営学史2	選択必修	2	3	○	◎						
EGM&S305ビジネスエシックス	選択必修	2	3	○	◎						
EGM&S306国際経営学特講	選択必修	2	3	○	◎		○				○
EEISS301労働経済学1	選択必修	2	3	○	◎						
EEISS302労働経済学2	選択必修	2	3	○	◎						
(2) ACCOUNTING & FINANCE											
EGA&F301国際会計論1	選択必修	2	3	○	◎						
EGA&F302国際会計論2	選択必修	2	3	○	◎						
EGA&F303国際税務	選択必修	2	3	○	◎						
EGA&F304金融資本市場論	選択必修	2	3	○	◎						
EGA&F305国際経営学特講	選択必修	2	3	○	◎		○				○
EEMON311国際金融論1	選択必修	2	3	○	◎						
EEMON312国際金融論2	選択必修	2	3	○	◎						
EEMON331金融システム論1	選択必修	2	3	○	◎						
EEMON332金融システム論2	選択必修	2	3	○	◎						
(3) TRADE & INDUSTRY											
EGT&I301グローバル・マーケティング1	選択必修	2	3	○	◎						
EGT&I302グローバル・マーケティング2	選択必修	2	3	○	◎						
EGT&I303産業組織論1	選択必修	2	3	○	◎						
EGT&I304産業組織論2	選択必修	2	3	○	◎						
EGT&I305貿易実務1	選択必修	2	3	○	◎						
EGT&I306貿易実務2	選択必修	2	3	○	◎						
EGT&I307西洋文化史1	選択必修	2	3	○	◎						
EGT&I308西洋文化史2	選択必修	2	3	○	◎						
EGT&I309国際経営学特講	選択必修	2	3	○	◎		○				○

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				国際経営学科1	国際経営学科1	国際経営学科2	国際経営学科2	国際経営学科4	国際経営学科3・4	国際経営学科3	国際経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				幅広い教養	経済学・経営学に関する知識	情報収集能力や分析力	自らの考えを日本語はもとより英語で表現できる能力	諸問題に積極的に取り組む能力	“Do for Others(他者への貢献)“の精神、高い倫理観	コミュニケーション能力と対人関係を構築できる能力	現代社会の諸問題に積極的に取り組む能力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○							
EEISS331開発経済学1	選択必修	2	3	○	◎						
EEISS332開発経済学2	選択必修	2	3	○	◎						
BCR(Business Communication & Research)											
EGBCR201海外フィールド・スタディ	選択必修	4	1		◎					○	
EGBCR202ケース・スタディ1	選択必修	2	2			◎	○			○	
EGBCR203ケース・スタディ2	選択必修	2	2			◎	○				
EGBCR204ケース・スタディ3	選択必修	2	2			◎	○				
EGBCR205ケース・スタディ4	選択必修	2	2			◎	○				
EGBCR206グローバル・ビジネス環境	選択必修	2	2		◎			○	○	○	
EGBCR207海外インターンシップ1	選択必修	1	2						◎	○	
EGBCR208海外インターンシップ2	選択必修	1	2						◎	○	
EGBCR209海外インターンシップ3	選択必修	1	2						◎	○	
EBSEM303インターンシップ(講義)	選択必修	2	2						◎	○	
EBSEM304インターンシップ(実習)	選択必修	1	3						○	◎	
EGSEM301演習A1	選択必修	2	3		◎			○	○	○	
EGSEM302演習A2	選択必修	2	3		◎			○	○	○	
EGSEM311演習B1	選択必修	2	3		◎			○	○	○	
EGSEM312演習B2	選択必修	2	3		◎			○	○	○	
EGSEM401演習A3	選択必修	2	4		◎			○	○	○	
EGSEM402演習A4	選択必修	2	4		◎			○	○	○	
EGSEM403卒業論文	選択必修	4	4		◎			○	○	○	
EESEM301演習A1	選択必修	2	3		◎			○	○	○	
EESEM302演習A2	選択必修	2	3		◎			○	○	○	
EESEM311演習B1	選択必修	2	3		◎			○	○	○	
EESEM312演習B2	選択必修	2	3		◎			○	○	○	
EESEM401演習A3	選択必修	2	4		◎			○	○	○	
EBSEM402演習A4	選択必修	2	4		◎			○	○	○	
EESEM403卒業論文	選択必修	4	4		◎			○	○	○	
EBSEM301演習A1	選択必修	2	3		◎			○	○	○	
EBSEM302演習A2	選択必修	2	3		◎			○	○	○	
EBSEM311演習B1	選択必修	2	3		◎			○	○	○	
EBSEM312演習B2	選択必修	2	3		◎			○	○	○	
EBSEM401演習A3	選択必修	2	4		◎			○	○	○	
EESEM402演習A4	選択必修	2	4		◎			○	○	○	
EBSEM403卒業論文	選択必修	4	4		◎			○	○	○	
隣接領域科目(他学科科目)											
(1)経営学科科目の専門科目の全科目											
EBBUS201経営学原理1	選択	2	2	○	◎	○					
EBBUS202経営学原理2	選択	2	2	○	◎	○					
EBMKT201マーケティング1	選択	2	2	○	◎	○					
EBMKT202マーケティング2	選択	2	2	○	◎	○					
EBMKT203市場システム1	選択	2	2	○	◎	○					
EBMKT204市場システム2	選択	2	2	○	◎	○					
EBACC203管理会計論1	選択	2	2	○	◎	○					
EBACC204管理会計論2	選択	2	2	○	◎	○					
EBSEM102ビジネス英語1	選択	2	1	○	◎	○					
EBSEM103ビジネス英語2	選択	2	1	○	◎	○					
EBACC102簿記1	選択	2	1	○	◎	○					
EBACC103簿記2	選択	2	1	○	◎	○					

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				国際経営学科1	国際経営学科1	国際経営学科2	国際経営学科2	国際経営学科4	国際経営学科3・4	国際経営学科3	国際経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力		幅広い教養		経済学・経営学に関する知識	情報収集能力や分析力	自らの考えを日本語はもとより英語で表現できる能力	諸問題に積極的に取り組む能力	“Do for Others(他者への貢献)“の精神、高い倫理観	コミュニケーション能力と対人関係を構築できる能力	現代社会の諸問題に積極的に取り組む能力	
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○							
EBACC104応用簿記	選択	2	1	○	◎	○					
EBSEM201ビジネス英語3	選択	2	2	○	◎	○					
EBSEM202ビジネス英語4	選択	2	2	○	◎	○					
EBACC205工業簿記	選択	2	2	○	◎	○					
EBMKT301マーケティング・リサーチ1	選択	2	3	○	◎	○					
EBMKT302マーケティング・リサーチ2	選択	2	3	○	◎	○					
EBBUS205経営史1	選択	2	2	○	◎	○					
EBBUS206経営史2	選択	2	2	○	◎	○					
EBBUS209情報ネットワーク論1	選択	2	2	○	◎	○					
EBBUS210情報ネットワーク論2	選択	2	2	○	◎	○					
EBBUS211環境と社会	選択	2	2	○	◎	○					
EBBUS401経営学特講	選択	2	2	○	◎						
EBMKT205証券論1	選択	2	2	○	◎	○					
EBMKT206証券論2	選択	2	2	○	◎	○					
EBMKT207保険論1	選択	2	2	○	◎	○					
EBMKT208保険論2	選択	2	2	○	◎	○					
EBACC206経営財務	選択	2	2	○	◎	○					
EBACC207企業分析1	選択	2	2	○	◎	○					
EBACC208企業分析2	選択	2	2	○	◎	○					
EBACC209原価計算論1	選択	2	2	○	◎	○					
EBACC210原価計算論2	選択	2	2	○	◎	○					
EBACC211ビジネスのための税法1	選択	2	2	○	◎	○					
EBACC212ビジネスのための税法2	選択	2	2	○	◎	○					
EBBUS301経営管理論1	選択	2	3	○	◎	○					
EBBUS302経営管理論2	選択	2	3	○	◎	○					
EBMKT303消費者行動1	選択	2	3	○	◎	○					
EBMKT304消費者行動2	選択	2	3	○	◎	○					
EBMKT305商業政策論1	選択	2	3	○	◎	○					
EBMKT306商業政策論2	選択	2	3	○	◎	○					
EBMKT307マーケティング・コミュニケーション1	選択	2	3	○	◎	○					
EBMKT308マーケティング・コミュニケーション2	選択	2	3	○	◎	○					
EBACC301税務会計1	選択	2	3	○	◎	○					
EBACC302税務会計2	選択	2	3	○	◎	○					
EBACC303監査論	選択	2	3	○	◎	○					
(2)経済学科科目の専門科目の全科目											
EEELM121入門経済史1	選択	2	1	○	◎	○					
EEELM122入門経済史2	選択	2	1	○	◎	○					
EETHQ231経済学史1	選択	2	2	○	◎	○					
EETHQ232経済学史2	選択	2	2	○	◎	○					
EETHQ301中級ミクロ経済学1	選択	2	3	○	◎	○					
EETHQ302中級ミクロ経済学2	選択	2	3	○	◎	○					
EETHQ311中級マクロ経済学1	選択	2	3	○	◎	○					
EETHQ312中級マクロ経済学2	選択	2	3	○	◎	○					
EETHQ411経済成長と景気変動1	選択	2	3	○	◎	○					
EETHQ412経済成長と景気変動2	選択	2	3	○	◎	○					
EETHQ331計量経済学1	選択	2	3	○	◎	○					
EETHQ332計量経済学2	選択	2	3	○	◎	○					
EETHQ381経済理論特講1	選択	2	3	○	◎	○					
EETHQ382経済理論特講2	選択	2	3	○	◎	○					

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				国際経営学科1	国際経営学科1	国際経営学科2	国際経営学科2	国際経営学科4	国際経営学科3・4	国際経営学科3	国際経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力		幅広い教養		経済学・経営学に関する知識	情報収集能力や分析力	自らの考えを日本語はもとより英語で表現できる能力	諸問題に積極的に取り組む能力	“Do for Others(他者への貢献)“の精神、高い倫理観	コミュニケーション能力と対人関係を構築できる能力	現代社会の諸問題に積極的に取り組む能力	
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○							
EETHQ391情報数理特講1	選択	2	3	○	◎	○					
EETHQ392情報数理特講2	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL201ミクロ経済政策	選択	2	2	○	◎	○					
EEPOL202マクロ経済政策	選択	2	2	○	◎	○					
EEPOL301財政学1	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL302財政学2	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL311地方財政論1	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL312地方財政論2	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL321公共経済学1	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL322公共経済学2	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL331農業政策論1	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL332農業政策論2	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL341公共政策論1	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL342公共政策論2	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL351経済発展論1	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL352経済発展論2	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL381都市政策論1	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL382都市政策論2	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL391公共政策特講1	選択	2	3	○	◎	○					
EEPOL392公共政策特講2	選択	2	3	○	◎	○					
EEMON301金融論1	選択	2	3	○	◎	○					
EEMON302金融論2	選択	2	3	○	◎	○					
EEMON321ファイナンス1	選択	2	3	○	◎	○					
EEMON322ファイナンス2	選択	2	3	○	◎	○					
EEMON391金融経済特講1	選択	2	3	○	◎	○					
EEMON392金融経済特講2	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG201ゲーム理論1	選択	2	2	○	◎	○					
EEORG202ゲーム理論2	選択	2	2	○	◎	○					
EEORG301情報の経済学1	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG302情報の経済学2	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG311企業と組織の経済学1	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG312企業と組織の経済学2	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG321法と経済学1	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG322法と経済学2	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG331社会的公正の経済学1	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG332社会的公正の経済学2	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG341比較経済制度論1	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG342比較経済制度論2	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG351行動経済学1	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG352行動経済学2	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG361イノベーションの経済学1	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG362イノベーションの経済学2	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG371マーケットデザイン1	選択	2	3	○	◎	○		○		○	
EEORG372マーケットデザイン2	選択	2	3	○	◎	○		○		○	
EEORG391組織と制度の経済学特講1	選択	2	3	○	◎	○					
EEORG392組織と制度の経済学特講2	選択	2	3	○	◎	○					
EEISS201経済の先端的問題1	選択	2	2	○	◎	○					
EEISS202経済の先端的問題2	選択	2	2	○	◎	○					

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				国際経営学科1	国際経営学科1	国際経営学科2	国際経営学科2	国際経営学科4	国際経営学科3・4	国際経営学科3	国際経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力		幅広い教養		経済学・経営学に関する知識	情報収集能力や分析力	自らの考えを日本語はもとより英語で表現できる能力	諸問題に積極的に取り組む能力	“Do for Others (他者への貢献) “の精神、高い倫理観	コミュニケーション能力と対人関係を構築できる能力	現代社会の諸問題に積極的に取り組む能力	
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○							
EEISS311企業と経済1	選択	2	3	○	◎	○					
EEISS312企業と経済2	選択	2	3	○	◎	○					
EEISS321環境の経済学1	選択	2	3	○	◎	○					
EEISS322環境の経済学2	選択	2	3	○	◎	○					
EEISS341人口論1	選択	2	3	○	◎	○					
EEISS342人口論2	選択	2	3	○	◎	○					
EEISS351人事の経済学1	選択	2	3	○	○	○		○		◎	
EEISS352人事の経済学2	選択	2	3	○	○	○		○		◎	
EEISS361政策評価の経済学1	選択	2	3	○	○	○		○		◎	
EEISS362政策評価の経済学2	選択	2	3	○	○	○		○		◎	
EEISS381都市の経済学1	選択	2	3	○	◎	○					
EEISS382都市の経済学2	選択	2	3	○	◎	○					
EEISS391現代経済特講1	選択	2	3	○	◎	○					
EEISS392現代経済特講2	選択	2	3	○	◎	○					
EEGLO301世界経済論1	選択	2	2	○	◎	○					
EEGLO302世界経済論2	選択	2	2	○	◎	○					
EEGLO321日本経済論1	選択	2	3	○	◎	○					
EEGLO322日本経済論2	選択	2	3	○	◎	○					
EEGLO331アメリカ経済論1	選択	2	3	○	◎	○					
EEGLO332アメリカ経済論2	選択	2	3	○	◎	○					
EEGLO341中国経済論	選択	2	3	○	◎	○					
EEGLO342アジア経済論	選択	2	3	○	◎	○					
EEGLO351ヨーロッパ経済論1	選択	2	3	○	◎	○					
EEGLO352ヨーロッパ経済論2	選択	2	3	○	◎	○					
EEGLO391国際経済特講1	選択	2	3	○	◎	○					
EEGLO392国際経済特講2	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS201キリスト教と経済	選択	2	2	○	◎	○					
EEHIS301日本経済史1	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS302日本経済史2	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS311西洋経済史1	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS312西洋経済史2	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS321アジア経済史1	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS322アジア経済史2	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS331現代西洋経済史1	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS332現代西洋経済史2	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS341現代日本経済史1	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS342現代日本経済史2	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS351比較経済思想史1	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS352比較経済思想史2	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS401古典・資料研究1	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS402古典・資料研究2	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS391経済史特講1	選択	2	3	○	◎	○					
EEHIS392経済史特講2	選択	2	3	○	◎	○					
EECAS201事例研究A	選択	2	2	○	◎	○					
EECAS211事例研究B	選択	2	2	○	◎	○					
EECAS221事例研究C	選択	2	2	○	◎	○					
EECAS231事例研究D	選択	2	2		◎	○		○		○	

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				国際経営学科1	国際経営学科1	国際経営学科2	国際経営学科2	国際経営学科4	国際経営学科3・4	国際経営学科3	国際経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				幅広い教養	経済学・経営学に関する知識	情報収集能力や分析力	自らの考えを日本語はもとより英語で表現できる能力	諸問題に積極的に取り組む能力	“Do for Others (他者への貢献) “の精神、高い倫理観	コミュニケーション能力と対人関係を構築できる能力	現代社会の諸問題に積極的に取り組む能力
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○							
EECAS202フィールド・スタディA	選択	2	2			◎			○		○
EECAS212フィールド・スタディB	選択	2	2			◎			○		○
EECAS222フィールド・スタディC	選択	2	2			◎			○		○
EECAS232フィールド・スタディD	選択	2	2			◎			○		○
EECAS241実験経済学1	選択	2	2		○	◎					○
EECAS242実験経済学2	選択	2	2		○	◎					○
EEMST101基礎数学1	選択	2	1	○	◎						
EEMST102基礎数学2	選択	2	1	○	◎						
EEMST111経済情報処理1	選択	2	1	○	◎						
EEMST112経済情報処理2	選択	2	1	○	◎						
EEMST121経済統計学1	選択	2	1	○	◎						
EEMST122経済統計学2	選択	2	1	○	◎						
EEMST201入門経済数学1	選択	2	2	○	◎						
EEMST202入門経済数学2	選択	2	2	○	◎						
EEMST211確率・統計1	選択	2	2	○	◎						
EEMST212確率・統計2	選択	2	2	○	◎						
EEMST301経済数学1	選択	2	3	○	◎						
EEMST302経済数学2	選択	2	3	○	◎						
EELNG201経済事情(英語)1	選択	2	2			○	◎				
EELNG202経済事情(英語)2	選択	2	2			○	◎				
EELNG211経済事情(中国語)1	選択	2	2			○	◎				
EELNG212経済事情(中国語)2	選択	2	2			○	◎				
EELNG221経済英語1	選択	2	2			○	◎				
EELNG222経済英語2	選択	2	2			○	◎				
EEPRA201社会参加実習1	選択	2	2						◎		○
EEPRA202社会参加実習2	選択	2	2						◎		○
(3)その他の他学科・他学部科目											
J-INL211国際法1-1	選択	2	2	◎				○			
J-INL212国際法1-2	選択	2	2	◎				○			
J-INL311国際法2-1	選択	2	3	◎				○			
J-INL312国際法2-2	選択	2	3	◎				○			
J-INL357アメリカ契約・不法行為法1	選択	2	3	◎				○			
J-INL358アメリカ契約・不法行為法2	選択	2	3	◎				○			
J-INL353国際消費者法	選択	2	3	◎				○			
J-INL361グローバル企業法	選択	2	3	◎				○			
J-PUL111憲法A	選択	2	2	◎				○			
J-PUL112憲法B	選択	2	2	◎				○			
J-PUL221行政法A	選択	2	3	◎				○			
J-PUL222行政法B	選択	2	3	◎				○			
J-PUL331租税法1	選択	2	3	◎				○			
J-PUL332租税法2	選択	2	3	◎				○			
J-PUL350EU法	選択	2	3	◎				○			
J-COL201商法A	選択	2	2	◎				○			
J-COL202商法B	選択	2	2	◎				○			
J-COL231会社法1	選択	2	2	◎				○			
J-COL320商取引法	選択	2	2	◎				○			
J-COL321海商法	選択	2	3	◎				○			
J-COL332会社法2	選択	2	3	◎				○			
J-COL341手形法・小切手法	選択	2	3	◎				○			
J-COL342保険法	選択	2	3	◎				○			

学士力				知識・理解		汎用的技能		態度・志向性			統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				国際経営学科1	国際経営学科1	国際経営学科2	国際経営学科2	国際経営学科4	国際経営学科3・4	国際経営学科3	国際経営学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力		幅広い教養		経済学・経営学に関する知識	情報収集能力や分析力	自らの考えを日本語はもとより英語で表現できる能力	諸問題に積極的に取り組む能力	“Do for Others (他者への貢献) “の精神、高い倫理観	コミュニケーション能力と対人関係を構築できる能力	現代社会の諸問題に積極的に取り組む能力	
授業科目名	必修選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○							
J-NFL326国際環境法1	選択	2	3	◎				○			
J-NFL331競争法	選択	2	3	◎				○			
J-NFL350信託法	選択	2	3	◎				○			
J-CIL130契約法1	選択	2	1	◎				○			
J-CIL201民法A	選択	2	2	◎				○			
J-CIL202民法B	選択	2	2	◎				○			
J-CIL220物権法1	選択	2	2	◎				○			
J-CIL231債権総論1	選択	2	2	◎				○			
J-CIL232債権総論2	選択	2	2	◎				○			
J-CIL320物権法2	選択	2	3	◎				○			
J-CIL332契約法2	選択	2	3	◎				○			
J-POL201現代政治理論1A	選択	2	2	◎				○			
J-POL202現代政治理論1B	選択	2	2	◎				○			
J-INR103国際政治学A	選択	2	2	◎				○			
J-INR104国際政治学B	選択	2	2	◎				○			
J-SOL321労働法1	選択	2	3	◎				○			
J-SOL322労働法2	選択	2	3	◎				○			
SWSPA201社会保障論A	選択	2	2	◎				○			
SWSPA202社会保障論B	選択	2	2	◎				○			
KSECO204南北問題	選択	2	2	◎				○			
KCAEP207Communication in the 21st Century	選択	2	1	◎				○			
KCGEN102Current Affairs A	選択	2	1	○				○	◎		○
KCGEN103Current Affairs B	選択	2	1	○				○	◎		○

※卒業要件外科目は、学科のディプロマ・ポリシーに基づく「身につく能力」との関連がないため記載していません。

1. 國際經營学科カリキュラムの概要 ~全体像をつかむ~

國際經營学科は、世界にはばたくグローバル・マネジャーを養成するため、新しい時代の要請に応え、企業の諸問題をグローバルな市場環境のもとで正しく理解できる基礎学力を養うとともに、それをビジネスに活かす經營に関する知識や国際コミュニケーション能力を高めること、さらに、ミッション、つまり、任務を遂行する行動力を養うことを教育目標としている。

したがって、國際經營学科における学科科目のカリキュラム体系及びその全体像をイメージすると図-1のようになる。

図-1 カリキュラム体系のイメージ



図の見方

<分野ごとの説明>

- 1年次には、基礎科目が設定されている。これらの科目は原則として横浜校舎で開講される。
- 基礎科目は2年次以降の専門科目Ⅰ、専門科目Ⅱを学ぶための、基礎、入門の科目である。
- 専門外国語ⅠおよびⅡは、語学および外国語に関する科目である。専門外国語ⅠのEnglish for Business Communication A1・A2は1年次、B1・B2は2年次、C1・C2・C3・C4は3年次に、國際經營学科の学生全員が履修し、単位を修得しなければならない必修科目である。
- Study Abroad Programは、留学プログラムに関する科目である。このうち、Preparation for Study Abroad 1・2・3およびStudy Abroad 1・2は、國際經營学科の学生全員が履修し、単位を修得しなければならない必修科目である。ただし、学科主任と学生との面談の結果、希望の留学先に行けない場合がある。
- 専門科目ⅠはManagement & Strategy (M&S)、Accounting & Finance (A&F)、Trade & Industry (T&I) という3つの分野により構成される。専門科目Ⅰにおいて、各分野の基本的な理論を学んだ上で、専門科目Ⅱにおいて、自分が興味を持てる分野を3つのなかから1つ選んで履修する。これにより、「大学で何を学んだのか」ということが明確になる。
- BCR (Business Communication & Research) は、演習、実習、海外実習プログラムなど、國際ビジネスにおけるコミュニケーションならびにリサーチ能力を高めるための科目である。
- 隣接領域科目（他学科科目）は、経済学、經營学、法学、政治学、社会学、国際関係学など、他学科・他学部の関連科目である。
- 教職関連科目は、教育職員免許状を取得するために必要な科目である。教職関連科目は、卒業に必要な単位として認められないので、履修の際には注意すること。

＜年次ごとの説明＞

- 1年次には、基礎科目が選択必修科目として、専門外国語 I のEnglish for Business Communication A1・A2、Study Abroad ProgramのPreparation for Study Abroad 1・2が必修科目として設定されている。これらの科目は、休暇期間中に開講される集中講義を除き、原則として横浜校舎で開講される。また、1年次には、専門外国語IIのe-learning 1およびe-learning 2、BCRの海外フィールドスタディの履修が可能である。
- 2年次春学期には、専門外国語 I および専門科目 I が設置されている。専門外国語 I のEnglish for Business Communication B1・B2、Study Abroad ProgramのPreparation for Study Abroad 3は、2年次春学期の必修科目である。専門科目 I については、Management & Strategy (M&S)、Accounting & Finance (A&F)、Trade & Industry (T&I) の3分野からバランスよく履修することが望まれる。また、BCRのうち、ケーススタディ、グローバルビジネス環境の履修が可能となっている。BCRには履修者を制限する科目が多いことから、2年次から履修することを心がけ、所定単位を修得することが望まれる。
2年次秋学期には、Study Abroad 1・2が必修科目として設定されている。
- 3年次には、専門外国語 I および専門科目 II が設置されている。専門外国語 I のEnglish for Business Communication C1・C2・C3・C4は、3年次の必修科目である。専門科目 II は、Management & Strategy (M&S)、Accounting & Finance (A&F)、Trade & Industry (T&I) の3分野のうち、自ら興味のもてる分野を1つ選び、科目を履修する。また、選択した分野に関連する科目的履修が望まれる。
- 4年次には、BCRにある演習、卒業論文、選択した分野で開講される特講、他学科・他学部の関連科目など、「大学で何を学んだのか」ということを意識した履修が求められる。なお、卒業への単位修得には余裕を持って対応すること。

2. 科目の履修

1. 履修の順序

学科科目には、「1」、「2」という番号が付されている。この番号は履修の順序を指示している。したがって、たとえば、秋学期に開講される「国際経営論2」を履修するためには、春学期に開講される「国際経営論1」を履修していることが望ましい。

2. 配当年次と単位数

科目には必ず配当年次と単位数が指示されている。科目的配当年次は、指示された年次の年次生と、それより上級の年次生だけが当該科目を履修できることを示している。指示された配当年次に満たない年次生は当該科目を履修できない。科目的単位数は、履修した科目的試験に合格すると、当該科目に指示された単位数が与えられることを示している。

3. 履修校舎について

- 1年次生は、横浜校舎のみの履修とする。ただし、休暇期間中に行われる集中講義のうち、1年次配当となる学科科目については白金校舎で履修することができる。
- 2年次生は、2年次配当となっている学科科目(経営学科提供以外の隣接領域科目(他学科科目)を除く)のみ白金、横浜両校舎で履修することができる。なお、明治学院共通科目については、横浜校舎のみの履修とする。
- 3年次生以上は、履修制限のある科目を除き白金、横浜両校舎で履修することができる。

4. 年間履修上限単位数

- 1年間に履修できる単位数の上限は、1年次は48単位、2年次は40単位、3年次、4年次はそれぞれ49単位とする。なお、「インターンシップ(講義)」、「インターンシップ(実習)」、「フィールド・スタディA～D」、「社会参加実

習1・2)、「応用簿記」、「e-learning 1・2)、「Accounting & Finance」、「Business」、「Economics」、「海外フィールドスタディ」、「海外インターンシップ 1・2・3) および、夏季第1期、夏季第2期、春季講座で開講される授業については、この限りではない。ただし、これらの科目は、学生個々の事情により履修の遂行が困難とされる場合は授業開始後に履修削除とする場合がある。

- 2) 教職課程科目について、「教職に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」および「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち、卒業に必要な単位として認められない科目を履修する場合は、年間履修上限単位数を超えて16単位まで追加履修できる。詳細は別冊の『教職課程履修要項（諸資格）』を参照のこと。

5. 履修中止除外科目について

学修の手引き「履修」の「7. 履修中止制度」において、履修中止ができない科目のうち、各学科において定めている履修中止の申請ができない科目は以下のとおりである。

1年次配当の基礎科目群、English for Business Communication A1～C4およびPreparation for Study Abroad 1～3、演習A1～A4、演習B1～B2、卒業論文

※教務課で登録する科目のため、履修中止不可。

6. 条件つき科目の履修

科目を履修するにあたり、特定科目の「単位修得」が条件として記載されている場合は、特定科目の単位修得済が条件となるが、特定科目を「履修済」または「同一年度に履修」が条件の場合は「履修」のみが条件であり、単位の修得済み、未修得を問わない。

7. 同一科目の重複履修禁止

同一学期に、同一の科目を複数履修することはできない。ただし、単位未修得の場合は、学期をかえて履修することは可能である。なお、本要項中で特に指示が付されている科目については、その指示による。

8. 大学独自の認証資格（内なる国際化プロジェクト）について

内なる国際化プロジェクト

文化、宗教、民族性など、多様な価値観を理解する学生をはぐくむこと、そして外国につながる人たちを包摂した共生社会の担い手として、人権問題などに対して鋭い洞察力をもった学生の育成を目的としています。

このプロジェクトを通じ、所定の教室での学びを修めた学生は「多文化共生サポーター」として認証されます。その上でさらに、支援実践参加の学びを修めた学生は「多文化共生ファシリテーター」として認証されます。

【教室での学び】

明治学院共通科目と経済学部国際経営学科が開講する科目のうち、指定された科目を12単位以上修得した者が申請を行った場合に「多文化共生サポーター」として認証されます。開講科目はプロジェクト公式WEBサイト (<https://internal-i18n-meijigakuin.org/>) で確認してください。

【支援実践参加の学び】

「多文化共生ファシリテーター」の認証に必要な支援実践の場への参加を希望する者は、「多文化共生各論1・2」「ボランティア実践指導」等、★印の科目（合計4単位）を履修してください。

9. 教職課程科目の履修

教育職員免許状を取得するための科目で、「教職に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」と「教科及び教科の指導法に関する科目」からなる。「教職に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」と「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち各教科の指導法科目は、教育職員免許状を取得するためだけに必要な科目であり、修得単位は卒業に必要な単位として認められない。これらの科目は「教職課程履修要項（諸資格）」に掲載されており、この履修要項には記載されていない。

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する科目」は、形式的には専門科目という形式をとっている。「教科に関する科目」の多くは卒業に必要な単位として認められる。しかし、卒業に必要な単位として認められない科目もある。卒業に必要な単位として認められない「教科に関する科目」（専門科目）は、各学科の専門科目の項に掲載してある。

10. 「飛び入学」制度

明治学院大学経済学部・同大学院法と経営学研究科 法と経営学専攻では、以下の1)から3)の条件をすべて満たす経済学部国際経営学科の学生に対して、大学を3年で卒業して大学院に進学（いわゆる「飛び入学」）するための大学院入学試験（口述試験のみ）の出願資格を与える制度がある。

- 1) 3年次修了時に卒業に必要な単位数をすべて修得見込みの者。
- 2) 3年次修了までの成績が科目総合でGPA2.9以上である見込みが立つ者。
- 3) 3年次修了までの成績が学科科目でGPA2.9以上である見込みが立つ者。

なお、大学院入学試験後に確定する3年次修了までの成績の結果、入学要件を満たしていない場合は入学試験の結果にかかわらず、入学資格を失う。

（GPAの算定については、P27を参照のこと。上記の出願資格は変更されることがあるので、実際に受験する際には、必ず大学院入学試験要項を確認するか、大学院事務室に問い合わせること。）

11. 大学院科目の履修について

本学大学院「法と経営学研究科」に進学を希望する4年次生は、以下の条件を満たした場合、法と経営学研究科法と経営学専攻の科目を履修できる。

- 1) 3年次秋学期修了時の成績が、総合GPA2.7以上であること。
- 2) 卒業要件単位の90%以上を修得済であること。
- 3) 法と経営学専攻主任の承認を得ていること。

大学院科目は年間履修上限単位数を超えて年間10単位まで履修できる（ただし、ビジネス総論1・2、1年次演習、研究指導、特定課題研究、合同演習、エクスターーンシップ、ビジネス英語を除く）。大学院科目の単位を修得した場合、学部の卒業要件としては認められず、大学院入学後に修了要件単位として認定される。

なお、上記の履修除外科目だけでなく、休講科目や、同専攻学生の履修希望がなく不開講になる科目など、年度によって履修できない科目が随時でてくるので、履修を希望する場合は大学院事務室からの案内や情報提供に十分留意するとともに、必要な場合は大学院事務室に問い合わせること。

3. 卒業に必要な単位数と科目の内訳

卒業するためには以下の科目について所定の単位数（124単位）を修得しなければならない。その内訳は以下の通りである。

表-1 卒業に必要な単位数と科目の内訳

内訳	科目		単位数	合計
明治学院 共通科目	コア科目 キリスト教の基礎(必修)	キリスト教の基礎A（2単位） キリスト教の基礎B（2単位）	4	<u>24</u>
	言語系科目 外国語科目（必修）	英語コミュニケーション1A・1B、 2A・2B（4単位） 初習語1A・1B、2A・2B（4単位）※	8	
	選択科目	選択科目より選択	12	
学科科目	基礎科目		16	<u>78</u>
	専門外国語 I（必修）		16	
	専門外国語II		6	
	Study Abroad Program（必修）		12	
	専門科目 I	M&S A&F T&I	6 6 6	
	専門科目 II	M&S A&F T&I	4	
	BCR		6	
自由選択科目	明治学院共通科目、学科科目、隣接領域科目（他学科科目）から選択		22	<u>22</u>
合計				<u>124</u>

表の解説

- 明治学院共通科目（コア科目・キリスト教の基礎A・B・各2単位合計4単位）は必修である。
- 明治学院共通科目（言語系科目・2言語で8単位）は必修である。
「英語コミュニケーション」1A・1B、2A・2Bそれぞれ各1単位、計4単位を修得しなければならない。さらに初習語の中から1言語を選択し、その言語について1A・1B、2A・2Bの各1単位、計4単位を修得しなければならない。なお、8単位を超過して修得した場合、9単位目からの単位は自由選択科目の単位数に算入される。（※相談の結果、許可された者は1A・1B・2A・2Bではなく、3A・3B・4A・4Bを選択必修科目として履修することになる。）
- 明治学院大学共通科目（選択科目）の中から12単位以上を修得しなければならない。12単位を超過して修得した場合、13単位目からの単位は自由選択科目の単位数に算入される。ただし、「健康・スポーツ科学系科目群」は合わせて8単位までしか卒業に必要な単位にはならない。
- 学科科目のうち基礎科目の中から16単位を修得しなければならない。16単位を超過して修得した場合、17単位目からの単位は自由選択科目の単位数に算入される。なお、原則として1年次には当該年度に開講されている基礎科目（ただし、データ分析入門、海外マーケット調査の2科目を除く）をすべて履修しなければならない。ただし、基礎演習は再履修できない。

5. 学科科目のうち、専門外国語Ⅰは必修科目である。1年次にはEnglish for Business Communication A1・A2、2年次にはEnglish for Business Communication B1・B2、3年次にはEnglish for Business Communication C1・C2・C3・C4を履修し、合計して16単位を修得しなければならない。
6. 学科科目のうち、専門外国語Ⅱからは卒業までに6単位を修得しなければならない。7単位目からの単位は自由選択科目に算入される。
7. 学科科目のStudy Abroad Programのうち、Preparation for Study Abroad 1~3、Study Abroad 1・2は必修科目である。1年次にはPreparation for Study Abroad 1・2、2年次春学期にはPreparation for Study Abroad 3、2年次秋学期にはStudy Abroad 1・2を履修し、合計12単位を修得しなければならない。12単位を超過して修得した場合、13単位目からの単位は自由選択科目に算入される。
8. 学科科目のうち、専門科目Ⅰ及び専門科目Ⅱは、Management & Strategy (M&S)、Accounting & Finance (A&F)、Trade & Industry (T&I)の3つの分野から構成されており、それらは基本的な理論を習得する専門科目Ⅰと、応用・発展科目となる専門科目Ⅱに分類される。
9. 専門科目Ⅰからは、3つの分野からそれぞれ6単位を修得しなければならない。6単位を超過して修得した場合、7単位目からの単位は自由選択科目に算入される。
10. 専門科目Ⅱについては、3つの分野のうち1つを選択し、その中から4単位以上を修得しなければならない。4単位を超過して修得した場合、5単位目からの単位は自由選択科目に算入される。また、選択しない2分野の修得単位は、すべて自由選択科目に算入される。
11. B C R (Business Communication & Research)は、6単位以上を修得しなければならない。また、6単位を超過して修得した場合、7単位目からの単位は自由選択科目に算入される。
12. 学科科目の超過修得単位、明治学院共通科目（コア科目の必修キリスト教の基礎、選択科目12単位と外国語科目の2言語で8単位を合わせて計24単位）を超過して修得した単位分、隣接領域科目（他学科科目）は、合計22単位まで自由選択科目として卒業に必要な単位数に算入される。

⇒ 【明治学院共通科目】の科目に関する履修の方法は、P35~59を参照。

⇒ 【学科科目】に関する履修の方法は、4. 学科科目を参照。

4. 学科科目～学べる科目は何か～

国際経営学科の学科科目を一覧で示すと、表-2のとおりである。

表-2 学科科目 ※を付した科目は必修科目である

専門科目

基礎科目（1年次に履修し、卒業までに16単位を修得しなければならない。ただしデータ分析入門、Introduction to Research Methods、海外マーケット調査は2年次履修とする）

EGA&F	101	アカウンティング入門	2単位	1年次
	102	ファイナンス入門	2単位	1年次
EGM&S	101	ビジネス入門	2単位	1年次
	102	海外マーケット調査	2単位	2年次
	103	ビジネスのための法律1	2単位	1年次
	104	ビジネスのための法律2	2単位	1年次
EGT&I	101	貿易入門	2単位	1年次
	103	経済学概論1	2単位	1年次
	104	経済学概論2	2単位	1年次
EGALL	101	基礎演習	2単位	1年次
	102	データ分析入門	2単位	2年次

専門外国語I（下記の全ての科目の単位を修得しなければならない）

EGEBC	101	English for Business Communication A1 ※	2単位	1年次
	102	English for Business Communication A2 ※	2単位	1年次
	201	English for Business Communication B1 ※	2単位	2年次
	202	English for Business Communication B2 ※	2単位	2年次
	301	English for Business Communication C1 ※	2単位	3年次
	302	English for Business Communication C2 ※	2単位	3年次
	303	English for Business Communication C3 ※	2単位	3年次
	304	English for Business Communication C4 ※	2単位	3年次

専門外国語II（下記の科目から合計6単位を修得しなければならない）

EGACA	101	e-learning 1	2単位	1年次
	102	e-learning 2	2単位	1年次
	201	外国書講読1（注1）	2単位	1年次
	202	外国書講読2（注1）	2単位	1年次
	203	外国書講読3（注1）	2単位	1年次
	204	外国書講読4（注1）	2単位	1年次

Study Abroad Program（下記科目のうち必修科目12単位を修得しなければならない）

EGPSA	101	Preparation for Study Abroad 1 ※	1単位	1年次
	102	Preparation for Study Abroad 2 ※	1単位	1年次
	201	Preparation for Study Abroad 3 ※	2単位	2年次
EGSAB	201	Study Abroad 1 ※	4単位	2年次
	202	Study Abroad 2 ※	4単位	2年次
	203	Accounting & Finance	2単位	2年次
	204	Business	2単位	2年次
	205	Economics	2単位	2年次

専門科目Ⅰ				
(1) Management & Strategy (3科目6単位を修得しなければならない)				
EGM&S	201	ビジネス・オーガニゼーション1	2単位	2年次
	202	ビジネス・オーガニゼーション2	2単位	2年次
	203	国際経営論1	2単位	2年次
	204	国際経営論2	2単位	2年次
	205	ヒューマン・リソース・マネジメント1	2単位	2年次
	206	ヒューマン・リソース・マネジメント2	2単位	2年次
	207	各国経営史論	2単位	2年次
(2) Accounting & Finance (3科目6単位を修得しなければならない)				
EGA&F	201	コーポレート・ファイナンス1	2単位	2年次
	202	コーポレート・ファイナンス2	2単位	2年次
	203	海外企業分析	2単位	2年次
	204	財務会計論1	2単位	2年次
	205	財務会計論2	2単位	2年次
(3) Trade & Industry (3科目6単位を修得しなければならない)				
EGT&I	201	貿易論1	2単位	2年次
	202	貿易論2	2単位	2年次
	203	Business in Japan 1	2単位	2年次
	204	Business in Japan 2	2単位	2年次
	205	ビジネス・エコノミクス1	2単位	2年次
	206	ビジネス・エコノミクス2	2単位	2年次
専門科目Ⅱ (下記の3分野から1つ選び、4単位を修得しなければならない)				
(1) Management & Strategy				
EGM&S	301	コーポレート・ストラテジー1	2単位	3年次
	302	コーポレート・ストラテジー2	2単位	3年次
	303	比較経営学史1	2単位	3年次
	304	比較経営学史2	2単位	3年次
	305	ビジネスエシックス	2単位	3年次
	306	国際経営学特講 (注2)	2単位	3年次
EEISS	301	労働経済学1	2単位	3年次
	302	労働経済学2	2単位	3年次
(2) Accounting & Finance				
EGA&F	301	国際会計論1	2単位	3年次
	302	国際会計論2	2単位	3年次
	303	国際税務	2単位	3年次
	304	金融資本市場論	2単位	3年次
	305	国際経営学特講 (注2)	2単位	3年次
EEMON	311	国際金融論1	2単位	3年次
	312	国際金融論2	2単位	3年次
	331	金融システム論1	2単位	3年次
	332	金融システム論2	2単位	3年次
(3) Trade & Industry				
EGT&I	301	グローバル・マーケティング1	2単位	3年次
	302	グローバル・マーケティング2	2単位	3年次
	303	産業組織論1	2単位	3年次
	304	産業組織論2	2単位	3年次

EGT&I	305	貿易実務1	2単位	3年次
	306	貿易実務2	2単位	3年次
	307	西洋文化史1	2単位	3年次
	308	西洋文化史2	2単位	3年次
	309	国際経営学特講（注2）	2単位	3年次
EEISS	331	開発経済学1	2単位	3年次
	332	開発経済学2	2単位	3年次
BCR (Business Communication & Research) (卒業までに6単位以上修得しなければならない)				
EGBCR	201	海外フィールドスタディ	4単位	1年次
	202	ケース・スタディ1	2単位	2年次
	203	ケース・スタディ2	2単位	2年次
	204	ケース・スタディ3	2単位	2年次
	205	ケース・スタディ4	2単位	2年次
	206	グローバル・ビジネス環境	2単位	2年次
	207	海外インターンシップ1	1単位	2年次
	208	海外インターンシップ2	1単位	2年次
	209	海外インターンシップ3	1単位	2年次
EBSEM	303	インターンシップ（講義）	2単位	2年次
	304	インターンシップ（実習）	1単位	3年次
EGSEM	301	演習A1	2単位	3年次
	302	演習A2	2単位	3年次
	311	演習B1	2単位	3年次
	312	演習B2	2単位	3年次
	401	演習A3	2単位	4年次
	402	演習A4	2単位	4年次
	403	卒業論文	4単位	4年次
EESEM	301	演習A1	2単位	3年次
	302	演習A2	2単位	3年次
	311	演習B1	2単位	3年次
	312	演習B2	2単位	3年次
	401	演習A3	2単位	4年次
	402	演習A4	2単位	4年次
	403	卒業論文	4単位	4年次
EBSEM	301	演習A1	2単位	3年次
	302	演習A2	2単位	3年次
	311	演習B1	2単位	3年次
	312	演習B2	2単位	3年次
	401	演習A3	2単位	4年次
	402	演習A4	2単位	4年次
	403	卒業論文	4単位	4年次

(注1) 専門外国語Ⅱのうち、外国書講読1・2・3・4は、年度始めに開講する科目を別途掲示する。

(注2) 専門科目Ⅱの国際経営学特講については、年度始めに開講する科目を別途掲示する。

また、科目名の（ ）内の名称が異なれば別の科目とみなされるので、卒業に必要な単位として認められる。

表-3 他学科科目

隣接領域科目（他学科科目）				
(1) 経営学科科目的専門科目の全科目				
ただし、経営学入門、マーケティング入門、会計学入門、経済学概論1・2、ビジネスのための法律1・2、経営組織論1・2、データ処理論、ワークショップ1・2、経営戦略論1・2を除く。(P109~111)				
(2) 経済学科科目的専門科目の全科目				
ただし、ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、初級ミクロ経済学1・2、初級マクロ経済学1・2、入門計量経済学1・2、産業組織論1・2、国際経済学1・2、海外語学研修、基礎演習A・B・C・D、経済学演習A・B・C・D、現代社会と経済A・Bを除く。(P85~89)				
(3) その他の他学科・他学部科目				
J-INL	211	国際法1-1	2単位	2年次
	212	国際法1-2	2単位	2年次
	311	国際法2-1	2単位	3年次
	312	国際法2-2	2単位	3年次
	357	アメリカ契約・不法行為法1	2単位	3年次
	358	アメリカ契約・不法行為法2	2単位	3年次
	353	国際消費者法	2単位	3年次
	361	グローバル企業法	2単位	3年次
J-PUL	111	憲法A	2単位	2年次
	112	憲法B	2単位	2年次
	221	行政法A	2単位	3年次
	222	行政法B	2単位	3年次
	331	租税法1	2単位	3年次
	332	租税法2	2単位	3年次
	350	EU法	2単位	3年次
J-COL	201	商法A	2単位	2年次
	202	商法B	2単位	2年次
	231	会社法1	2単位	2年次
	320	商取引法	2単位	2年次
	321	海商法	2単位	3年次
	332	会社法2	2単位	3年次
	341	手形法・小切手法	2単位	3年次
	342	保険法	2単位	3年次
J-NFL	326	国際環境法1	2単位	3年次
	331	競争法	2単位	3年次
	350	信託法	2単位	3年次
J-CIL	130	契約法1	2単位	1年次
	201	民法A	2単位	2年次
	202	民法B	2単位	2年次
	220	物権法1	2単位	2年次
	231	債権総論1	2単位	2年次
	232	債権総論2	2単位	2年次
	320	物権法2	2単位	3年次
	332	契約法2	2単位	3年次
J-POL	201	現代政治理論1A	2単位	2年次
	202	現代政治理論1B	2単位	2年次
J-INR	103	国際政治学A	2単位	2年次
	104	国際政治学B	2単位	2年次

J-SOL	321	労働法1	2単位	3年次
	322	労働法2	2単位	3年次
SWSPA	201	社会保障論A	2単位	2年次
	202	社会保障論B	2単位	2年次
KSECO	204	南北問題	2単位	2年次
KCAEP	207	Communication in the 21st Century	2単位	1年次
KCGEN	102	Current Affairs A	2単位	1年次
	103	Current Affairs B	2単位	1年次
教職関連科目（卒業に必要な単位としては認められない）				
TCKNO	901	日本史A	2単位	2年次
	902	日本史B	2単位	2年次
	911	世界史A	2単位	2年次
	912	世界史B	2単位	2年次
	921	地理学概論1	2単位	2年次
	922	地理学概論2	2単位	2年次
	931	自然地理学1	2単位	2年次
	932	自然地理学2	2単位	2年次
	941	地誌概説1	2単位	2年次
	942	地誌概説2	2単位	2年次
	951	宗教学概論1	2単位	3年次
	952	宗教学概論2	2単位	3年次
	961	職業指導	2単位	3年次
LXCRS	301	哲学（専）1（注3）	2単位	3年次
	302	哲学（専）2（注3）	2単位	3年次

(注3) 3年次以上で「哲学（専）1・2」を履修するためには、「MGPHI」（哲学）、「MGETH」（倫理学）、「MGLOG」（論理学）の科目から、同一名称の2科目（計4単位）を修得済みでなければならない。

(注4) 他学科科目の一部で専門科目に含まれている科目がある。それらの科目は表-2に記載されている科目群に属する。

5. 履修の方法～配当年次、開講校舎に注意～

〔1〕学科科目履修についての一般的注意

1. 学科科目の多くは、1、2と表記され、各2単位科目であるが、通年履修を原則とする。すなわち、同一名称科目1、2の科目は、原則として1、2の両方を修得することが望ましい。修得した科目は、基礎科目、専門外国語Ⅰ、専門外国語Ⅱ、Study Abroad Program、専門科目Ⅰ、専門科目Ⅱ、BCR、隣接領域科目（他学科科目）に付されている卒業に必要な修得単位の合計枠に算入される。
2. 配当年次にしたがって履修すること。
3. 専門外国語Ⅱの外国書講読1・2・3・4、BCRのうち、海外フィールドスタディについては、担当教員が異なれば別の科目とみなされるので、卒業に必要な単位として認められる。なお、海外フィールドスタディは、履修する学期において卒業を予定している学生は、これを履修することができない。
4. 演習科目（演習A1・A2・A3・A4、卒業論文、演習B1・B2）の履修方法および単位修得の方法については、「演習と卒業論文」の項を参照すること。

〔2〕学科科目 履修上の注意

1. 1年次配当となっている学科科目は、原則として横浜校舎で履修する。ただし、休暇期間中に行われる集中講義のうち、1年次配当となっている学科科目については白金校舎で履修することができる。
2. 2年次配当となっている学科科目（経営学科提供以外の隣接領域科目（他学科科目）を除く）は白金、横浜両校舎で履修することができる。履修については、以下の点に注意すること。

（注1）基礎科目（選択必修科目）

基礎科目のうち、開講されている全ての科目（ただし、データ分析入門、海外マーケット調査の2科目を除く）について、原則として、国際経営学科生が1年次に履修しなければならない科目である。

（注2）専門外国語Ⅰ（必修科目）

English for Business Communication A1・A2は1年次、English for Business Communication B1・B2は2年次、English for Business Communication C1・C2・C3・C4は3年次に履修しなければならない。

（注3）専門外国語Ⅱ（選択必修科目）

専門外国語Ⅱは1年次から履修できるe-learning 1・2および外国書講読がある。

（注4）Study Abroad Program（必修科目）

Study Abroad ProgramのPreparation for Study Abroad1・2は1年次に、Preparation for Study Abroad3は2年次春学期に、Study Abroad1・2は2年次秋学期に履修し、単位を修得しなければならない。ただし、Preparation for Study Abroad1・2・3の単位を修得したものがStudy Abroad1・2を履修できる。Study Abroad1・2の単位は、留学先の成績および課題の提出にもとづき認定される。

Study Abroad1・2、Accounting & Finance、Business、EconomicsはP（合格）あるいはF（不合格）として成績評価を行う。Pの場合、卒業のために必要な単位として認められる。

（注5）専門科目Ⅰ、専門科目Ⅱ（選択必修科目）

専門科目Ⅰは2年次生より履修が可能である。また、専門科目Ⅱは3年次生より履修することができる。

（注6）BCR（選択必修科目）

BCRについては、卒業までに6単位を修得しなければならない。

BCRのうち、インターンシップ（実習）は、3年次のみ履修可とする。また、インターンシップ（講義）の履修を

必須とする。ただし、単位を修得するには、3年次春学期期間中に実施されるガイダンスを受講すること。また、インターンシップ（講義）、インターンシップ（実習）の成績評価は、通常の評価（S、A、B、C、D、あるいはN）ではなく、P（合格）、あるいはF（不合格）となる。Pの場合、卒業のために必要な単位として認められる。

（注7）隣接領域科目（他学科科目）（1）経営学科科目

経営学科専門科目のすべてが対象となる。ただし、経営学入門、マーケティング入門、会計学入門、経済学概論1・2、ビジネスのための法律1・2、データ処理論、ワークショップ1・2、経営組織論1・2、経営戦略論1・2を除く。また、科目によっては履修に際して課している条件などがあるので、各科目のシラバスを熟読してから履修すること。

（注8）隣接領域科目（他学科科目）（2）経済学科科目

経済学科専門科目のすべてが対象となる。ただし、ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、初級ミクロ経済学1・2、初級マクロ経済学1・2、入門計量経済学1・2、基礎演習、経済学演習、海外語学研修、国際経済学1・2、産業組織論1・2を除く。また、経済学科にしか開講されていない科目、人数制限のある科目、その他、科目によっては履修に課している条件などがあるので、履修要項の経済学科の欄及び各科目のシラバスを熟読して履修すること。

（注9）隣接領域科目（他学科科目）（2）経済学科科目の人数制限科目

経済情報処理1・2、事例研究、フィールド・スタディは、定員制を採用していることから、経済学科生の履修が優先される。したがって、国際経営学科生がこの科目を履修できるのは、経済学科生の履修定員数が満たなかった場合に限られる。

（注10）隣接領域科目（他学科科目）（3）経営・経済学科以外の学科科目

憲法A・B、行政法A・Bの履修に際しては、BはAで学んだ知識を前提とした統編としての性格を有するため、再履修の場合を除き、同一年度にAとBの両方を履修することが望ましい。

（注11）隣接領域科目（他学科科目）（3）経営・経済学科以外の学科科目

会社法1、会社法2は、内容的に2科目で1つの法分野を形成しており、2は1の教授内容を前提としている。1、2の順での履修を強く推奨する。これによらない場合は、講義内容の理解が難しく、事実上、単位の修得が極めて困難になる可能性が高いことを指摘しておく。なお、単位認定はそれぞれ独立の科目として行われる。

（注12）隣接領域科目（他学科科目）（3）経営・経済学科以外の学科科目

社会保障論Bは、社会保障論Aを履修していることが望ましい。

（注13）教職関連科目

これらの科目は教育職員免許状取得のためにのみ有効であり、卒業に必要な単位としては認められない。

（注14）予備登録科目

予備登録科目は、学修の手引きに記載があるように登録後は変更できない。また、春学期に登録した秋学期開講の予備登録科目は、秋学期の履修登録期間に変更できない。

演習と卒業論文

1. 演習の履修

経済学科、経営学科、国際経営学科には、演習として、演習A1、演習A2、演習A3、演習A4が開講される。他に、演習B1、演習B2が開講されることがある。ただし、演習A1と演習B1、演習A3と演習B1を同時に履修することはできない。開講は原則として演習A1、演習A3、演習B1は春学期に、演習A2、演習A4、演習B2は秋学期に開講される。

演習は、選考により、履修が許可される。演習の第1次募集では、経済学科学生は経済学科所属教員の担当する演習に応募できる。他学科の教員の演習には応募できない。経営学科学生および国際経営学科学生は経営学科あるいは国際経営学科のどちらの所属教員の担当する演習でも応募できるが、経済学科の所属教員の演習には応募できない。必ず、担当する教員の所属学科を確かめて応募すること。第2次募集以降では学科の別に係わりなく応募できる。

選考は、試験や論文提出や面接など担当教員が適切と判断した方法により実施される。

演習の応募方法について、経済学科生の場合、1次募集の合格者は合格を辞退して2次募集以降に応募できるが、経営学科および国際経営学科生の合格辞退者は、以後は応募できないので注意すること。

応募時に3年次以上で、かつ休学をしていない者は演習に応募できない。

その他、演習には特別の履修条件および単位修得条件が決められているので、以下のルールをよく読み、章末の別表も参考の上、選択履修すること。

なお、経済学科の「基礎演習A・B・C・D」「経済学演習A・B・C・D」および国際経営学科の「基礎演習」の履修の方法については、それぞれの学科のページを参照すること。

1. 演習A1、演習A2、演習A3、演習A4の履修

- ① 演習A1、演習A2、演習A3、演習A4は、この順に原則として同一教員の下で継続して履修しなければならない。ある段階の演習の単位を修得していない者は次段階の演習を履修できない。
- ② 演習A1と演習A2は3年次の春学期、演習A3と演習A4と卒業論文は4年次の春学期にそれぞれ同時に履修すること。
- ③ 演習A1、演習A3の単位はそれぞれ演習A2、演習A4の単位を修得した場合に限り、卒業に必要な単位として認定される。
- ④ 演習A4終了時には卒業論文を提出しなければならない。卒業論文を「B卒業論文の規格」の要領で提出しない場合、演習A4の単位を修得できず、したがって演習A3の単位も卒業に必要な単位とならない。
- ⑤ 演習A4と卒業論文の単位認定の詳細は演習を担当する教員の所属学科により異なるので注意が必要である。

1. 経済学科所属教員の開講する演習A4

卒業論文を提出した後に演習A4が合格と判定されると2単位が認定される。提出された卒業論文は別途に審査を受け、これに合格すると、卒業論文4単位が認定される。

2. 経営学科および国際経営学科の所属教員の開講する演習A4

演習A4を履修し合格と判定され、卒業論文の審査でも合格と判定されると、演習A4（2単位）と卒業論文（4単位）の修得が合わせて認定される。卒業論文の審査で不合格と判定されると、演習A4（2単位）の修得も認定されない。

⑥ 演習A1・演習B1の履修内定者に対して、2年次に「予備ゼミ」が開講されることがある。

⑦ 演習の履修が休学で中断した場合、復学したセメスター以降に履修する演習は、休学したセメスターの直前に履修した演習に継続する演習を履修することができる。手続きについては教務課に相談すること。なお、3年次、4年次に「認定留学」（「協定留学」・「協定外留学」）を計画している学生は、演習の応募時に演習担当の教員へその旨を相談すること。

⑧ 演習を履修していた学生が、履修をやめる場合は、履修登録期間中に教務課で辞退の手続きを行わなければならない。

なお、4年次に進級後、演習をやめた場合でも演習A1、演習A2の修得単位は卒業に必要な単位として認められる。

⑨ 演習A1、演習A2、演習A3、演習A4は、一度履修して単位を修得できなかった場合、再履修することはできない。

2. 演習B1と演習B2の履修

- ① 演習B1、演習B2はこの順に継続して同一教員の下で履修しなければならない。演習B1の単位を修得していない者は演習B2を履修できない。
- ② 演習B1と演習B2は春学期に同時に履修登録すること。
- ③ 演習B1の単位は演習B2の単位を修得した場合に限り卒業に必要な単位として認定される。
- ④ 演習B1、演習B2は、一度履修して単位を修得できなかった場合、再履修することはできない。

2. 卒業論文の規格

学生は細心の注意をもって卒業論文を作成し、提出しなければならない。なお、詳しい卒業論文の規格に関しては、『卒業論文執筆の手引き』を参照すること。

3. 卒業論文執筆・提出にかかる注意

卒業論文執筆・提出にあたっては、『卒業論文執筆の手引き』を参照すること。

4. 演習と卒業論文別表：応募にあたっての注意事項

1. ゼミ募集時から履修登録まで

		経済学科生	経営学科生	国際経営学科生
春学期募集 (7月)	応募資格			全員
	応募可能な演習			国際経営学科所属教員の演習すべてと、経営学科所属教員のうち春学期募集をおこなう演習
秋学期一次募集 (10月)	応募資格	全員	全員	
	応募可能な演習	経済学科所属教員の演習	経営学科所属教員の演習すべてと、国際経営学科所属教員のうち秋学期一次募集を行う演習	
秋学期二次募集 (11月)	応募資格	秋学期一次募集の履修許可者以外（手続きをおこなった合格辞退者は応募可。下記参照）	秋学期一次募集の履修許可者以外	春学期募集の履修許可者以外
	応募可能な演習	教員の所属学科は問わない		
秋学期三次募集 (3月末～4月初)	応募資格	秋学期一次・二次募集の履修許可者以外（手続きをおこなった合格辞退者は応募可。下記参照）	秋学期一次・二次募集の履修許可者以外	春学期募集・秋学期二次募集の履修許可者以外
	応募可能な演習	教員の所属学科は問わない		

<合格辞退について>

合格を辞退する学生は、履修登録期間が開始する前までに教務課で辞退の手続きを行わなければならない。

※経営学科生、国際経営学科生は合格辞退後、以降の募集に応募することはできない。応募の際は細心の注意をすること。

※経済学科生は、以下の定められた期間に合格辞退の手続きを行った場合に限り、その後の募集に応募することができる。

合格辞退手続き期間：辞退後に応募を希望する募集要項発表の前日まで

<履修について>

演習A1、演習A2、演習A3、演習A4、演習B1、演習B2と卒業論文は、一度履修して単位を修得できなかった場合、再履修することはできない。

2. 修得単位の扱い

- ① 演習A1、演習A2、演習A3、演習A4、または演習B1、演習B2は、この順に原則として同一教員の下で継続して履修しなければならない。ある段階の演習の単位を修得していない者は次段階の演習を履修できない。
- ② 演習A1、演習A3、演習B1の単位はそれぞれ演習A2、演習A4、演習B2の単位を修得した場合に限り、卒業に必要な単位として認定される。
- ③ 演習A4終了時には卒業論文を提出しなければならない。提出しない場合、演習A4の単位を修得できず、したがって演習A3の単位も卒業に必要な単位とならない。
- ④ 経済学科所属教員の開講するA4は、卒業論文を提出した後に演習A4が合格と判定されると2単位認定される。提出された卒業論文は別途に審査を受け、これに合格すると、卒業論文4単位が認定される。
- ⑤ 経営学科および国際経営学科所属教員の開講するA4は、演習A4を履修し合格と判定され、卒業論文の審査でも合格と判定されると、演習A4と卒業論文の修得（6単位）が合わせて認定される。卒業論文の審査で不合格と判定されると、演習A4の修得も認定されない。

以上の項目①～⑤に従って、単位修得のパターンは以下の表のとおりになる。単位が修得できた場合は「○」、単位が

修得できなかった場合は「×」としている。

【経済学部共通】

	A1	A2	修得単位（卒業要件）	該当項目
単位数	2単位	2単位		
成績	○	○	4単位	
	○	×	0単位	②
	×	×	0単位	

【経済学科所属の教員】（卒業論文提出が前提。卒業論文未提出の場合は、演習A3・A4・卒業論文=0単位）

	A3	A4	卒業論文	修得単位（卒業要件）	該当項目
単位数	2単位	2単位	4単位		
成績	○	○	○	8単位	
	○	○	×	4単位	④
	○	×	×	0単位	②
	×	×	×	0単位	

【経営学科・国際経営学科所属の教員】（卒業論文提出が前提。卒業論文未提出の場合は、演習A3・A4・卒業論文=0単位）

	A3	A4	卒業論文	修得単位（卒業要件）	該当項目
単位数	2単位	2単位	4単位		
成績	○	○	○	8単位	
	○	×	×	0単位	②
	×	×	×	0単位	

【経済学部共通】

	B1	B2	修得単位（卒業要件）	該当項目
単位数	2単位	2単位		
成績	○	○	4単位	
	○	×	0単位	②
	×	×	0単位	

諸資格

社会福祉主任用資格

社会福祉主任用資格が取得できる学科

社会福祉主任用資格は、すべての学科の学生が取得することができます。

社会福祉主任の職務

国、地方公共団体、社会福祉法人など社会福祉事業を経営する者は、福祉サービスを必要としている人たちが心身ともに健やかに育成され、または社会、経済、文化その他の活動に参加する機会が与えられ、その年令、環境、心身の状況に応じて、地域において必要な福祉サービスを提供できるようにしなければなりません。このことに基づき、地方公共団体は、福祉に関する事務所を設置しており、ここには社会福祉主任をおくよう社会福祉法において義務づけられています。

社会福祉主任は、その事務所において生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法、及び知的障害者福祉法の定める援護、育成または更生の措置に関する事務を行うことを職務としています。

社会福祉主任用資格を得るには

20歳以上の者で、人格高潔で思慮が円熟し、社会福祉の増進に熱意があり、かつ下記1～3のいずれかに該当する者が主任用資格を得られます。主任用資格とは、公務員試験に合格して公務員となった者にあてはまるものであり、この要件が満たされなければ社会福祉主任にはなれません。

1. 大学において厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修め卒業した者
2. 厚生労働大臣の指定する養成機関又は講習会の課程を修了した者
3. 厚生労働大臣の指定する社会福祉事業従事者試験に合格した者

本学学生は、次ページに挙げる『社会福祉法に定める科目』を3科目以上修得することで、社会福祉主任用資格を得ることができます。『社会福祉法に定める科目』に対し、『本学で開講している科目』を表記していますので、これらの科目を修得してください。

『本学で開講している科目』について、その科目を履修することができる学科を「○」で示しています。各科目の履修に際しては条件が付される場合もあります。詳しくは所属学部の履修要項でご確認ください。なお表では学科名称に略称を用いています。(LE：英文学科、LF：フランス文学科、LA：芸術学科、EE：経済学科、EB：経営学科、EG：国際経営学科、SG：社会学科、SW：社会福祉学科、JU：法律学科、JC：消費情報環境法学科、JP：政治学科、JG：グローバル法学科、KS：国際学科、KC：国際キャリア学科、PS：心理学科、PE：教育発達学科)

本資格の取得要件を満たしている方には、証明書を発行いたします。お求めになる場合は教務部までお問い合わせください。

社会福祉主事の資格に関する科目(2020年度生以降)

社会福祉法に定める科目名	本学で開講している科目名	履修できる学科(2020年度以降入学生)														
		LE	LF	LA	EE	EB	EG	SG	SW	JU	JC	JP	JG	KS	KC	PS
社会福祉概論	SWBAS101 社会福祉学概論 A SWBAS102 社会福祉学概論 B								○							
	MGSWS101 社会福祉学 1 MGSWS102 社会福祉学 2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※4	○	○	○
	D1231 社会福祉学 1 D1232 社会福祉学 2												※3			
	社会福祉援助技術論	SWSWP201 リーシュルワーク 1A							○							
社会福祉調査論	SWBAS204 社会福祉調査							○								
	SGRES101 社会調査の基礎							○								
	J-STS200 社会調査論											○				
	KSECO213 社会調査法												○			
社会福祉行政論	SWSPA203 社会福祉法制							○	○							
	SWSPA307 福祉行政財政と福祉計画							※1	※1							
社会保障論	SWSPA201 社会保障論 A SWSPA202 社会保障論 B			○	○	○	○	○								
公的扶助論	SWSPA305 公的扶助論 A						○	○								
児童福祉論	SWAVF203 児童福祉論 A SWAVF301 児童福祉論 B						○	○								
	PEDSP304 子ども家庭福祉														○	
	家庭福祉論	SWAVF307 家庭福祉論					○	○								
身体障害者福祉論	SWAVF206 身体障害者福祉論						○	○								
知的障害者福祉論	SWAVF207 知的障害者福祉論						○	○								
老人福祉論	SWAVF204 高齢者福祉論 A SWAVF303 高齢者福祉論 B						○	○								
地域福祉論	SWAVF309 地域福祉論 A						○	○								
法学	MGLAW101 法学(日本国憲法を含む)1 MGLAW102 法学(日本国憲法を含む)2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	KSPOL209 法学原論												○			
	J-CIL201 民法 A J-CIL202 民法 B				○	○	○	○	○		○				○	
民法	J-CIL111 民法総則 1 J-CIL212 民法総則 2									○	○	○	○			
	J-PUL221 行政法 A J-PUL222 行政法 B			○	○	○	○	○								
	J-PUL221 行政法 1-1 J-PUL222 行政法 1-2									○	○	○	○			
	J-PUL321 行政法 2-1 J-PUL322 行政法 2-2									○	○	○	○			
経済学	EBBUS102 経済学概論 1 EBBUS103 経済学概論 2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	EEPOL301 財政学 1 EEPOL302 財政学 2				○	○	○			○	○	○				
	EEPOL201 ミクロ経済政策				○	○	○						○			
	EEPOL202 マクロ経済政策				○	○	○						○			
	KSECO216 ミクロ経済学														○	
	KSECO217 マクロ経済学															
	EEISS301 労働経済学 1 EEISS302 労働経済学 2				○	○	○									
社会政策	SWSPA204 社会政策論 A SWSPA205 社会政策論 B								○							
	SWOPN202 心理学概論								○							
	PEBAR101 心理学総論 PEBAP101 心理学総論															※2
心理学	SGBAS101 社会学概論 A SGBAS102 社会学概論 B	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	※4	○	○	○
	社会学概論 A・B												※3			
	SWOPN101 社会学概論								○							
	KSPOL208 社会学原論												○			
教育学	TCBAS902 教育の思想と歴史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
	PEBAR102 教育原論															○
医学一般	SWUCL305 医学知識							○								
リバビリテーション論	PEDSP305 リバビリテーション論															○
介護概論	SWSWP205 介護概論								※1							

(注1)『本学で開講している科目』がない『社会福祉法に定める科目』は上記の表に掲載していません。

(注2)『本学で開講している科目』において、科目名の後にA・B、1・2が付されている科目は、2科目セットで修得しなければ『社会福祉法に定める科目』1科目と数えることができません。

(注3)『社会福祉法に定める科目』の同じ区分で、本学で開講している科目を複数科目修得しても、1科目と数えます。(例えば、社会福祉学科生が「社会福祉学概論A・B」と「社会福祉学1・2」の合計4科目を修得した場合は、『社会福祉法に定める科目』の『社会福祉概論』1科目の修得と数えます。)

(注4)『社会福祉学1・2』および『法学(日本国憲法を含む)1・2』は、明治学院共通科目にある科目を履修してください。

(注5)※1の科目は、2020年度生のみ履修可能です。

(注6)※2の科目について、PEBAR101心理学総論は2020年度生・2021年度生が履修可能で、PEBAP101心理学総論は2022年度生以降が履修可能です。

(注7)※3・4の科目について、グローバル法学科生は2020年度生・2021年度生は※3の科目が履修可能で、※4の科目は2022年度生以降が履修可能です。

学部学科等の 科目群・学問分野コード表

(2023年4月1日時点)

文学部

科目群コード	学部・学科等	科目群名称
LEBES	英文学科	英語基礎科目
LEAES		英語発展科目（A群・B群）
LEBRL		イギリス文学コース科目
LEAML		アメリカ文学コース科目
LELIN		英語学コース科目
LECRS		関連科目・文学部共通科目
LEETE		英語教育科目
LEGRA		卒業論文
LFEFB	フランス文学科	フランス学基礎科目
LFELF		フランス語科目
LFFAL		フランス学発展科目（ことばと文学）
LFFAP		フランス学発展科目（思想と社会）
LFFAA		フランス学発展科目（芸術と文化）
LFSEM		専門演習
LFMEM		卒業論文
LFLTJ		文学部共通科目（日本文学（専））
LFLTE		文学部共通科目（西洋文学）
LFCIN		文学部共通科目（異文化理解）
LFLAT		文学部共通科目（ラテン語）
LFPLF		教職に関する科目
LAART	芸術学科	各コース共通科目
LAMUS		音楽学コース関係科目
LAFIL		映像芸術学コース関係科目
LAFAH		美術史学コース関係科目
LAMED		芸術メディア論コース関係科目
LATHE		演劇身体表現コース関係科目
LACOM		総合芸術学コース関係科目
LAGEN		文学部共通科目
LACUR		学芸員課程科目
LXCRS	文学部共通	一
TCBAS	教職課程	教育の基礎的理解に関する科目
TCTEA		教科及び教科の指導法に関する科目
TCTHE		道徳、総合的な学習の時間などの指導、生徒指導、教育相談に関する科目
TCPRA		教育実践に関する科目
TCUNI		大学が独自に設定する科目
TCKNO		その他の教職関連科目

経済学部

科目群コード	学部・学科等	科目群名称
EEELM	経済学科	入門専門科目
EETHQ		基礎専門科目（経済理論・計量科目群）
EEPOL		基礎専門科目（公共政策科目群）
EEMON		基礎専門科目（金融経済科目群）
EEORG		基礎専門科目（市場・組織・制度の経済分析科目群）
EEISS		基礎専門科目（現代の経済環境科目群）
EEGLO		基礎専門科目（国際経済の理論と実際科目群）
EEHIS		基礎専門科目（経済社会と経済思想の歴史科目群）
EECAS		基礎専門科目（事例研究・フィールド科目群）
EEMST		情報数理・統計科目
EELNG		専門外国語科目
EEPRA		実習科目
EESEM		演習・卒業論文
EBBUS	経営学科	経営科目群
EBMKT		マーケティング科目群
EBACC		会計科目群
EBSEM		演習科目群
EGALL	国際経営学科	基礎演習
EGEBC		専門外国語 I
EGACA		専門外国語 II
EGPSA		Preparation for Study Abroad
EGSAB		Study Abroad
EGM&S		専門科目 I・II (Management & Strategy)
EGA&F		専門科目 I・II (Accounting & Finance)
EGT&I		専門科目 I・II (Trade & Industry)
EGBCR		BCR (Business Communication & Research)
EGSEM		演習・卒業論文

社会学部

科目群コード	学部・学科等	科目群名称
SGSEM	社会学科	社会学科演習科目
SGBAS		社会学科基礎科目
SGRES		社会調査関連科目
SGMDC		表現・実践関連科目
SGLEC		社会学科専門・講義科目
SGINT		内なる国際化関連科目
SGJPN		留学生向け日本語科目
SGGRA		卒業論文
SGQUA		社会教育士・社会教育主事任用資格関連科目
SWBAS	社会福祉学科	第1群（基礎科目）
SWSPA		第2群（制度・政策）
SWUCL		第3群（対象者理解）
SWSWP		第4群（方法・技術）
SWAVF		第5群（分野）
SWSPL		第6群（特講）
SWSEP		第7群（実習・演習・卒論）
SWOPN		第8群（自由科目）

法学部

法学部では科目ナンバリング「④連続番号の上1桁目（10の位）」を科目分野の細目分類に割り当てている。科目細目の分類および名称は以下の通り。

科目群コード	学部・学科等	科目群名称	科目細目
J-LTH		基礎法学	0:入門・総論 1:法哲学・法理学 2:法制史 3:法思想史 4:法社会学 5:比較法 6:英米法 7:大陸法 8:その他外国法 9:その他
J-PUL		公法学	0:入門・総論 1:憲法 2:行政法 3:租税法 4:政策法務 5:比較憲法・EU法 6:公法演習
J-INL		国際法学	0:入門 1:総論 2:国際公法 3:国際私法 4:国際人権・国籍法 5:国際取引法 6:国際経済法 7:国際民事手続法 9:その他
J-SOL		社会法学	0:入門 1:総論 2:労働法 3:社会保障法
J-CRL		刑事法学	0:入門 1:刑法総論 2:刑法各論 3:刑事訴訟法 4:犯罪学 5:刑事政策 6:刑事法演習
J-CIL		民事法学	0:入門 1:民法総則 2:物権法 3:債権法 4:家族法 5:民事訴訟法・手続法 6:民事執行法・紛争処理法制 7:倒産法 8:民事法演習
J-COL		商事法学	0:入門 1:総論 2:商法 3:会社法 4:金融法・証券法・保険法
J-NFL		新領域法学	0:消費者法 1:情報・メディア法 2:環境法 3:競争法・知的財産法 4:成年後見法制 5:信託法 6:不動産法
J-GLS		グローバル法学研究	0:入門・総論 1:海外法学学習 2:Global Legal Studies
J-POL		政治学	0:入門・総論 1:地方自治 2:政治過程論 3:公共政策・行政学 4:政治理論・政治思想史 5:政治史 6:政治文明論・政治社会学 7:現代日本政治 8:比較政治 9:その他
J-INR	法学部共通	国際関係論	0:国際政治学 1:国際政治経済論 2:国際関係史 3:国際組織論 4:国外政治 9:その他
J-ARS		地域研究	0:グローバリゼーション 1:異文化理解
J-HSI		人文社会情報学	0:情報社会学 1:情報メディア 2:マスコミ論 3:広報メディア
J-FLE		外国語教育	0:英語一般 1:法学英語
J-SAS		留学支援	0:受入留学生科目 1:留学準備講座
J-EBA		経済・経営学	0:経済学 1:会計学
J-STS		統計科学	0:社会統計学
J-ICT		情報科学	0:情報処理 1:情報技術と法
J-ENS		環境科学	0:環境科学 1:持続可能な社会
J-SET		演習・卒業論文	0:1・2年次演習 1:専門演習 2:演習 3:卒業論文 4:演習・卒業論文 9:その他
J-REA		文献講読	0:外国語文献講読 1:専門書講読 2:時事英語
J-IFV		インターンシップ・フィールドワーク・ボランティア	0:インターンシップ 1:フィールドワーク 2:ボランティア
J-CAS		キャリア支援	0:キャリアデザイン講座 1:キャリア形成
J-SLC		特講・講座	0:法律学特講 1:政治学特講 2:総合講座 3:国連大学講座 4:特殊講義
J-ETC		その他	0:法医学 1:リスク評価管理

国際学部

科目群コード	学部・学科等	科目群名称
KSGEN	国際学科	学科基礎科目、演習・卒業論文・実習
KSEIS		専門外国語
KSCSO		学科講義科目（文化）
KSECO		学科講義科目（経済）
KSPOL		学科講義科目（政治）
KSREG		地域研究系科目
KCAEP	国際キャリア学科	学術英語科目
KCGEN		講義科目（学際的科目）
KCCUL		講義科目（文化）
KCSOC		講義科目（社会）
KCECO		講義科目（経済）
KCPOL		講義科目（政治）
KCSEM		演習・実習

心理学部

科目群コード	学部・学科等	科目群名称
PSCRL	心理学科	基礎科目（講義科目）
PSCRP		基礎科目（実験・実習科目）
PSCRS		基礎科目（演習科目）
PSADL		専門科目（講義科目）
PSADP		専門科目（実験・実習科目）
PSADS		専門科目（演習科目）
PSADT		専門科目（卒業論文）
PEAAR	教育発達学科	学科基幹科目（全コースで必修）
PEBAR		基礎科目（全コースで必修）
PEBAP		基礎科目（全コースで選択必修）
PECAP		教職基礎科目（全コースで選択必修）
PEDAO		探究科目（全コースで選択）
PEDCP		探究科目（児童発達コースは選択必修）
PEDSP		探究科目（特別支援コースは選択必修）
PEDTP		探究科目（特別支援コースと児童発達コースは選択必修）
PEDIP		探究科目（国際教育コースは選択必修）
PEDJP		探究科目（国際教育コースと児童発達コースは選択必修）
PEEAO		教職専門科目（全コースで選択）
PEFAO		応用科目（全コースで選択）
PEFSP		応用科目（特別支援コースは選択必修）
PEFIP		応用科目（国際教育コースは選択必修）
PEGAO		卒業研究（全コースで選択）

明治学院共通科目

科目群コード	学部・学科等	科目群名称
MGCHR		キリスト教関連科目
MGENG		言語系科目（英語）
MGFRE		言語系科目（フランス語）
MGCHN		言語系科目（中国語）
MGGER		言語系科目（ドイツ語）
MGSPN		言語系科目（スペイン語）
MGRUS		言語系科目（ロシア語）
MGKOR		言語系科目（韓国語）
MGJPN		言語系科目（日本語）
MGITA		言語系科目（イタリア語）
MGARB		言語系科目（アラビア語）
MGTHA		言語系科目（タイ語）
MGGRE		言語系科目（ギリシア語）
MGLAT		言語系科目（ラテン語）
MGCOM		情報処理系科目
MGSIG		手話
MGEUC		外国文化論科目（ヨーロッパ）
MGASC		外国文化論科目（アジア）
MGPHI		人文科学系科目（哲学）
MGETH		人文科学系科目（倫理学）
MGLOG		人文科学系科目（論理学）
MGLIN		人文科学系科目（言語科学）
MGPSY		人文科学系科目（心理学）
MGEDU		人文科学系科目（教育学）
MGART		人文科学系科目（芸術学）
MGJPL		人文科学系科目（日本文学）
MGJPS		人文科学系科目（日本文化）
MGLAW		社会科学系科目（法学）
MGPOS		社会科学系科目（政治学）
MGSOC		社会科学系科目（社会学）
MGSWS		社会科学系科目（社会福祉学）
MGECN		社会科学系科目（経済学）
MGSTA		社会科学系科目（統計学）
MGHIS		社会科学系科目（歴史学）
MGGEO		社会科学系科目（人文地理学）
MGANT		社会科学系科目（文化人類学）
明治学院 共通科目		

科目群コード	学部・学科等	科目群名称
MGSOS		社会科学系科目（社会科学）
MGMAT		自然科学系科目（数学）
MGPHY		自然科学系科目（物理学）
MGCHE		自然科学系科目（化学）
MGBIO		自然科学系科目（生物学）
MGLIS		自然科学系科目（生命科学）
MGHSS		健康・スポーツ科学系科目
MGIND		総合教育系科目（学際的科目）
MGMGS		総合教育系科目（明治学院研究）
MGENV	明治学院 共通科目	総合教育系科目（環境学）
MGSUS		総合教育系科目（サステイナビリティー学）
MGVOL		総合教育系科目（ボランティア学）
MGLCD		総合教育系科目（ライフデザイン・キャリアデザイン）
MGSEM		総合教育系科目（演習科目）
MGPIO		総合教育系科目（オルガン実習）
MGINT		総合教育系科目（英語で行う科目）
MGCCS		総合教育系科目（異文化コミュニケーション）
MGACW		総合教育系科目（アカデミック・ライティング）
MGRES		短期留学認定科目・中期留学認定科目
MGITS		海外インターンシップ関連科目

2023年度生用 明治学院大学履修要項
【経済学部】

2023年4月1日発行 明治学院大学
東京都港区白金台1-2-37／横浜市戸塚区上倉田町1518

学籍番号

氏名

